富士宮市文化財調査報告書第46集

浅間大社遺跡Ⅲ

—国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2013

富士宮市教育委員会

富士宮市文化財調査報告書第46集

浅間大社遺跡Ⅲ

—国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2013

富士宮市教育委員会

例　言

1　本書は、平成23年度に富士宮市が実施した「国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業」の実施に伴い、平成23年度から24年度にかけて富士宮市教育委員会が実施した浅間大社遺跡発掘調査（立会調査）の報告書である。

2　本事業の調査体制は次のとおりである。

平成23年度　教育長　佐野敬祥
富士山文化課　課長　渡井一信
〃　主幹兼学術文化財係長　馬飼野行雄
〃　主任学芸員　渡井英誉
〃　主査　保竹貴幸
〃　嘱託員　佐野恵里
調査補助員　岩下勉・渋谷政夫・園田勝・堤健一・松野秀一
山田泰三・渡邉剛・渡邉敏雄

平成24年度　教育長　池谷眞德
富士山文化課　課長　渡井一信
〃　主幹兼学術文化財係長　伊藤昌光
〃　主任学芸員　渡井英誉（世界遺産推進室）
〃　主査　保竹貴幸
〃　嘱託員　佐野恵里・今井和代
整理作業員　佐藤節子・城みゆき・西村久美・堀内麻美・渡辺真紀子
渡辺麻里

3　本書の執筆は以下のとおりである。
佐野恵里　第Ⅰ章1・2、第Ⅱ章2～5／保竹貴幸　第Ⅰ章3／
今井和代　第Ⅱ章1／渡井英誉　第Ⅲ章

4　写真撮影は、佐野が担当した。

5　発掘調査及び本書の刊行に関する事務は、富士宮市教育委員会富士山文化課が行った。

6　本調査に関するすべての資料は、富士宮市教育委員会で保管している。

7　本調査の実施にあたっては、次の方々からのご協力を得た。記して感謝します。
池谷初恵・小野正敏・北垣俊明・篠ヶ谷路人・藤澤良祐・堀内秀樹
富士山本宮浅間大社（順不同、敬称略。）

8　本書に関わる遺物の鑑定は、下記の方々に依頼した。
池谷初恵・藤澤良祐(灰釉陶器・中世国産陶器)　／　池谷初恵・小野正敏(貿易陶磁器)
篠ケ谷路人(東遠産灰釉陶器・山茶碗)　／　堀内秀樹(近世以降の陶磁器・土器類)
北垣俊明(石材)

目　次

第Ⅰ章　はじめに
1　地理的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3　調査の経緯と経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第Ⅱ章　出土遺物
1　古墳時代 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
2　平安時代末から中世の陶磁器 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
3　近世以降の陶磁器 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
4　土器類 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
5　その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第Ⅲ章　おわりに
1　まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
2　おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

図版目次

図1　富士宮市位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
図2　遺跡周辺地質図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
図3　周辺の遺跡分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
図4　調査地点位置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
図5　古墳時代土師器・須恵器実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 8
図6　中世国産陶器・貿易陶磁器実測図 ・・・・・・・・・・・・・・ 10
図7　近世陶器実測図1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
図8　近世陶器実測図2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
図9　近世磁器実測図(肥前)1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
図10　近世磁器実測図(肥前)2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
図11　近世磁器実測図(肥前)3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
図12　近世磁器実測図(肥前)4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
図13　近世磁器実測図(瀬戸・美濃)1 ・・・・・・・・・・・・・・・ 17
図14　近世磁器実測図(瀬戸・美濃)2 ・・・・・・・・・・・・・・・ 18
図15　土器類実測図1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
図16　土器類実測図2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
図17　土器類実測図3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

図 18　土器類実測図４　……………………　２３
図 19　土器類実測図５　……………………　２４
図 20　石製品実測図　……………………　２５
図 21　土製品実測図１　……………………　２６
図 22　土製品実測図２　……………………　２７
図 23　金属製品実測図１　……………………　２８
図 24　金属製品実測図２　……………………　２９
図 25　瓦実測図１　……………………　３０
図 26　瓦実測図２　……………………　３１
図 27　銭貨実測図１　……………………　３３
図 28　銭貨実測図２　……………………　３４
図 29　銭貨実測図３　……………………　３５
図 30　銭貨実測図４　……………………　３６
図 31　銭貨実測図５　……………………　３７
図 32　銭貨実測図６　……………………　３８
図 33　銭貨実測図７　……………………　３９
図 34　銭貨実測図８　……………………　４０
図 35　銭貨実測図９　……………………　４１
図 36　再利用片実測図　……………………　４２

挿表目次

表１　周辺の遺跡一覧表　……………………　４
表２　中世土器・陶磁器集計表　……………………　４３
表３　中世土器・陶磁器の構成割合　……………………　４３
表４　近世陶磁器集計表　……………………　４４
表５　近世陶磁器年代別出土数　……………………　４４
表６　近世陶磁器の器種別割合　……………………　４４
表７　古墳時代土師器・須恵器観察表　……………………　４７
表８　中世国産陶器・貿易陶磁器観察表　……………………　４８
表９　近世陶器観察表　……………………　４９
表 10　近世磁器観察表（肥前）　……………………　５０
表 11　近世磁器観察表（瀬戸・美濃）　……………………　５１
表 12　土器類観察表　……………………　５２
表 13　石製品観察表　……………………　５５
表 14　土製品観察表　……………………　５５

表 15　金属製品観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
表 16　瓦観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
表 17　銭貨観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
表 18　再利用片観察表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
報告書抄録

写真目次

写真 1　湧玉池現況
写真 2　湧玉池(明治 23 年頃)
写真 3　浚渫作業風景
写真 4　選別作業風景
写真 5　土師器(図 5－2)
写真 6　須恵器(図 5-36・42)
写真 7　貿易陶磁器 1 (図 6-29・30・40・41)
写真 8　貿易陶磁器 2 (図 6-32・35・36・33・31・38)
写真 9　貿易陶磁器 3 (染付)
写真 10　肥前磁器皿(鍋島)(図 10-49～51)
写真 11　かわらけ 1 (図 15-11)
写真 12　かわらけ 2 (図 15-13)
写真 13　かわらけ 3 (図 16-39)
写真 14　かわらけ 4 (図 16-60)
写真 15　近世上製かわらけ(図 19-187)
写真 16　近代上製かわらけ(図 19-194)
写真 17　近代器種不明土器(図 19-196)
写真 18　近世陶器皿(図 7－5)
写真 19　近世陶器合子蓋(図 7-17)
写真 20　近世磁器碗(図 9-45)
写真 21　近世磁器皿(図 10-58)
写真 22　近世磁器長頸瓶(図 11-61)
写真 23　近世磁器蓋物(図 11-64)
写真 24　近世磁器鉢(図 12-73)
写真 25　土製品(人形・泥面子)
写真 26　銭貨(渡来銭)
写真 27　銭貨(寛永通宝・文久通宝・宝永通宝)
写真 28　金属製品・石製品

第Ⅰ章　はじめに

１　地理的環境（図１・２）

浅間大社遺跡は、富士山の西南麓、標高 120m付近に位置する。遺跡は、浅間大社境内を中心とする範囲であり、富士山の自然湧水である湧玉池(国指定特別天然記念物)を含む。湧玉池は富士山信仰の中心地である浅間大社社殿の東側にあり、ほとりに源泉を覆う水神社が建立され、神聖な場所として現在は例祭が行われている。

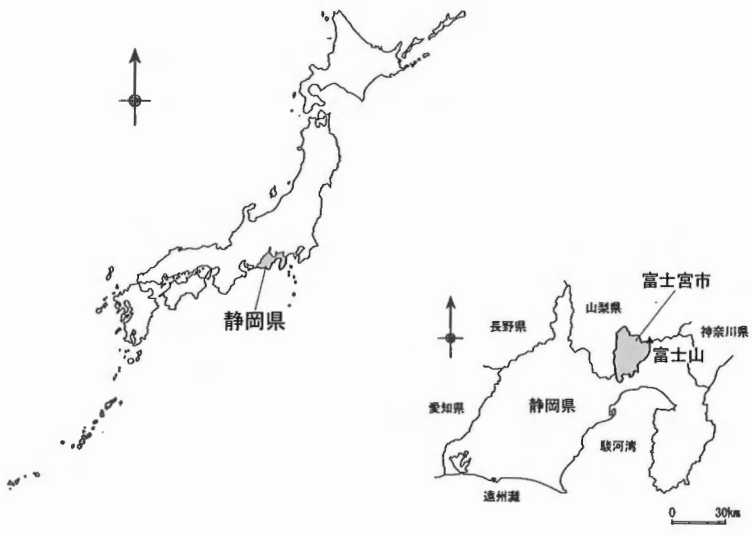


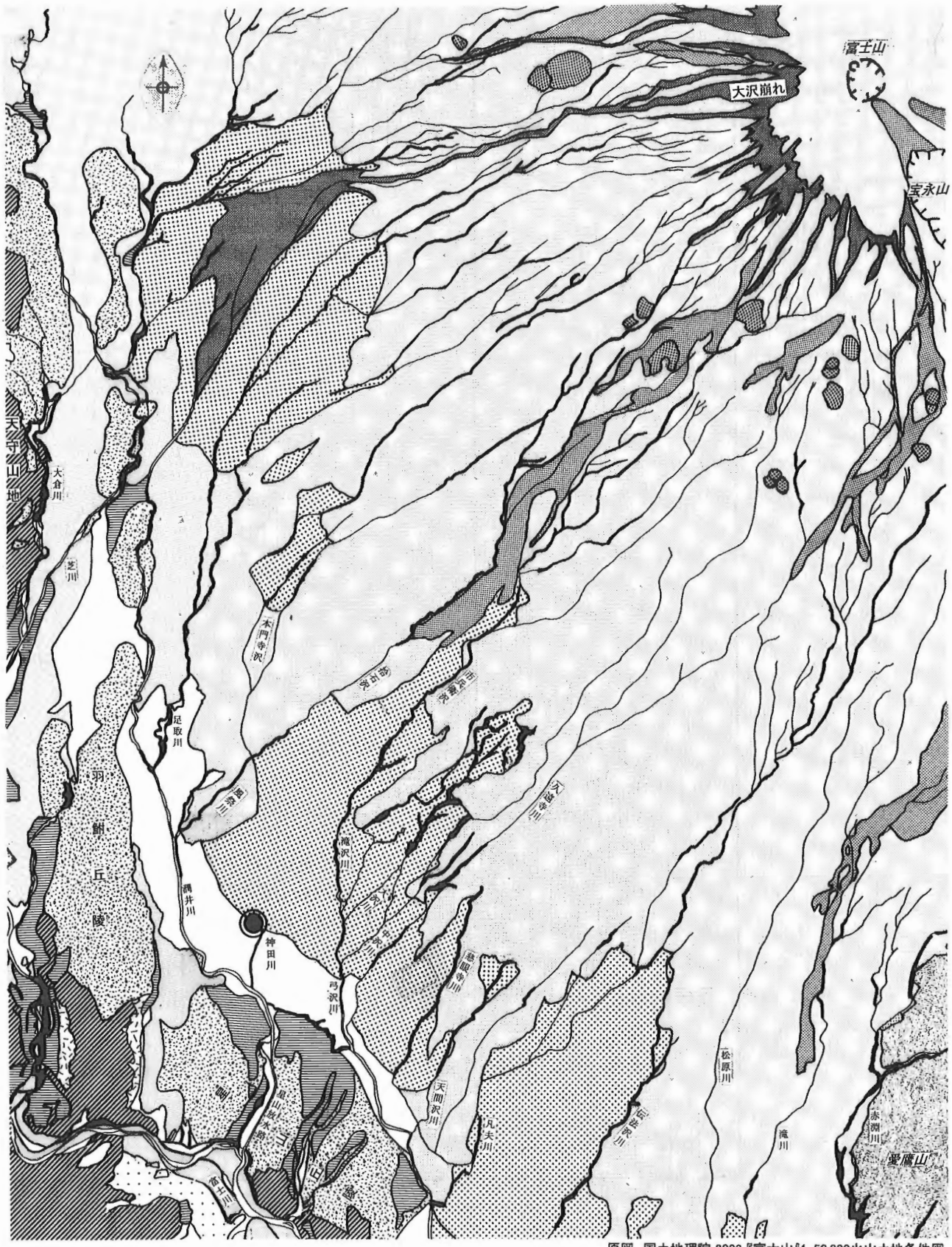
図１　富士宮市位置図

遺跡範囲北側には溶岩流の露呈する丘があり、浅間大社社殿は湧玉池を源流として潤井川に合流する神田川と、溶岩流の間に形成された平坦面に建立されている。この平坦面は、潤井川によって運ばれた砂礫によって形成された沖積地と考えられ、溶岩流末端と潤井川沖積地との境に浅間大社遺跡は位置していることになる。

富士山の裾野には、多くの自然湧水地がある。富士山北麓の富士五湖(山梨県富士河口湖町・身延町・山中湖村)、忍野八海(山梨県忍野村)、富士山東南麓に小浜池(静岡県三島市)、柿田川湧水群(静岡県駿東郡清水町)などがあげられる。富士山西麓から西南麓にあたる富士宮市内には、北から猪之頭湧水群、白糸の滝、よしま池などが点在し、浅間大社遺跡と同じく富士山信仰にかかわる遺跡であり標高 500m付近にある村山浅間神社遺跡にも、境内東端にかつては龍頭の池と呼ばれ、水を湛えていたと考えられる湧水地がある。

富士山における自然湧水は、富士山が噴火を繰り返してできた円錐状の成層火山であることにメカニズムが求められると考えられている。これら湧水地は、多くが、溶岩流の末端に位置し、富士山麓や愛鷹山や箱根山などの周辺の山々に降った雨・雪が地下に浸透し、不透水層と透水層の間に湧出すると考えられている。湧玉池では、重なり合った溶岩と溶岩の間から湧出しているとされ、池を取り巻く溶岩の間や池の底から湧出している様子が観察できる。

富士山は、現在、先小御岳・小御岳・古富士・新富士の４つの火山が積み重なってできたと考えられているが、湧玉池北側の溶岩は、新富士火山の形成時期の溶岩の一つである



原図　国土地理院 2003『富士山』1：50,000火山土地条件図

0　3km

<凡例>　◉ 浅間大社遺跡

- 雪代堆積地・火山麓扇状地(現成)
- 側火山
- 富士火山新期溶岩流（約 2,300 年前以降に噴出した溶岩流）
- 富士火山旧期溶岩流（約 2,300 年以前に噴出した溶岩流）
- 富士火山火山麓扇状地
- 古富士泥流堆積地
- 谷底平野・氾濫原
- 急崖
- 河岸段丘
- 崖錐
- 扇状地・緩扇状地
- 第三紀や第四紀の地層からなる山地や丘陵地
- 愛鷹山火山

図 2　遺跡周辺地質図

万野溶岩流であり、溶岩中にある地下水の流れのうちの一つが、湧玉池を湧出していると考えられている。この万野溶岩流は、約１万年前に噴出したと考えられているため、湧玉池はそれ以降、湧出を始めたと考えられる。ちなみに、同じ新富士溶岩である芝川溶岩流直上に遺構面が確認された国指定史跡大鹿窪遺跡では、出土した縄文時代草創期押圧縄文土器によって^{14}C年代測定された結果、10935 - 10865calBCの測定結果が得られている。そのため、芝川溶岩流は約１万３千年前に噴出した可能性があり、縄文時代草創期を迎える時期、富士山は多量の溶岩を四方に噴出する活発な活動をしていたことが想定される。

富士宮市内には、上記以外にも小規模な湧水地が各所に点在している。市域西端の富士川を除き、他地域から流入する河川のない富士宮市域では、水資源を湧水から流れる小規模な河川や湧水地によっており、遺跡の分布はその有無や粗密に大きく影響を受けている。

浅間大社遺跡周辺は、遺跡分布の密な地域である。湿地帯となる潤井川沖積地を挟んで南北の、微高地となる富士山の山裾と星山丘陵上に、連なるように遺跡が分布している。

２　歴史的環境（図３　表１）

浅間大社遺跡周辺は、先述のように遺跡の分布の密な地域である。滝戸遺跡のように、縄文時代早期から後期後半と、弥生時代後期から古墳時代前期まで集落が連綿と営まれるような遺跡や、泉遺跡や南部ヶ谷戸遺跡、月の輪遺跡群のように弥生時代後期から古墳時代前期に集落や墓域となる遺跡が挙げられる。

このような遺跡分布は、水資源の豊富であること以外に、交通の交差点であることにも起因していると考えられる。潤井川右岸の滝戸遺跡は、富士山の裾野への南西方向の玄関口に位置するし、対岸の浅間大社遺跡周辺は、現在でも富士山の西麓を通って北方の山梨県側へ向かう道の起点となっている。

浅間大社遺跡は、縄文時代からの遺跡として登録されているが、発掘調査で当該期の遺構や遺物が発見されたことはなく、浅間大社社殿への昇降施設建設のために発掘調査した第Ⅵ次調査において発掘された、古墳時代前期の竪穴住居跡が最も古いものである。

これまでの発掘調査では、境内からは社殿建立のためと考えられる造成面が複数面確認され、造成土の中には多量のかわらけが混入していた。境内廻廊外の社殿西側周辺では、第Ⅲから第Ⅴ次調査にかけて、覆土に足高高台坏や柱状高台をもつかわらけを出土した建物跡や、かわらけと貿易陶磁器である青磁連弁文碗を含む土坑、掘立柱建物跡などが確認され、平安時代末から中世前半には、神社に関係すると思われる遺構が発見されている。

浅間大社遺跡と同じく平安時代末に比定される遺構の分布が、湧玉池に端を発する神田川を挟んで東側の高台に見られるようになる。のちに富士大宮司館と呼ばれる居館跡であり、16 世紀半ばの戦国期には、武田氏によって開城させられる大宮城跡である。Ⅳ次にわたる発掘調査の結果、建物跡や溝、堀、井戸などが確認され、出土遺物には多量で豊富な種類の貿易陶磁器が含まれており、中世における富士大宮司の重要性を想定させる資料となっている。なお、大宮城跡の発掘調査では、富士大宮司館跡の下層に古墳時代中期・後

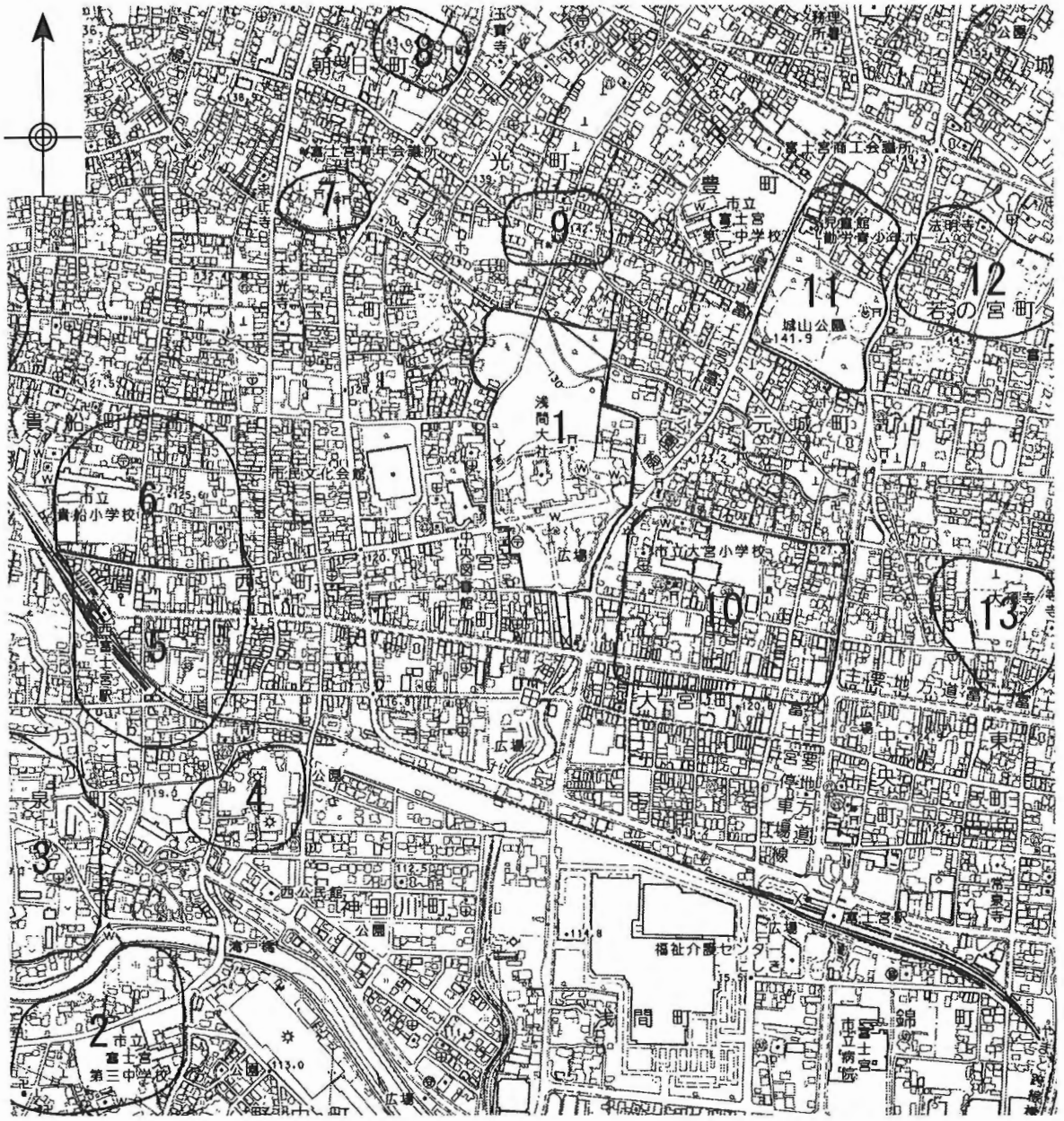


図３　周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	時代	標高	種別	遺構・遺物
1	浅間大社遺跡	縄文(早)、古墳、古代、平安、中世、近世	120	散布・社寺	堀跡、土器、石器、木製品、金属器、陶磁器
2	滝戸遺跡	縄文(中・後)、弥生、古墳	130	集落・古墳・墓	配石遺構、方形周溝墓群、土器、土製品、石器、石製品
3	泉遺跡	縄文(後)、弥生(後)、古墳、平安、近世	125	散布・集落	土器、石製品、銅釧、銅鏃、庄内甕
4	羽衣町遺跡	縄文、弥生(後)、古墳(前)	115	散布	土器
5	西町遺跡	弥生(後)、古墳(前)	120	散布・集落	土器
6	貴船町遺跡	弥生、古墳(前～後)、奈良	120	散布・集落	土器
7	福知神社遺跡	弥生(後)、古墳(前)	138	散布	土器
8	琴平遺跡	弥生、古墳	144	散布	土器
9	二ノ宮遺跡	古墳(前～後)、奈良	142	散布	土器
10	大宮城跡	古墳、奈良、平安、中世、近世	130	散布・集落・城館	土器、土製品、石製品、木製品、金属器、陶磁器
11	城山遺跡	古墳(前～後)、中世	150	散布	土器、陶磁器
12	若ノ宮遺跡	古墳(前～後)、中世	140	散布	土器、陶磁器
13	連雀町遺跡	弥生、古墳	130	散布	土器

表１　周辺の遺跡一覧表

期の集落が発掘され、湧玉池周辺はこれまでのところ古墳時代前期以降、集落として利用可能な地域であったことがわかる。

浅間大社の祭神は、浅間大神または富士大神であり、また、木花之佐久夜毘売命である。神社の起源は噴火を繰り返す富士山を鎮め祀ることにあるとされ、木花之佐久夜毘売命は水徳の神ともされ、湧玉池のほとりに神社を建立した理由にも考えられている。

浅間大社蔵の「絹本著色富士曼荼羅図」(室町時代後期・狩野元信筆・国指定重要文化財)や「富士浅間曼荼羅図」(室町時代末・静岡県指定有形文化財)は、当時の富士山信仰の様子を知ることのできる資料であり、湧玉池も描かれている。湧玉池では垢離をとる人々の姿が見られ、中世末には、湧玉池は富士登山を控えた道者が穢れを祓い身を清める場所であったことがわかる。この禊ぎをする人々の風景は、近世を経て、昭和初期までは続いていたとされるが、現在では全く見られなくなっている。戦後は、時代の変化に伴い登山の方法も変化し、レジャーとしての富士登山者がほとんどになり、湧玉池は、昭和19年(1944)に国指定の天然記念物、その後昭和27年(1952)特別天然記念物に指定され、環境を保護されるに至っている。

3　調査の経緯と経過（図4　写真1～4）

国指定特別天然記念物「湧玉池」は富士宮市内の富士山本宮浅間大社の境内にあり、富士山体や山麓の雨水や雪解け水が湧き出して池となったもので、平安時代の和歌に詠まれるなど古くから名所として知られている。湧玉池は、本殿に隣接し富士登山の際に水垢離が行われていた上池と、上池の湧水や北側からの湧水からなる下池の2つの池で構成されている。

湧玉池は埋蔵文化財包蔵地である「浅間大社遺跡」の範囲に含まれている。縄文・古墳時代から浅間大社に関係する古代から中世・近世・近現代の遺構・遺物が確認されている、複合遺跡である。

湧玉池の上池については、近年湧水量が落ち込み池に水が滞留した結果、藻が繁殖するなど水質や景観に影響が出始めていた。そこで、富士宮市は湧玉池の環境改善・水量再生を目指し、「国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業」を計画した。はじめに池の底に堆積した土砂等の状況を確認することになり、打ち込み式サンプラーを使用して堆積土砂の試料の採取を行うこととなった。

試料採取にあたり実施範囲が埋蔵文化財包蔵地内であったため、実施者である富士宮市は、土砂採取について平成21年6月3日付けで文化財保護法第94条に基づき県に通知し、平成21年6月25日付けで富士宮市教育委員会が工事立会いを行うよう指示があった。

試料の採取は平成21年10月6日から20日まで行われ、採取した土砂には中世から近世までのかわらけ・陶磁器などの遺物が含まれていた。

この試料採取の結果を基に、富士宮市は地質学の専門家の意見を得て、堆積土砂を取り除き上池の湧水量の回復を図ることとなった。池を構成する溶岩を傷つけることがないよ

う、池に堆積した土砂をバキューム車によって吸引する吸引浚渫工法で行うこととなった。

この作業において除去される土砂に遺物が含まれていることが想定されたため、富士宮市教育委員会は静岡県教育委員会及び富士宮市の担当課である環境森林課と協議を行い、工事に立ち会い、除去した土砂から遺物を選別して採取することとなった。

そこで、富士宮市は、土砂浚渫について平成23年8月29日付けで文化財保護法第94条に基づき県に通知し、平成23年9月13日付けで富士宮市教育委員会が工事立会いを行うよう指示があった。

これを受け、富士宮市は採取した土砂や割石を旧県立高等農業学園跡地に搬出し、富士宮市教育委員会が遺物の選別・採集を行ったあと、土砂等を処分することとなった。

遺物の選別・採集は平成24年1月23日から平成24年3月8日にかけて行い、平成24年4月2日から平成25年3月29日まで資料整理を行った。

本報告書は、この一連の過程において採取された遺物の資料整理を行ったものであり、浅間大社遺跡第10次発掘調査と位置づけ報告するものである。

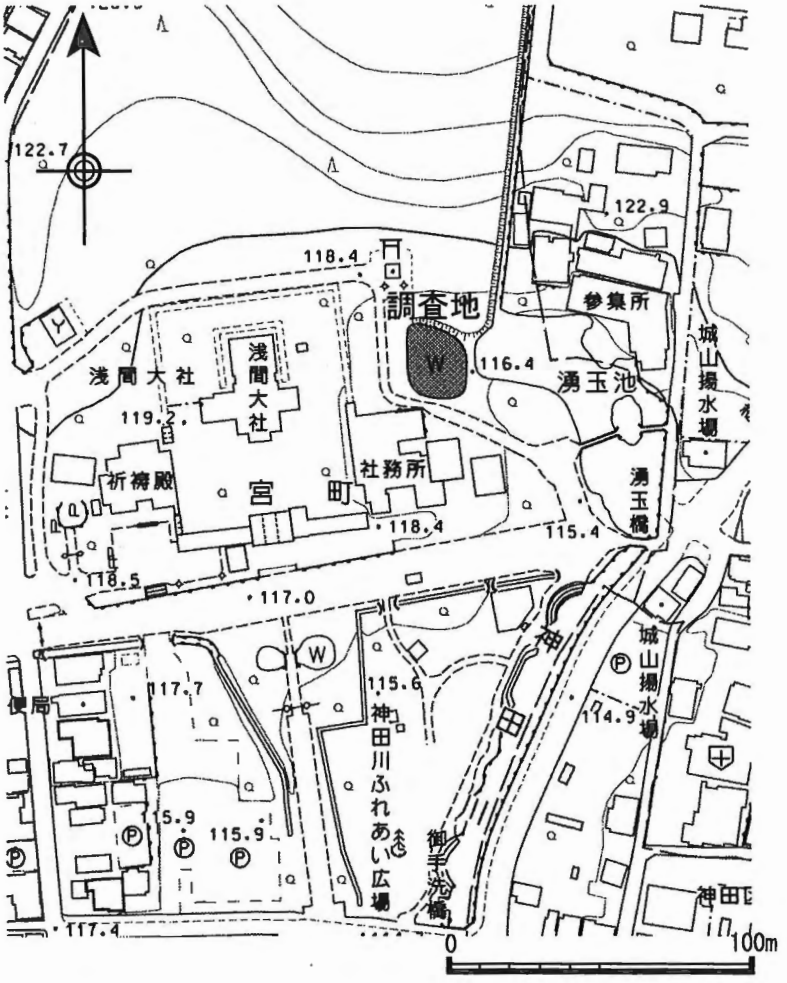


図4　調査地点位置図

第Ⅱ章　出土遺物

出土遺物は、湧玉池浚渫作業に伴って堆積した土砂とともに搬出されたため、層位や出土位置については不明となっている。そのため、土器類や陶磁器、土製品、銭貨など年代の判明するものは年代別に記載したが、石製品、金属製品など帰属年代が不明なものについては形態別に記載している。

1　古墳時代

（1）土師器（図５－１～５　表７　写真５）

今回の調査では、わずかではあるが古墳時代の土師器が確認されている。確認されたほとんどのものが著しく磨滅しており、内外面ともに調整が不明瞭なものであった。

（2）須恵器（図５－６～42　表７　写真６）

また、今回の調査では小片ばかりだが、須恵器片が一定量得られている。口縁端部などの時期を示す資料は少ないが、富士宮市内では須恵器の出土自体が少ないため、今回の調査においてさらに情報が加わったこととなる。

この中で、TK208～23 段階の広義である初期須恵器が確認されたことが大きい成果と言えよう。ほとんどが壺または甕胴部の破片であるが、６のような坏身片が得られている。さらに、９～17、19～22 の破片は内外面が黒っぽく、断面が赤褐色でなおかつ、一部には外面や内面をナデ消しのものがある。これらは小片のため器種は特定できないがこうした特徴から初期須恵器片と考えることができる。また、今回図化できなかった須恵器の小片も多くあり、その中にも初期須恵器と考えられる破片も含まれている。初期須恵器は富士宮市内では、大宮城跡（第１～４次調査）で発見されたもののみであり、今回調査を行った湧玉池を含む浅間大社遺跡とは隣接している。大宮城跡の報告書でも指摘されていたが、富士地区における初期須恵器の広がりは、富士地区においては潤井川を介しての搬入ルートが想定できよう。

この他、きめが細かく白っぽい胎土の破片が多く、自然釉が付着しているものも多い。このような特徴は湖西窯産の須恵器にあることから、この地域にも多くの湖西産のものが供給されていたことが看取できる。実際に湖西産のものは７世紀後半頃から全国的に流通し、こうした現象の一端を反映していると言えよう。

以上のように、今回の調査では、４世紀から８世紀にかけての遺物を得ることができた。これまで湧玉池を含む浅間大社遺跡では弥生時代後期の土器や古墳時代の竪穴住居等の遺構が確認されている。さらに、隣接する大宮城跡においても古墳時代中・後期の集落が発見されていることから、付近では弥生時代後期から古墳時代後期まで継続的に、かつ拠点的な集落が展開していたことが窺える。

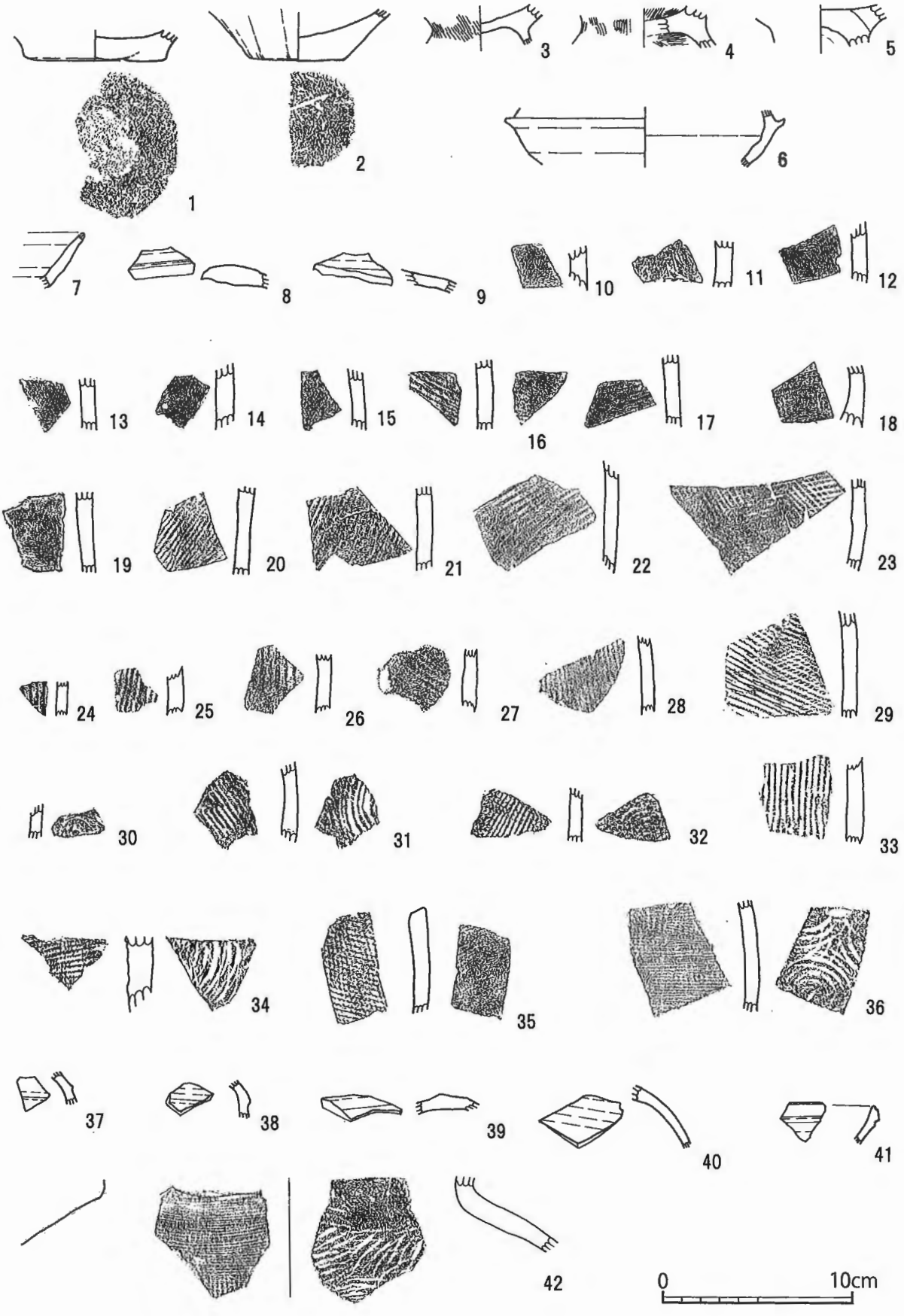


図５　古墳時代土師器・須恵器実測図

2　平安時代末から中世の陶磁器

（1）　国産陶器（図６－１～28　表８）

出土した国産陶器は灰釉陶器、山茶碗・渥美産陶器・常滑産陶器・瀬戸美濃産陶器・志戸呂産陶器、初山産陶器である。そのうち、図化可能なものを図示した。

２～４は灰釉陶器碗である。東遠産で灰釉陶器終末の 11 世紀後半である。１・５～７は山茶碗である。５は片口鉢あるいはこね鉢、１・６・７は碗である。１は、胴部であり、外面に若干稜が認められる。稜より上部はヨコナデの痕が顕著である。１・５・６は東遠産、７は渥美産の可能性がある。５・６は 12 世紀前半、１・７は 12 世紀代のものである。

８～27 は渥美産と常滑産の甕・壺などである。15・16 が渥美産のほかはすべて常滑産である。渥美産では他に片口鉢、常滑産では片口鉢・小型壺が出土している。口縁部の形状より８・12 は 12～13 世紀、９は 14 世紀前半、10・11 は 15 世紀後半～16 世紀前半の年代が考えられる。14～24 は外面に押印文が見られる。いずれも 12～13 世紀のものである。25・26 は横位の沈線が見られるもので、壺の可能性がある。27 は器種不明のもので、横位の沈線が見られる。

28 は志戸呂産の擂鉢である。15 世紀中頃のもので、志戸呂産の擂鉢は再利用片にも見られる（図 36-１）。

（2）　貿易陶磁器（図６-29～41　表８　写真７・８）

貿易陶磁器は、白磁・青磁・青白磁・天目茶碗が出土した。そのうち図化可能なものについて掲載した。

29・30 は白磁碗である。30 には劃花文が見られ、いずれも 12 世紀のものである。31～37 は青磁碗で、いずれも龍泉窯系のものである。31 は劃花文が見られる碗の底部で 12 世紀中葉、33～37 は鎬連弁文の碗で 13 世紀中葉のものである。39 は青磁の盤で 14 世紀のものである。38 は筒状の器形の一部で、青磁の袋物の一部とされた。外面には陽刻・陰刻で精緻な波状の文様が見られ、内面にも釉薬が掛けられている。40・41 は青白磁で、40 は梅瓶の口縁部、41 は合子の蓋である。

3　近世以降の陶磁器

（1）　近世陶器（図７・８　表９　写真 18・19）

陶器は、近世までのもので、擂鉢の破片などを除き、図化可能なもの 21 点を掲載した。16 が京・信楽産、20・21 が肥前産のほかはすべて瀬戸・美濃産である。年代は、17 の瀬戸・美濃産合子蓋が 17 世紀前半、20 の肥前産碗と 21 の肥前産鉢が 17 世紀後半から 18 世紀前半に比定されるが、ほとんどは 18 世紀中頃以降のものである。

瀬戸・美濃産陶器は、器種は筒型碗を含む碗（１～３）、皿（４・５）、鉢（６・12）、徳利（７・８）、擂鉢（９・10・22～26）、鍋（11）、灯明皿（13～15）、合子蓋（17）、餌入れ（18）、赤目土瓶蓋（19）がある。碗・皿・鉢・擂鉢・灯明皿などはこれまでの第Ⅰ次・第Ⅱ次調査などや村山浅間神社遺跡出土資料にも含まれているものである。初出の資料として合子蓋と餌入

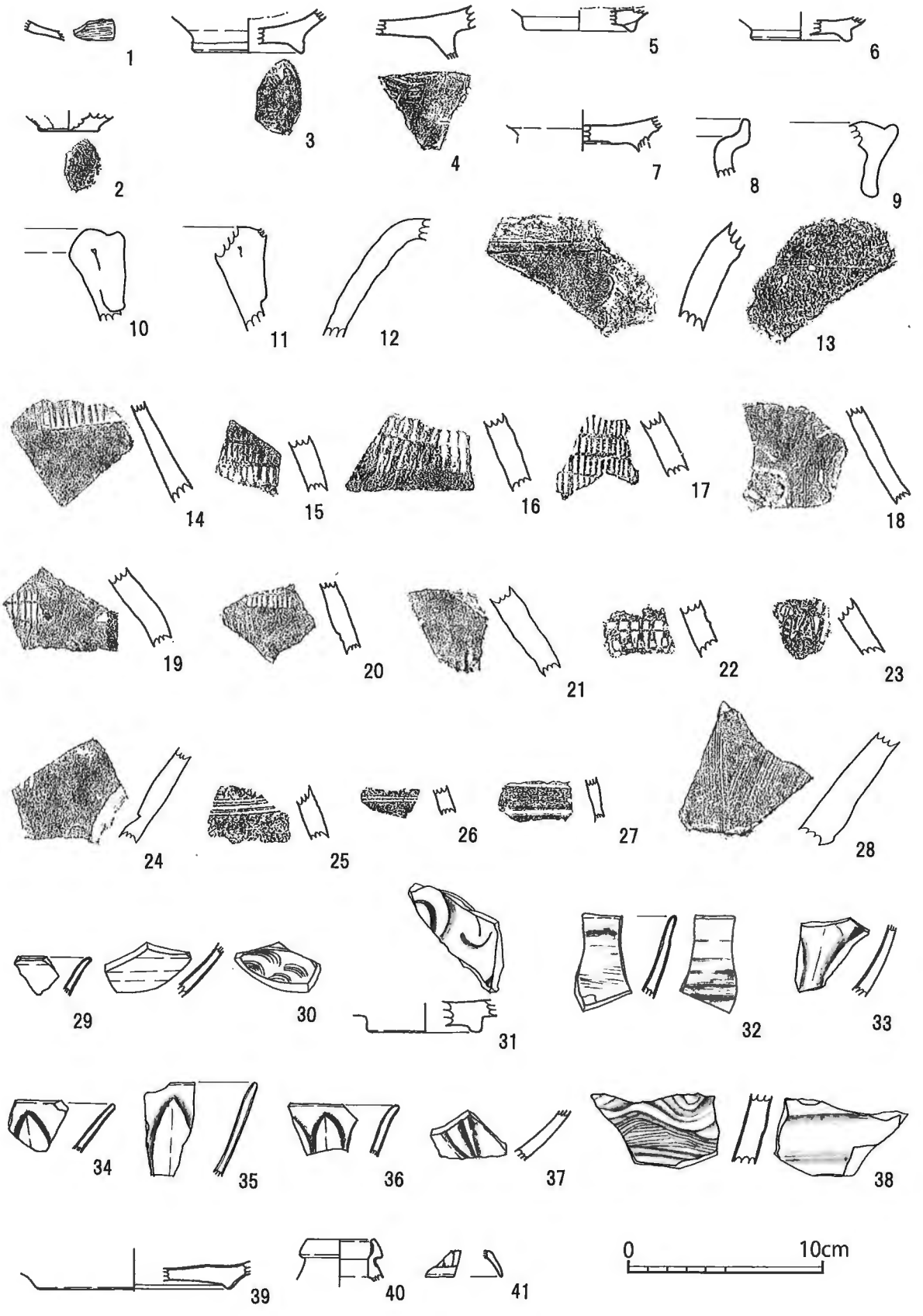


図６　中世国産陶器・貿易陶磁器実測図

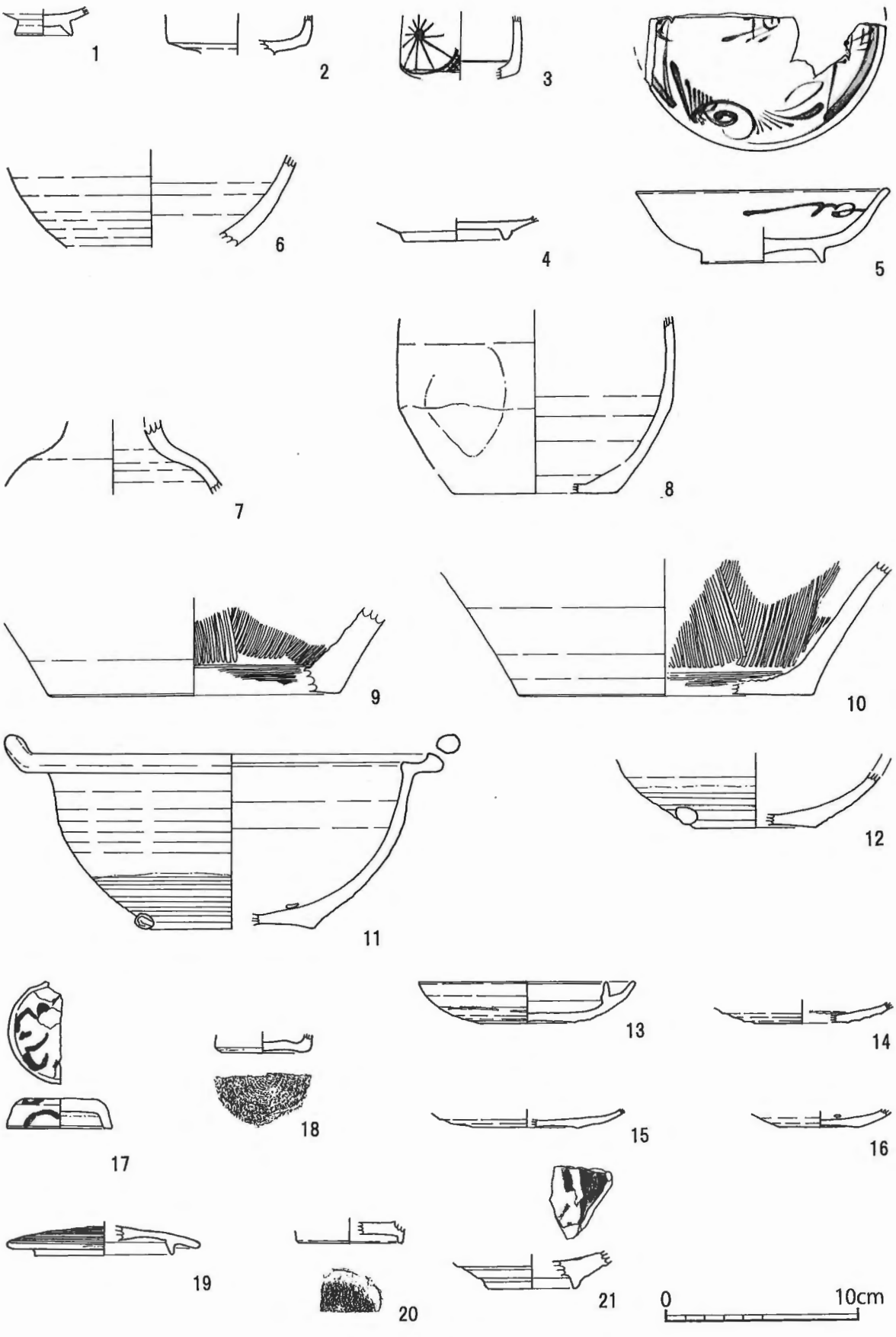


図７　近世陶器実測図１

れがある。合子蓋は、外面に鉄絵が見られ、長石釉が掛けられている。鉄絵の文様展開は不明である。

肥前産陶器は、先述のように碗(20)と鉢(21)がある。碗(20)は黄白色系の胎土で内面には灰色の釉薬が掛けられている。高台から高台内にかけて露胎であり、高台内には「木」と読める刻印が押されているが、残存状況により刻印の全容は不明である。京焼風陶器かと思われる。鉢(21)は、刷毛目の鉢に見られるような釉薬が見られる。高台とほぼ同じ位置の内面に砂目あるいは胎土目積みの跡が見られる。

京・信楽産の陶器は、灯明皿(16)がある。外面は底部から胴部にかけて露胎で、内面は釉薬が掛けられているが、透明釉と思われ、黄白色の胎土と同様の色調となっている。釉には貫入が見られる。

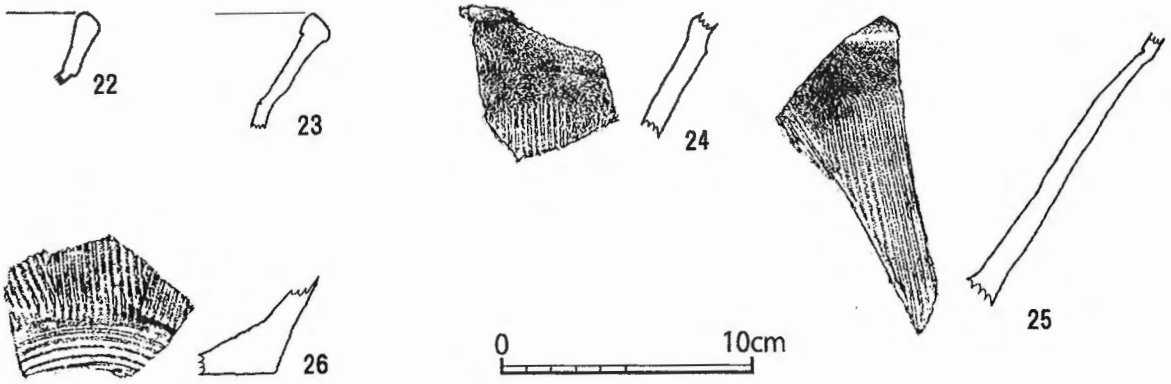


図8　近世陶器実測図2

（2）　肥前産磁器（図9～12　表10　写真20～24）

近世までのもので、図化可能なもの50点を掲載した。碗(27～45)、鍋島窯のものを含む皿(46～58)、坏(59・60)、瓶(61・62)、蓋物(63～67)、香炉(68・69)、鉢(71～76)、器種不明(70)がある。年代は、染付皿(46)が17世紀前半、染付坏(59)が17世紀末から18世紀前葉に比定され、17世紀代に遡る以外は、18世紀以降のものであり、陶器と同じく、18世紀中頃から19世紀中頃の幕末までのものが多くなっている。

碗は、半球碗(27・28・33・34)、くらわんか碗(29～32)、筒型碗(36～39)、広東碗(40～42)、端反碗(43)、湯呑碗(44)、瑠璃釉碗(45)、その他碗(35)がある。呉須による染付が見られるものが多いが、小破片な資料のため、文様展開は不明なものが多い。33・34の半球碗は、見込菊花文で胴部内外面ともに網目文様が展開し、同一個体の可能性もある。40の小広東碗は、小破片のため文様展開は不明だが、3本単位の網目文の可能性がある。41の広東碗は、見込文は小破片のため詳細は不明だが、極太図となる可能性がある。42の広東碗は、見込に鷺文、高台内に草花文が描かれる。草花文は、葉の形状より2種類の花が描かれていると思われる。

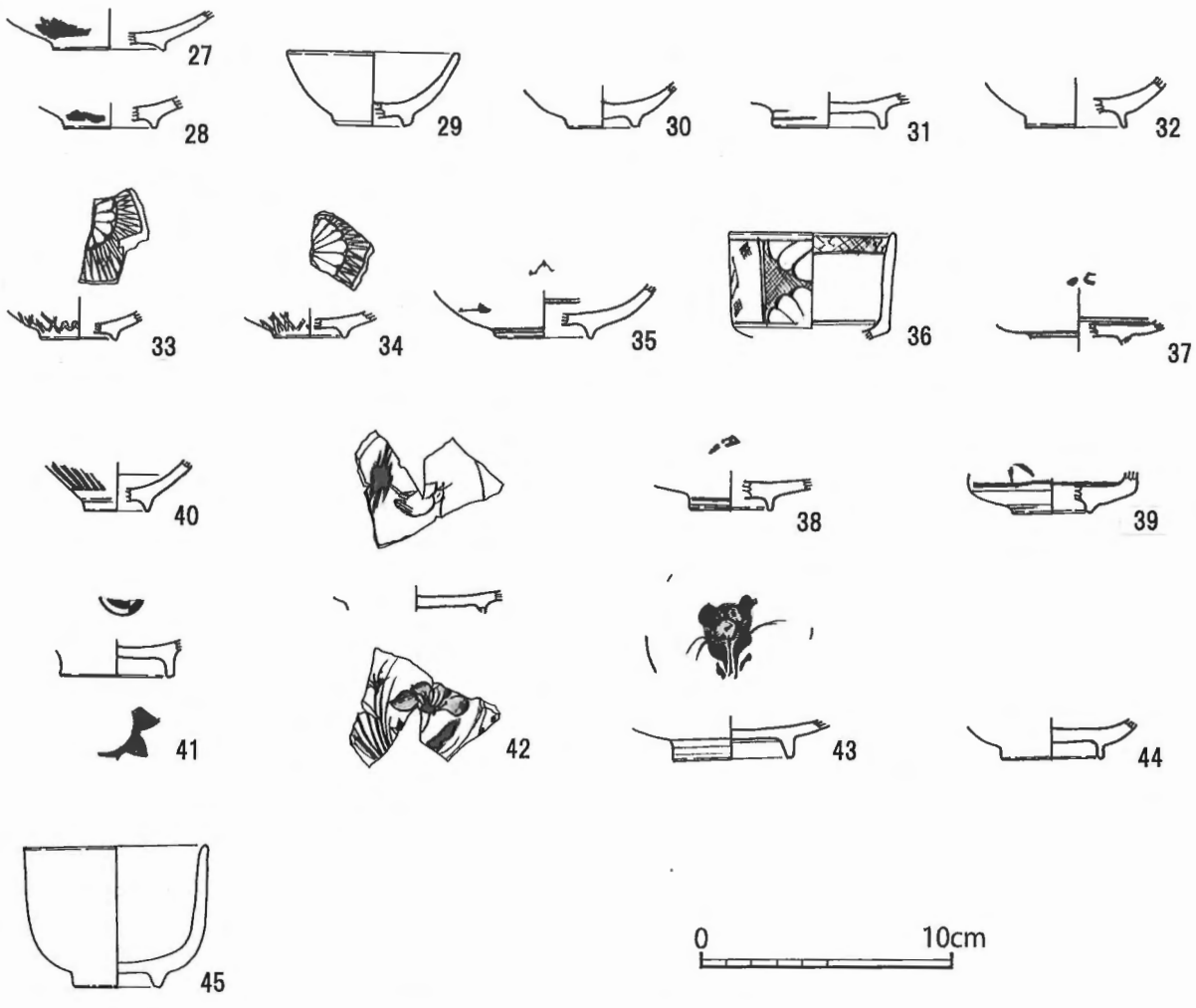


図９　近世磁器実測図（肥前）１

皿は、日用品となるもの(46～48・52・53)と、鍋島の五寸皿(49～51)、志田窯のもの(54～58)がある。鍋島の五寸皿は、18 世紀中葉～幕末に比定され、呉須によって横方向に展開する花唐草文が口縁内面から描かれている。白色度の強い釉と薄い器壁で他の製品とは異なっている。また、志田窯に比定される皿は、器形を復元できるものが 54・58 のみであったが、58 などは口径が 30 ㎝弱と一尺近くなり、いわゆる尺皿となると思われる。57 については焼継痕が見られた。他の破片についても、器壁が厚く、比較的大きな皿となる可能性がある破片が多くみられた。志田窯のものは、いずれも染付の発色も鮮やかで透明感のある釉がかけられている。いずれも 19 世紀前葉から後葉のものである。

坏は、いずれも呉須による染付のもので、59 は 17 世紀末から 18 世紀前葉のもので、口縁が端反となる可能性がある。60 は、底径が小さく外側に大きく膨らむ器形となる。19 世紀中葉のものである。

瓶類は、いずれも呉須による染付のもので、19 世紀前葉から中葉に比定される。61 は胴部に蛸唐草の描かれる小瓶で徳利として使用されたと思われ、62 は最大径 17 ㎝弱の大瓶である。

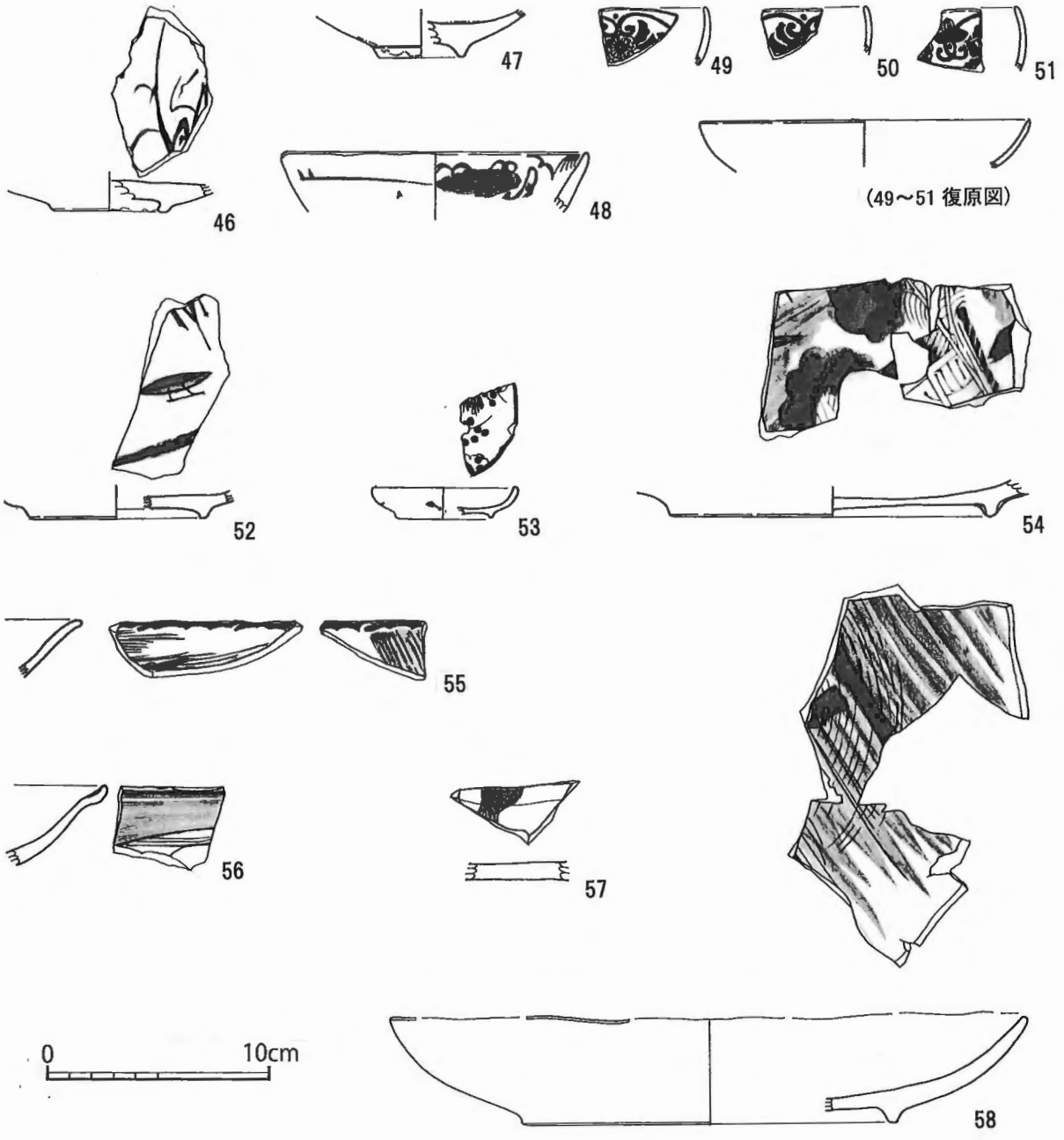


図 10　近世磁器実測図（肥前）2

蓋物は、呉須による染付が見られるものがほとんどで、すべて 19 世紀前葉から中葉に比定される。63 は、上絵付けによる色絵の蓋で、色は赤色を主体に緑色も見られる。また、焼継痕もあり、内面には朱書きが見られる。65～67 は底部張出し部分に段がつき、段重と考えられる。

香炉は、いずれも青磁香炉で、68 は口縁部、69 は胴部である。青磁は、内面は口縁端部から少し下がった部分までで、胴部には掛けられていない。同一個体の可能性もある。

鉢は、いずれも呉須による染付のもので、19 世紀中葉に比定される。71・72 は同一個体、

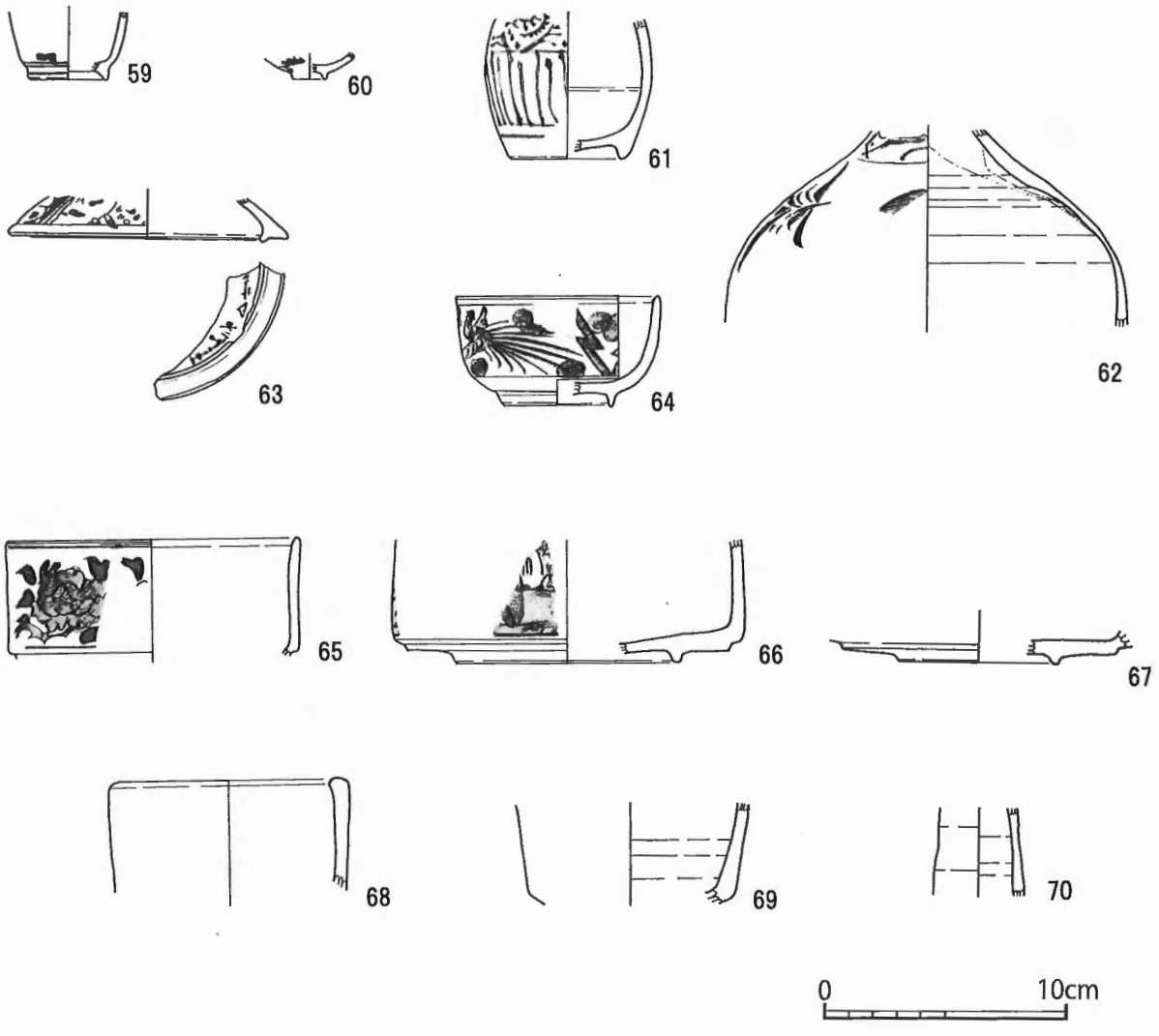


図 11　近世磁器実測図（肥前）3

73・74 も同一個体である。底径から、75 は小鉢、76 は中鉢、口径から 73 は大鉢であると思われる。71・72 と 73・74 は多角形鉢で、前者については復元できなかったため角数は不明だが、73・74 は十二角になると思われる。71・72 は内面と外面で文様が異なるが、73・74 は同じ文様を展開し、内面胴部は無文のようである。

70 は、内外面とも釉薬が掛けられるもので、器種不明である。

（3）　瀬戸・美濃産磁器（図 13・14　表 11）

図化可能なもので、近世のもの(77～109)、近代のもの(110～115)39 点を掲載した。

近世は、碗(77～97)、皿(98～104)、坏(105・106)、香炉(107)、紅皿(108・109)があり、瀬戸窯で 19 世紀初頭に磁器生産が始まってから少したった 19 世紀中葉のものがほとんどであるが、19 世紀前葉のものも少量含まれている。いずれも呉須による染付のものである。近代のもので図示した碗(110～115)は、いずれも 20 世紀前半のものである。

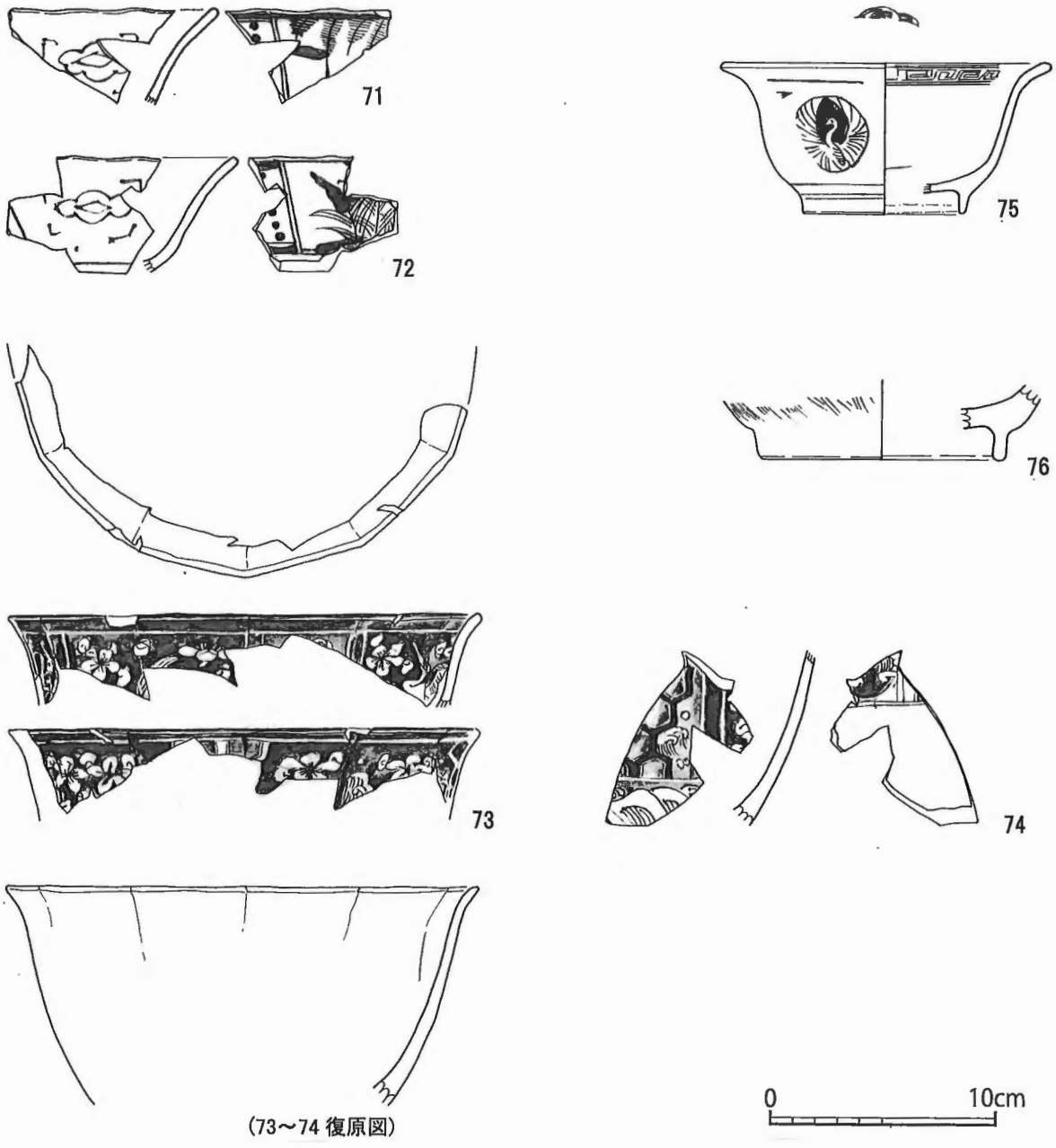


図 12　近世磁器実測図（肥前）4

碗には、湯呑碗(77～87)、端反碗(88～95)、丸碗(96・97)がある。77～80 の湯呑碗は、底径４㎝前後と同規格であり、78 は外面胴部に山水文も見られるが、松葉文が描かれる点で共通している。83 と 84 の湯呑碗も、器壁が薄手で外面胴部に草花文と蝶のような文様が描かれている点は共通している。89～91 の端反碗は、外面胴部に重ね花文が見られる点が共通している。96・97 の丸碗は、胴部外面に松葉文が見られる点が共通している。このように、瀬戸・美濃産磁器碗は、各器種において複数個体出土している点は、これまで見られなかった出土状況である。

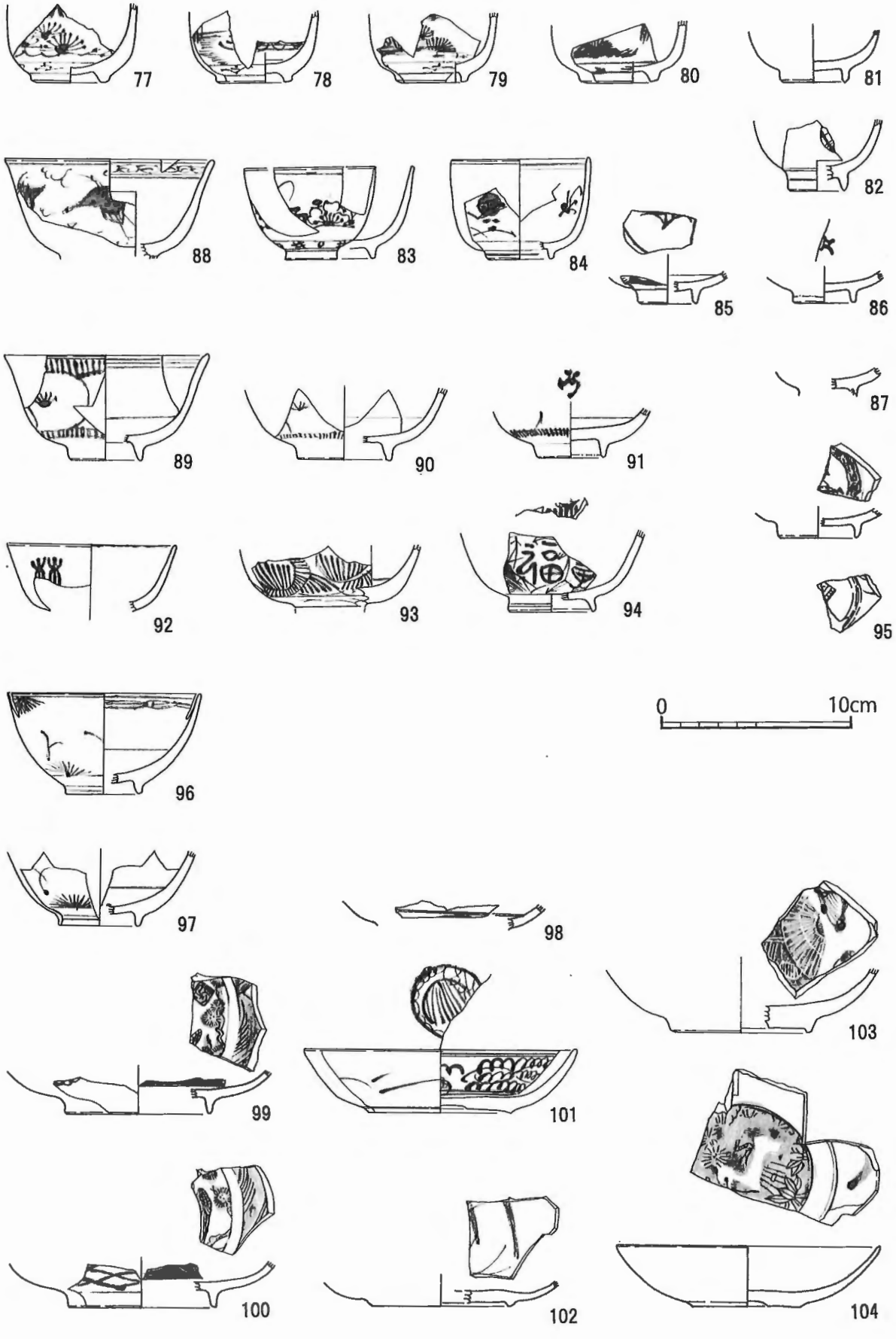


図 13　近世磁器実測図（瀬戸・美濃）1

皿は、98 は 96・97 の丸碗に仕上がりがよく似ている。99・100 は接合しなかったものの、松文が描かれ、同一個体の可能性がある。99 には見込文に銘が見られる。103・104 は蛇の目高台である点が共通しているが、底部の厚さや内面の文様に違いが見られ、別個体である。101～104 は蛇の目高台である。

坏は、見込に壽文を刻印した壽文杯である。105・106 の２個体出土している。

香炉は青磁である。内面は露胎で、高台内は透明釉かと思われる白色系の釉薬が掛けられている。

紅皿は、108・109 ともに外面に蛸唐草文が陰刻でみられ、内面は透明釉かと思われる白色系の釉薬が掛けられている。

110～115 の碗は、20 世紀前半のもので、外面に「淺間大社」の文字が一字づつ、青色で上絵付けされている。文字は左回りで展開している。見込には浅間大社の紋である丸に棕櫚の紋が見られ、浅間大社の特注品であると思われる。

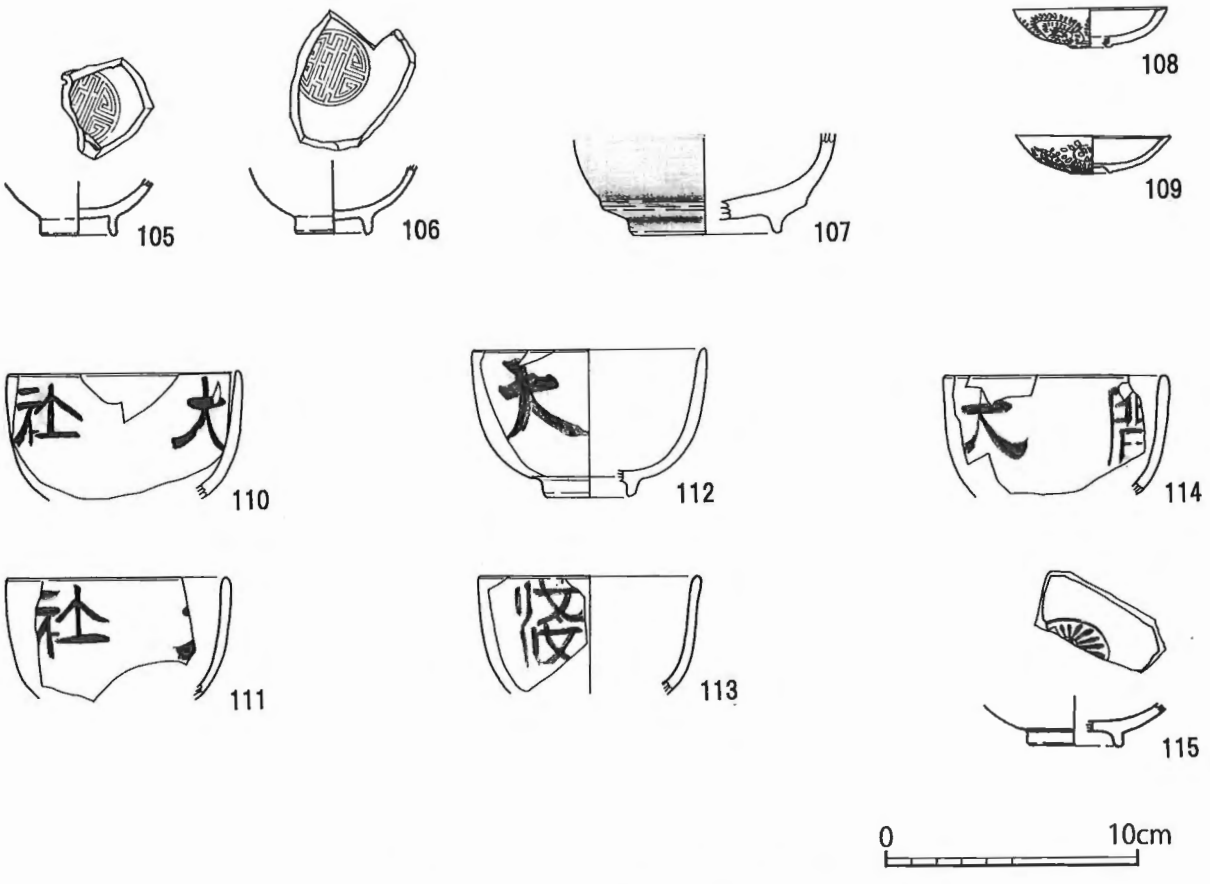


図 14　近世磁器実測図（瀬戸・美濃）2

4　土器類

（1）　平安時代末から中世(図 15～19-1～186　表 12　写真 11～14)

高台付坏(1～10)、柱状高台かわらけ(11～26)、その他かわらけ(27～186)がある。

いずれも小破片で接合できる資料も少なく、器形全体の様相がわかるのは柱状高台の 11・13・14 と、39～44、器高の低い皿状の 50～54 である。他はほとんどは底部のみであるため、細分はできなかった。

高台付坏の高台の形状には様々なものがある。9・10 のようにわずかに高台と認識できるものもある。

柱状高台かわらけは、本調査において初めて、全容の知ることのできる 11・13・14 といった資料を得た。柱状高台にも様々な形態があり、末広がりの脚部もの(11～18)、円柱状のもの(20・22～24)がある。また、21・25・26 のように底部が厚くつくられたものも見られる。14 の底部外面には墨書かと思われる部分が見られる。

底部が厚く胴部との境が明瞭である 32～37 は、胴部が横に広がり皿状となるようである。同じく底部が厚く胴部との境が明瞭である 55～60 は、胴部の器壁が薄くなって急激に立ち上がる形状で、やや深い皿状となるようである。72～82 は、底部と胴部の境が不明瞭となるものの、胴部の器壁は底部に比べて薄く、さらに深い形状となるようである。

また、底部見込が平らで皿状になるもの(102～111)、坏状になるもの(112～118)も見られる。

169～171 は、器壁が薄く胴部が大きく広がる器形で、前述のものと異なり大宮城跡から大量に出土した 15～16 世紀代のかわらけと思われる。出土したほとんどのかわらけは、15～16 世紀より古い段階のかわらけである。出土したかわらけのうち、平安時代末から中世のかわらけが占める割合は約 94%となっている。

（2）　近世（図 19-187～190　表 12　写真 15)

187～189 は、丁寧に器面にミガキがほどこされている上製かわらけである。190 は底部の糸切痕が未調整のかわらけである。近世に比定されるかわらけの出土は、浅間大社遺跡で初出である。出土したかわらけのうち近世のかわらけが占める割合は、ごく数点の出土であるため 1 %以下である。

（3）　近代以降(図 19-191～198　表 12　写真 16)

191～195 は、近代の上製かわらけと考えられる一群である。外面の口縁部から胴部中ほどまでは明瞭にロクロ目を残すが、胴部中ほどから底部までと、内面は丁寧になで消されている。口径は 25 cm弱の 191～193、18 cmほどの 194 の二種類ある。196・197 は器種不明のもので、上製かわらけより軟質である。頸部にロクロ目を残し、口縁部はなでられている。口縁部内面は焼成時のものか、色調が橙色に変化している。

198 は、内面に淺間大社銘の陽刻された現代の上製かわらけである。混入物の少ない白色の胎土でロクロ目が丁寧になで消されている。

出土したかわらけのうち近代以降のかわらけが占める割合は約 6 %である。

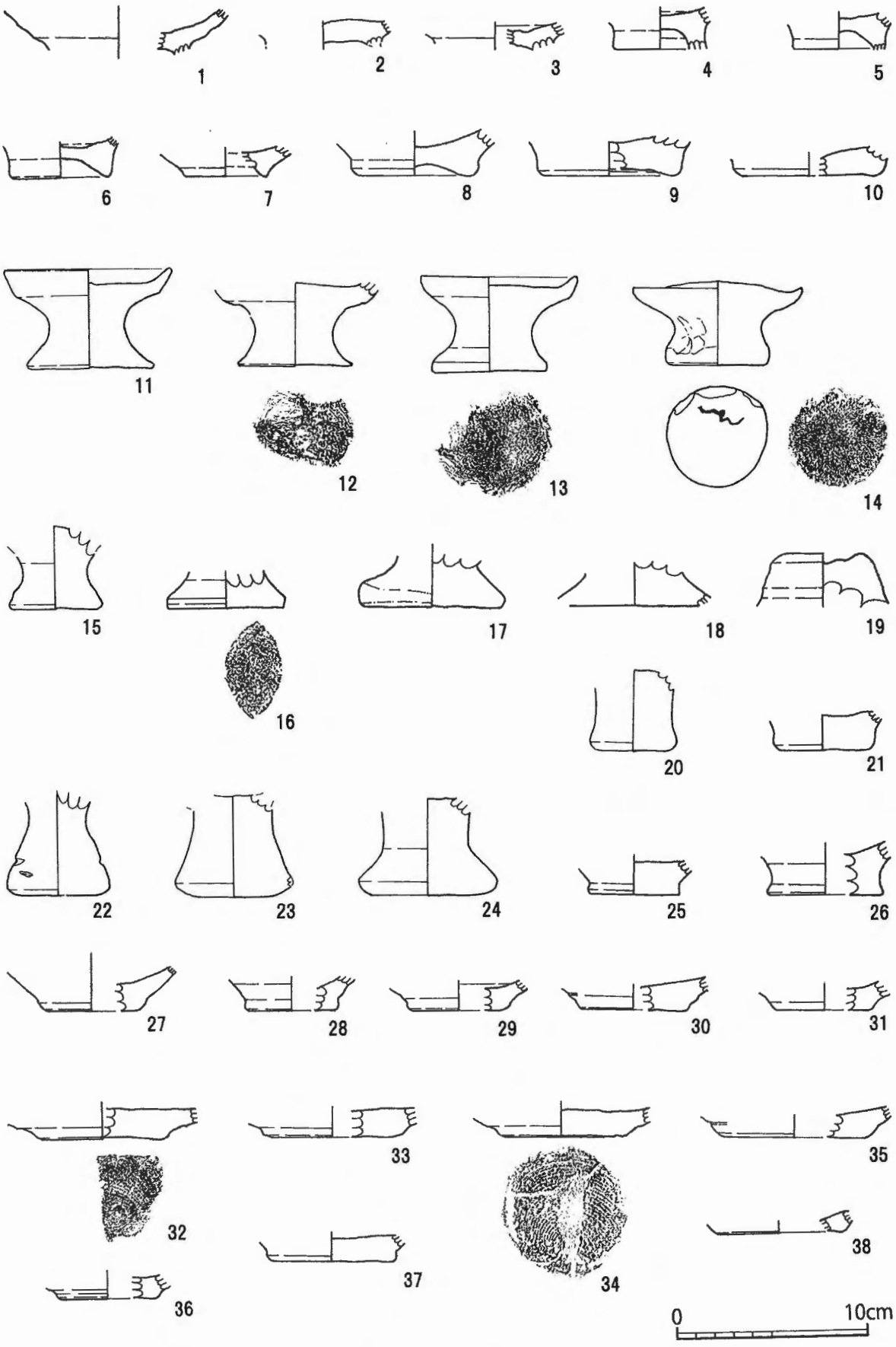

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
0
10cm

図 15　土器類実測図 1

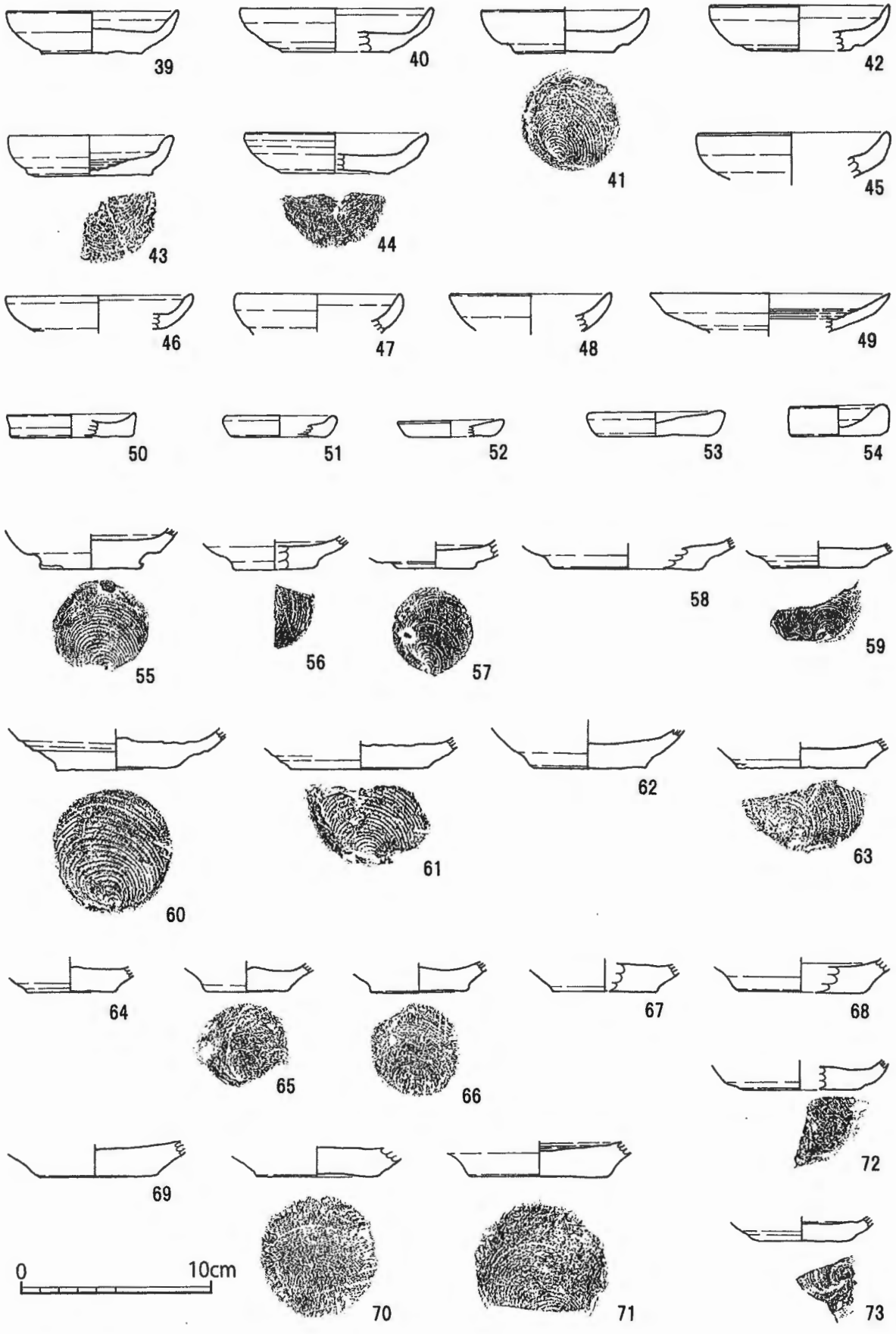

39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
0
10cm

図 16　土器類実測図 2

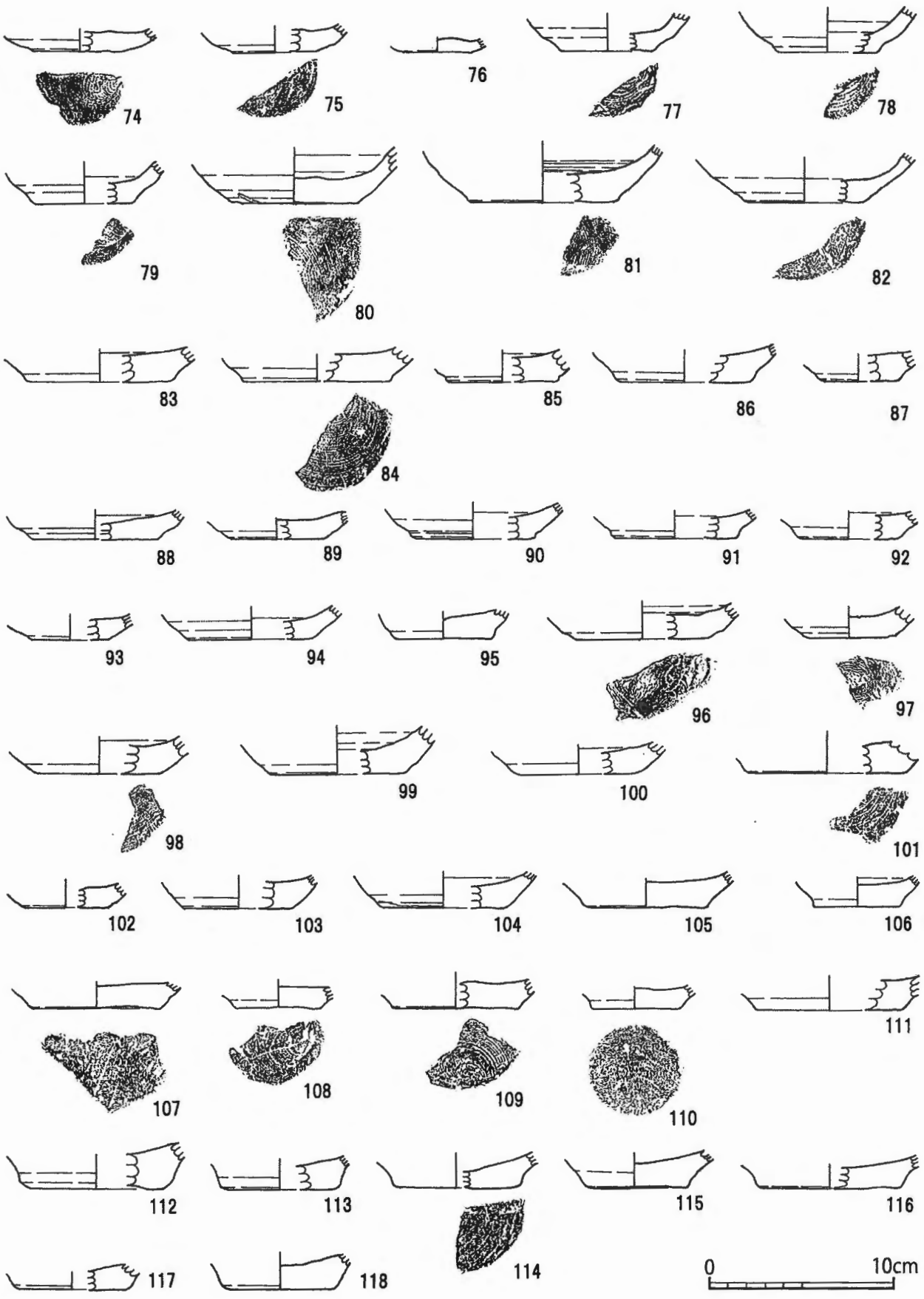

74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
0
10cm

図 17　土器類実測図 3

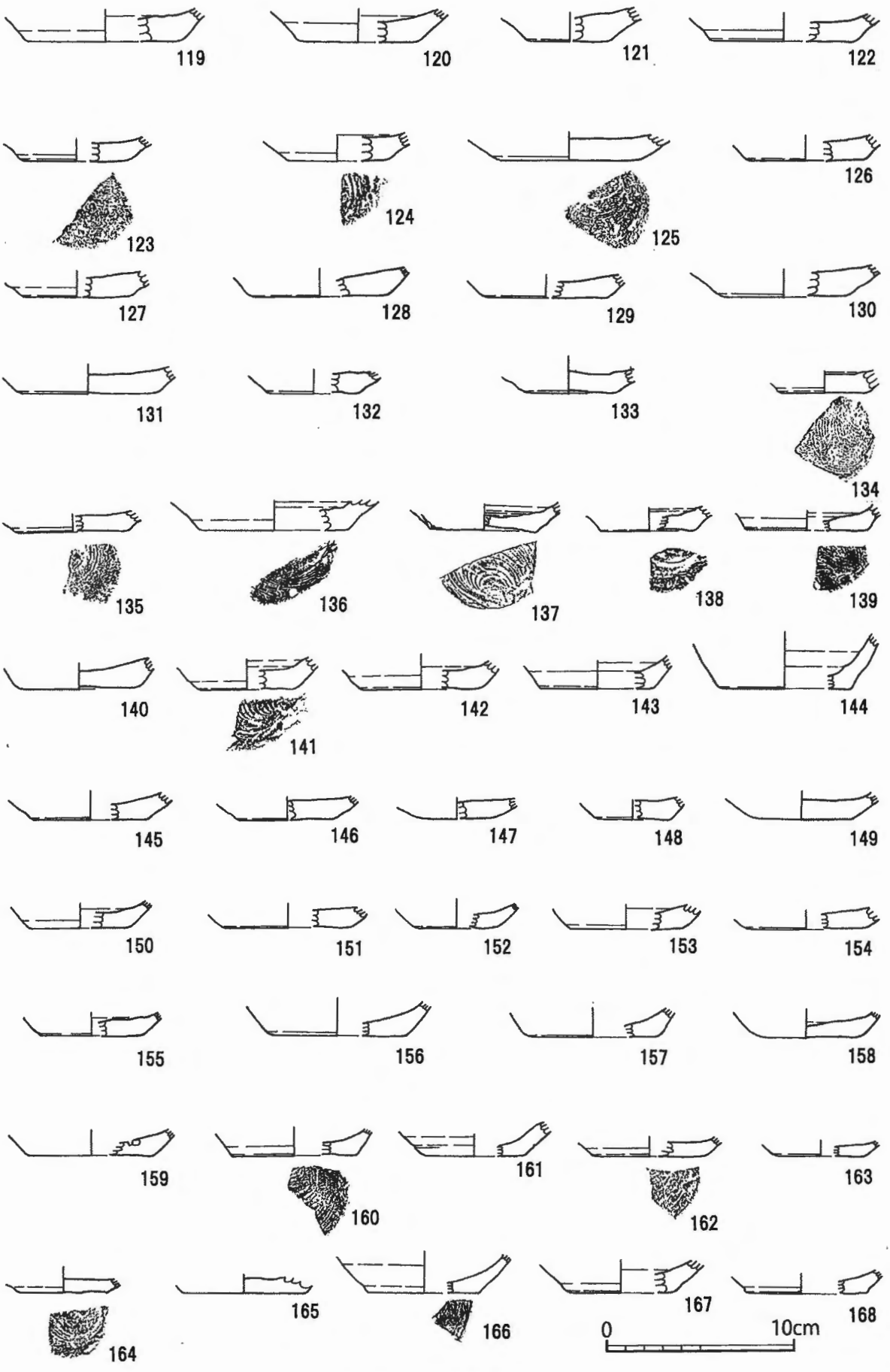

119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
0
10cm

図 18　土器類実測図 4

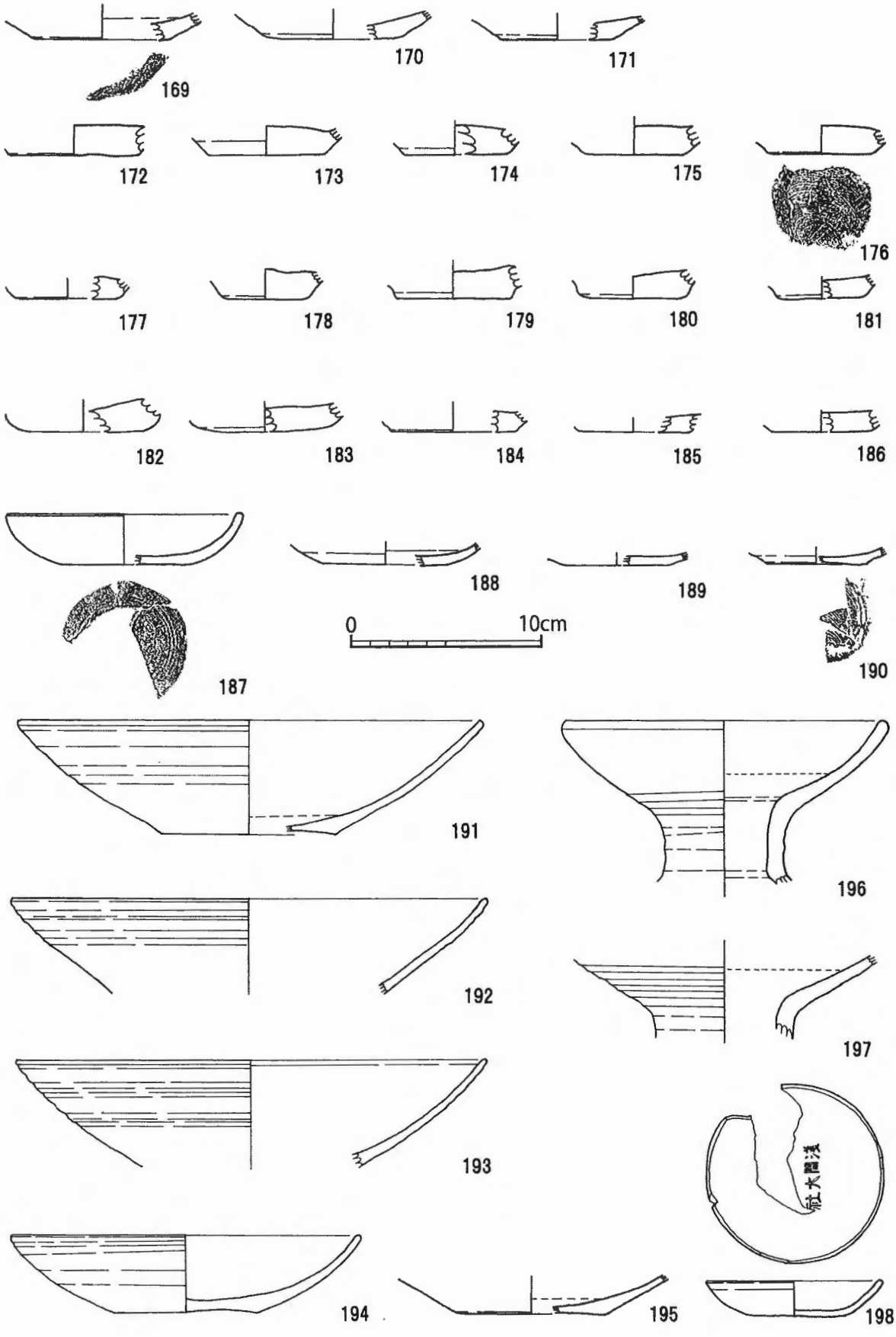

169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
0
10cm
191
192
193
194
195
196
197
198
社大開法

図 19　土器類実測図 5

5　その他

（1） 石製品(図 20　表 13　写真 28)

砥石(1～7)、碁石(8)、不明品(9)がある。図示可能なものすべてを掲載した。

砥石は断面正方形となる1、長方形となる2～7がある。いずれも長軸方向の一部を欠損している。欠損面以外は砥ぎ面として使用されており、様々な方向から使用されたようで、断面には凹面や凸面が見られる。小型品であるため、置いて使用する置砥ぎではなく、持砥ぎと思われる。石材はすべて凝灰岩製で、表面が平滑になっており、仕上げ砥ぎの部類に入るかと思われる。1・3・4は、砥ぎ面が幅の狭い溝状になっている部分が見られ、丸鑿などの砥石として使用されたと考えられる。7は、側面と裏面に幅と方向の均一な筋状の使用痕が見られる。表面に砥ぎ面が見られたため、砥石に含めた。

碁石は8の1点のみで、黒色を呈する粘板岩製と考えられる。

不明品の9は、頁岩製で、両面に文様の深い彫り込みが見られる。表裏面や上下の区別がつきにくいが、筒状の製品の一部かと思われる。

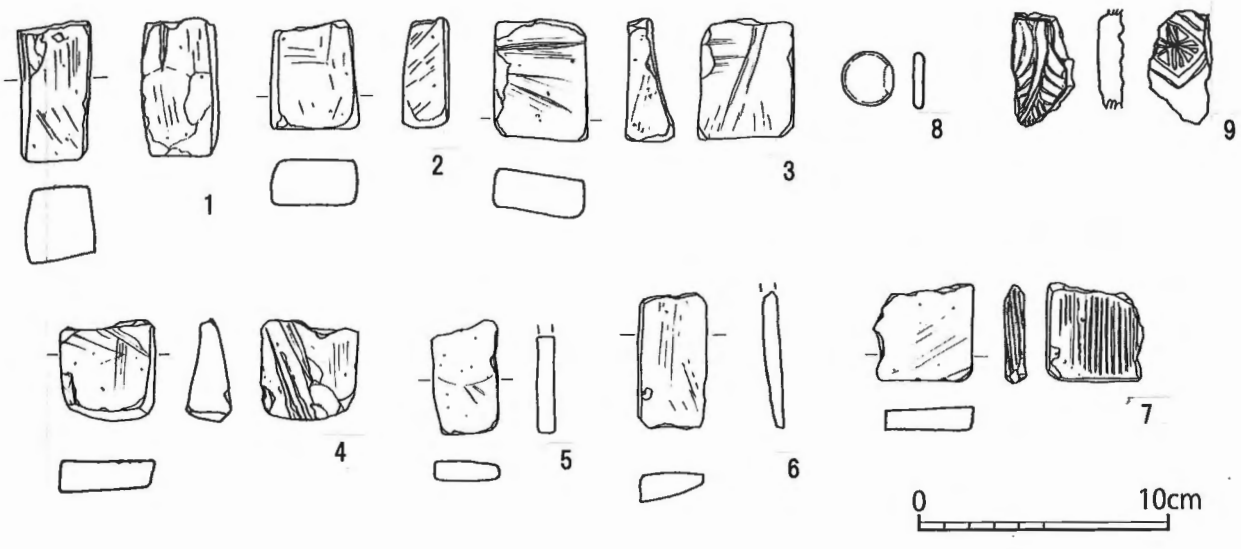


図 20　石製品実測図

（2） 土製品（図 21・22　表 14　写真 25)

人形(1～6)、泥面子(7～30)、不明品(31)がある。

人形は、すべて型合わせでつくられている。5は中空となっている。1～5は近世のものと思われる。6は首人形かと思われるが、背面に穿孔がある点や子供の風貌が現代風であり、現代のものの可能性がある。

泥面子はすべて型抜きされた芥子面で神仏像(7～9)や妖怪・鬼・火男などの面(10～14・16・17)、鶴・亀や吉祥文など(18～25)、蛸・菊などの動植物(27・30)などがある。す

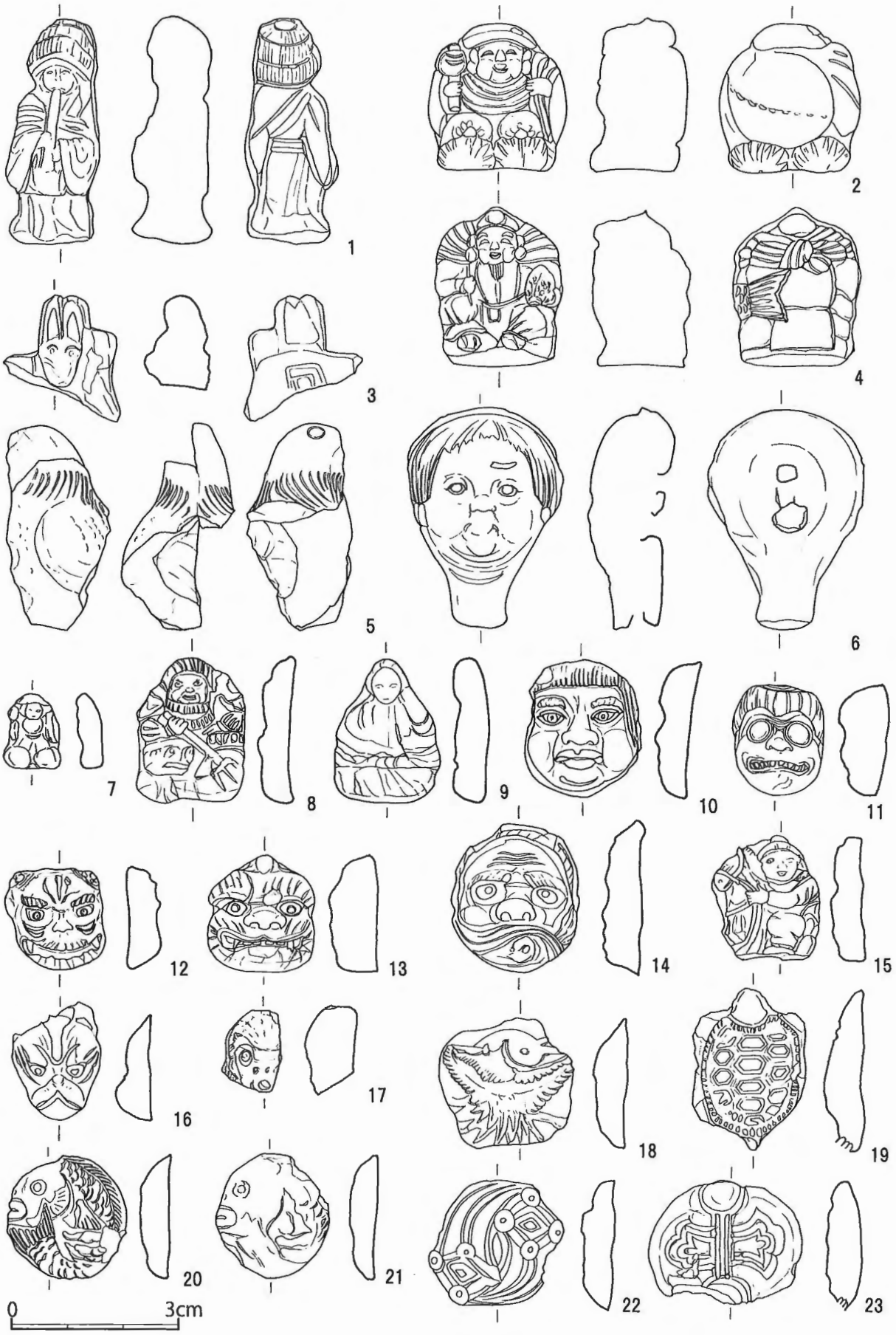


図 21　土製品実測図 1

べて近世のものと考えられる。

参考文献　石神裕之 2000「近世遺跡出土の泥面子について―江戸後期の「キズ」賭博流行の周辺―」
『史学』69　3/4

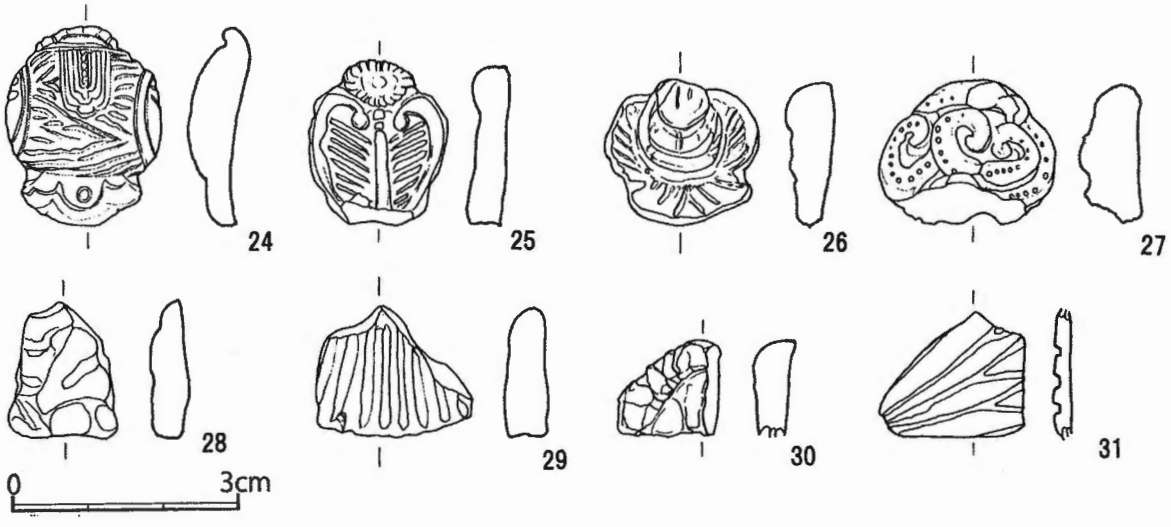


図 22　土製品実測図 2

（3） 青銅製品・鉄製品（図 23・24　表 15　写真 28）

青銅製品（1～5）、鉄製品（6～48）がある。青銅製品については、青銅の他、真鍮製の場合もあると思われるが、視覚だけでは判別不能なため、青銅製品として一括している。

青銅製品は、煙管（1～3）、不明品（4・5）がある。煙管は1・2が雁首、3が吸口である。1は脂返し以外の雁首の断面が六角形、2は円形となっている。1は羅宇の木質が一部遺存している。1・2の脂返しの屈曲が弱くなっているが、火皿を欠損しているため年代は不明である。

4は、円形の板状製品である。楕円形の孔が空いている。周縁が折り返したように厚くなっている。5は、釘状製品である。頭部は円形で、軸部との間に括れがあり、軸部にはねじりが見られる。

湧玉池からは、断面方形の和釘以外に、断面円形の洋釘ほか、ねじ等近代以降のものも出土したが、近世以前に遡ると考えられる断面方形のものについて図化可能なものについて図化し、すべて掲載した。

頭部の形状がある程度わかる6～12をみると、6・11・12は頭部をたたいて薄くのばしたもので、7は両脇を折りたたんでいる。頭巻釘と呼ばれるものかと思われる。7～10は頭部を折り曲げたもので、7は基部の形状のまま直角に折り曲げられた折釘、8～10はややたたいてのばし折り曲げられており、さっば釘あるいは角かつ釘かと思われる。また、18のように頭部つくり出しのない切釘、44～46のように楔かと思われるものも出土している。釘類の断面は長方形または正方形で、長さは6の16.0 cmを最長に20の3.2 cmまで出土している。五寸釘から一寸釘まで出土していることになると思われる。

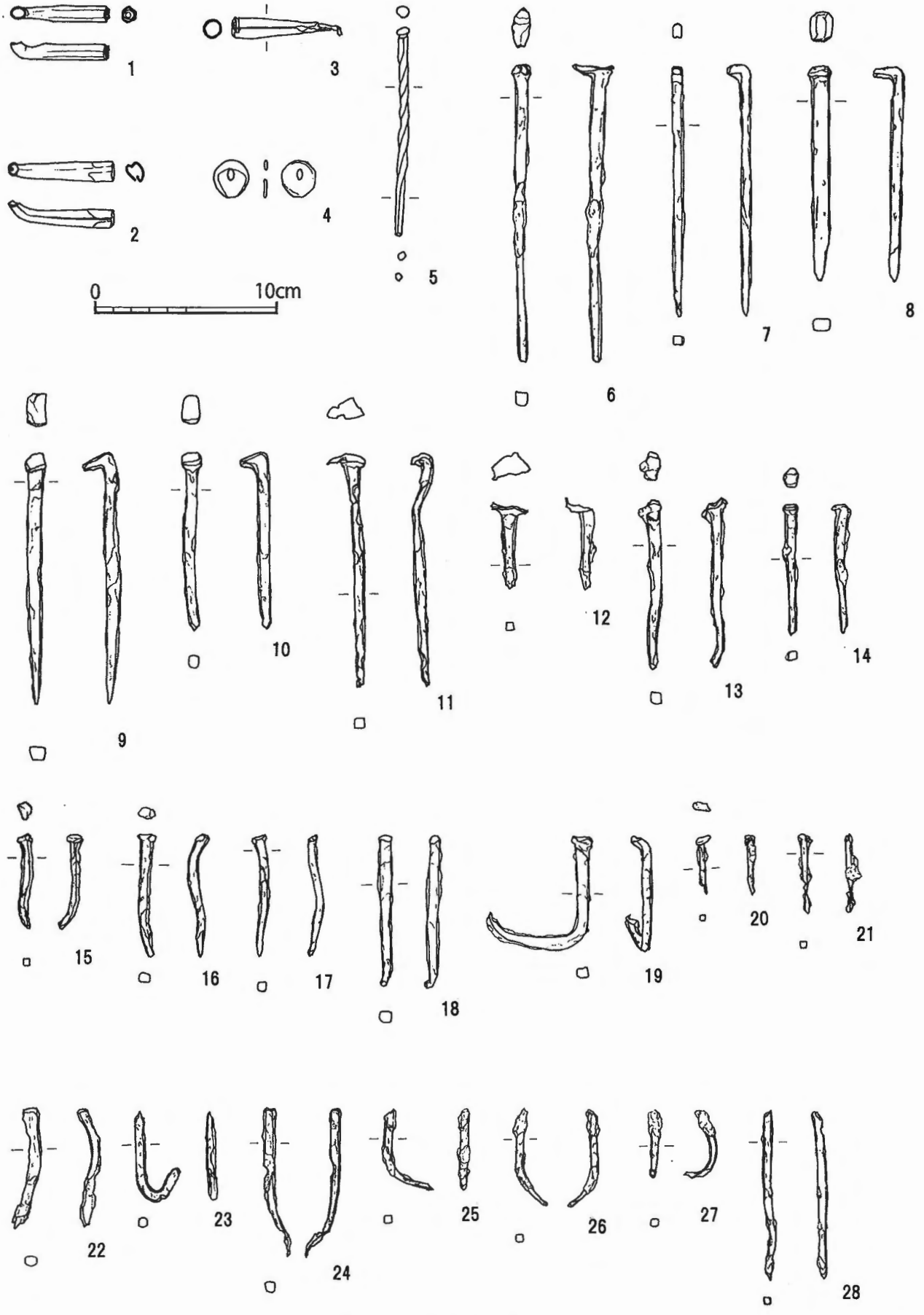


図 23　金属製品実測図 1

47は完形品と思われるが脚部が鑿状にやや薄くなっている用途不明の鉄製品、48はL字状の用途不明の鉄製品で、頭部先端と脚部先端を欠損している。

参考文献　金箱文夫1984「近世の釘」『物質文化』43号

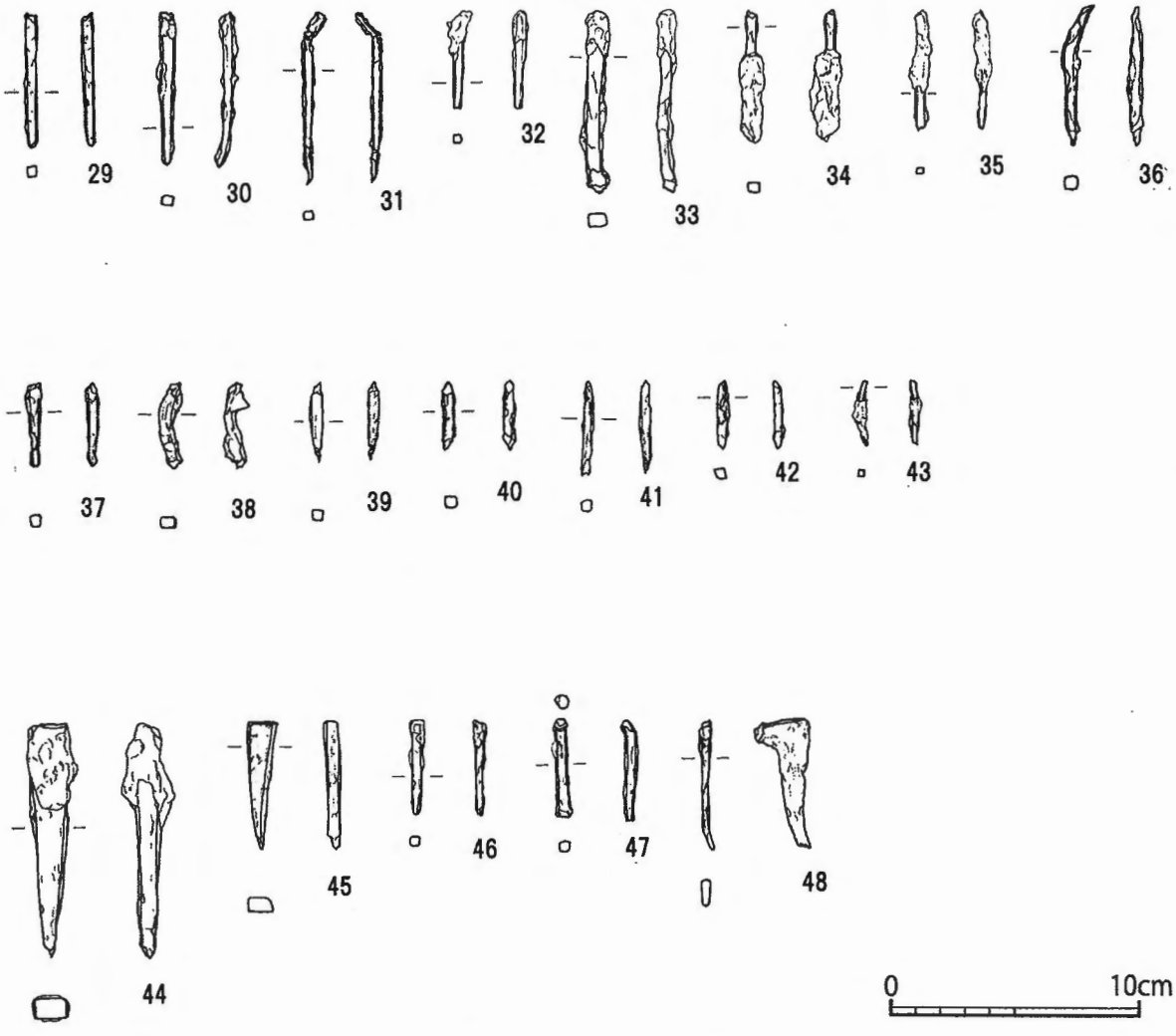


図24　金属製品実測図2

（4） 瓦(図25・26　表16)

すべて破片資料であり、出土数も多かった。オリーブ灰色から暗灰色を呈し、胎土に雲母が目立つものがほとんどであるが、胎土が密なもの(39)、1・2などの細かな砂粒を含むものなどが含まれている。種類は、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦、桟瓦、鬼瓦、海鼠瓦、文字瓦、不明なものが出土した。オリーブ灰色から暗灰色を呈するものは多くは桟瓦となるようで、厳密には、軒平瓦と軒桟瓦の区別はつかない。

軒丸瓦の瓦当の文様は連珠三巴文右巻きで、12連珠である。軒丸瓦・軒桟瓦とも同様の文様である。1・2は連珠文がみられ中心文には圏線を有する点、やや古手の様相であると思われる。

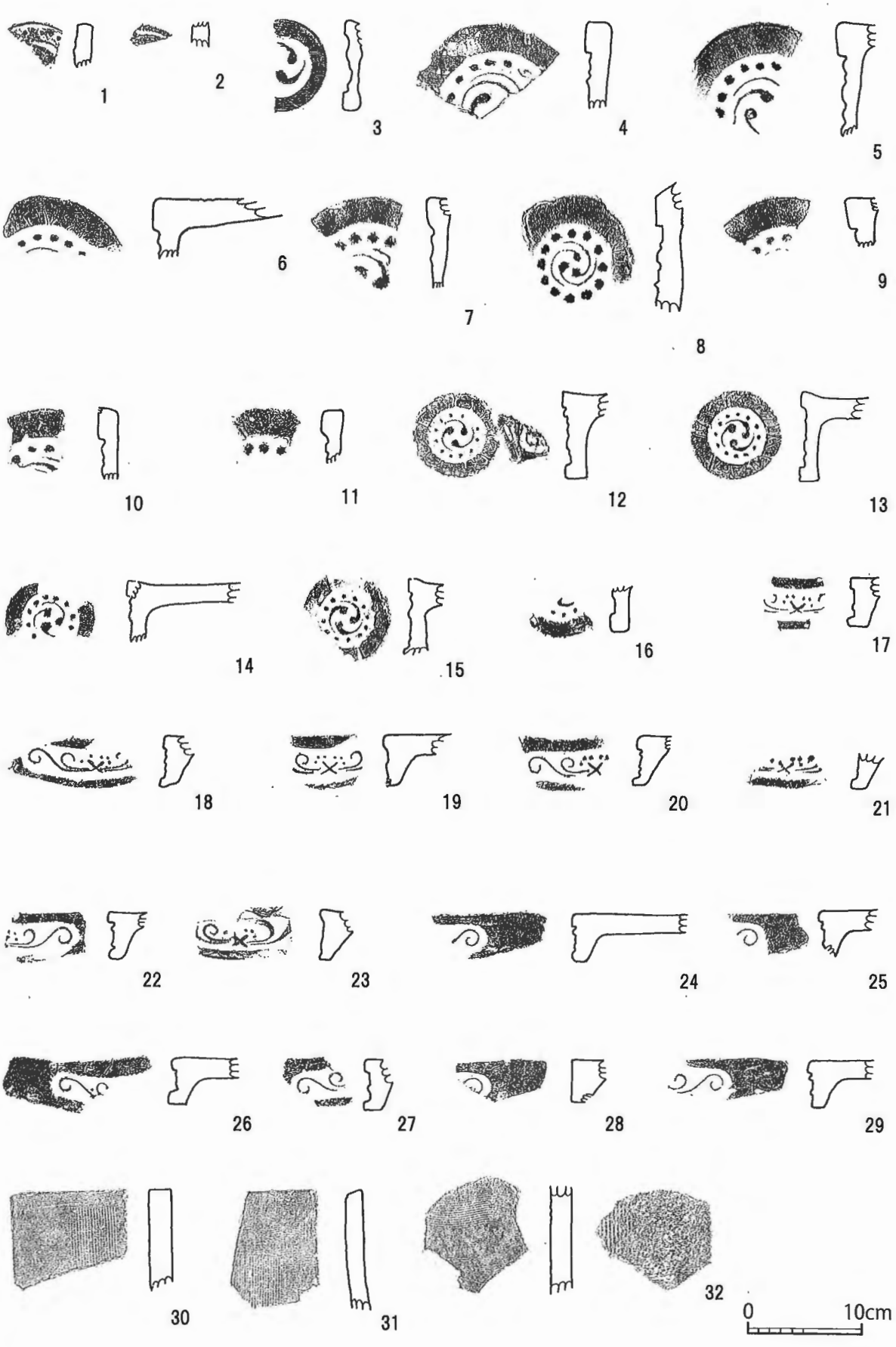

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0
10cm

図 25　瓦実測図 1

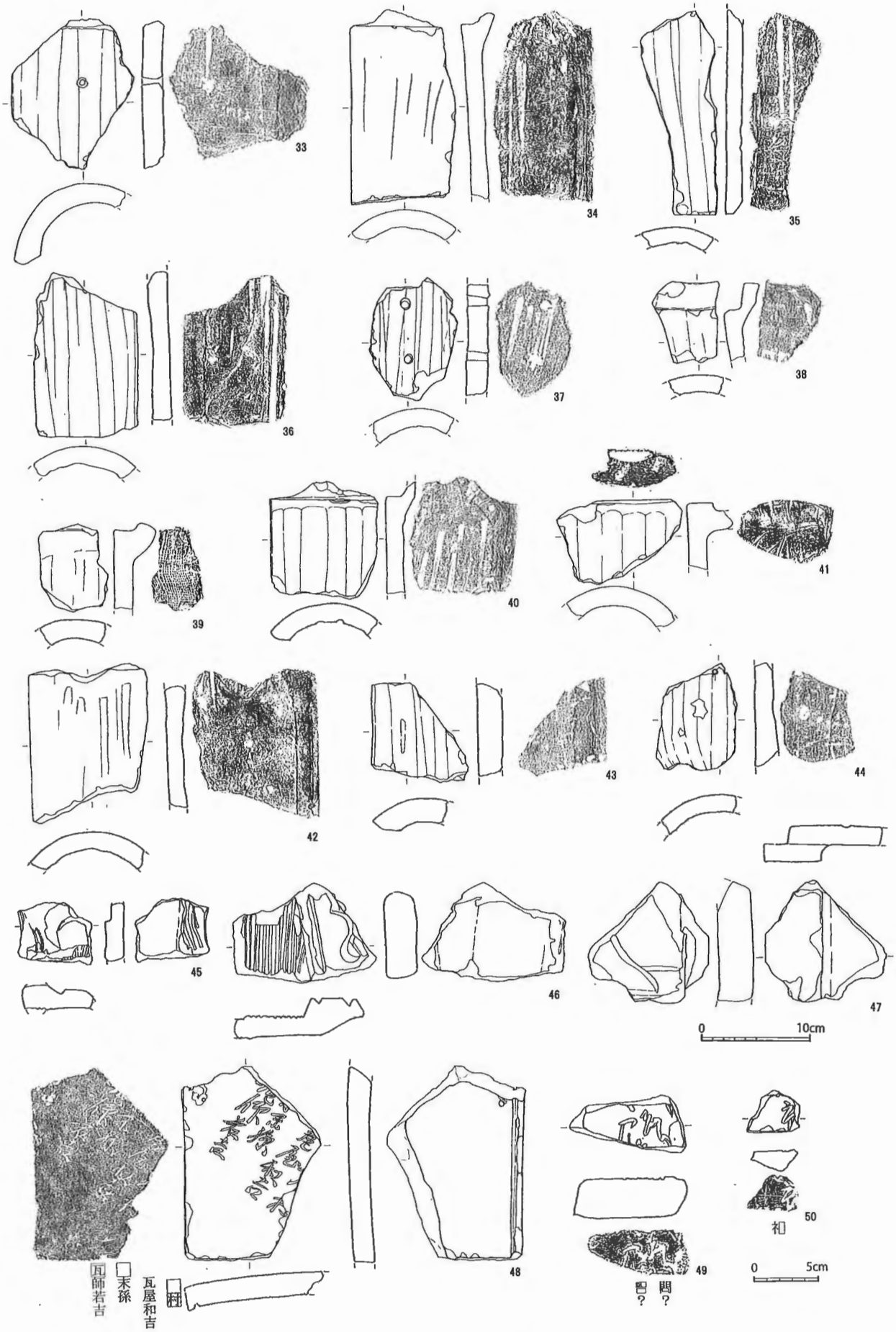

33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
0
10cm
48
49
50
0
5cm
瓦師若吉
□末孫
瓦屋和吉
□村
□
?
問
?
祁

図 26　瓦実測図 2

軒平瓦の瓦当の文様は、中心飾りが樹枝と点珠で構成され、左右に唐草文がみられ、「東海式」の範疇のものと思われるものである。また、軒平瓦や軒丸瓦はそれぞれ同汎である可能性が高い。

33～44は丸瓦であるが、先述のように39は色調や胎土、布目の様子も他と異なる。丸瓦は、内面に布目痕を有し、外面にヘラミガキ痕が見られる。胎土に雲母を含むものはヘラミガキ痕の部分に顕著に観察され、光沢を帯びたようになっている。

45・46は鬼瓦と思われる小片である。47は、器種不明の瓦で、接合部分を有し、一部表面に棒状工具による線刻が見られる。

文字瓦は3点出土し、すべて掲載した。48は、平瓦かと思われたが、全体の湾曲や溝・穿孔を有する点などから、器種不明の瓦である。湾曲の背になる箇所に鋭いへら状工具で文字が陰刻されている。「瓦師」などの文字が判読され、また「村」の文字も見られるため、瓦の制作地や製作者を示していると考えられる。他49･50は小片のため詳細は不明である。49は、比較的器厚が厚く、平たい瓦であるようである。

瓦は先述のように様々な種類が出土しているが、胎土や焼成、文様などから同時期のものがほとんどで占められている。

参考文献　金子 智 1994

「尾張藩廻町藩邸跡出土瓦類の検討―軒平・軒桟瓦瓦当文様の変遷を中心として―」

『尾張藩廻町藩邸跡』新日本製鐵株式會社 紀尾井町6-18遺跡調査会

（5） 銭貨(図27～35　表17　写真26・27)

近世までの銭貨で、図化できるものすべてを掲載した。渡来銭(1～34)、寛永通宝(35～210)、宝永通宝(211)、文久通宝(212・213)、銭種不明(214～231)がある。

渡来銭は、開元通宝、天禧通宝、天聖元宝、皇宋通宝、治平通宝、熙寧元宝、元豊通宝、元祐通宝、聖宋元宝、政和通宝、洪武通宝、永楽通宝の12銭種が出土した。

寛永通宝は、寛永13(1636)年に公鋳が始まり、以降幕末まで各地の銭座で鋳造されたことが知られている。出土した寛永通宝は、古寛永(寛永13・1636年～万治2・1659年鋳造)と新寛永(寛文8・1668年～慶応4・1868年鋳造)に二分類できる。字体を主に分類基準として、古寛永から新寛永をⅠ～Ⅹ期に分類した川根論文(2001)を参考に掲載している。鉄銭については、錆の付着が著しく、細分できなかった。

古寛永は、35～67の33枚確認できた。太く強い字体で、「寶」の貝部分のはらいが接するいわゆる「ス宝」である。また、出土した古寛永は外径の平均値が2.51㎝と新寛永より一回り大きく、ゆがみや付着の少ない頑丈なつくりのものとなっている。

新寛永は、銅銭と鉄銭含め68～210の143枚確認できた。「寶」の貝部分のはらいが離れるいわゆる「ハ宝」である。字体も、古寛永ほど個体によるばらつきがなく、細く精緻となるとされる。

68～85は背面に文の文字が見られるいわゆる文銭である。86～90は、背面に文の文字はないものの、文銭に字体が類似している。179は背面に銭座を表す「佐」、180～185は「元」、

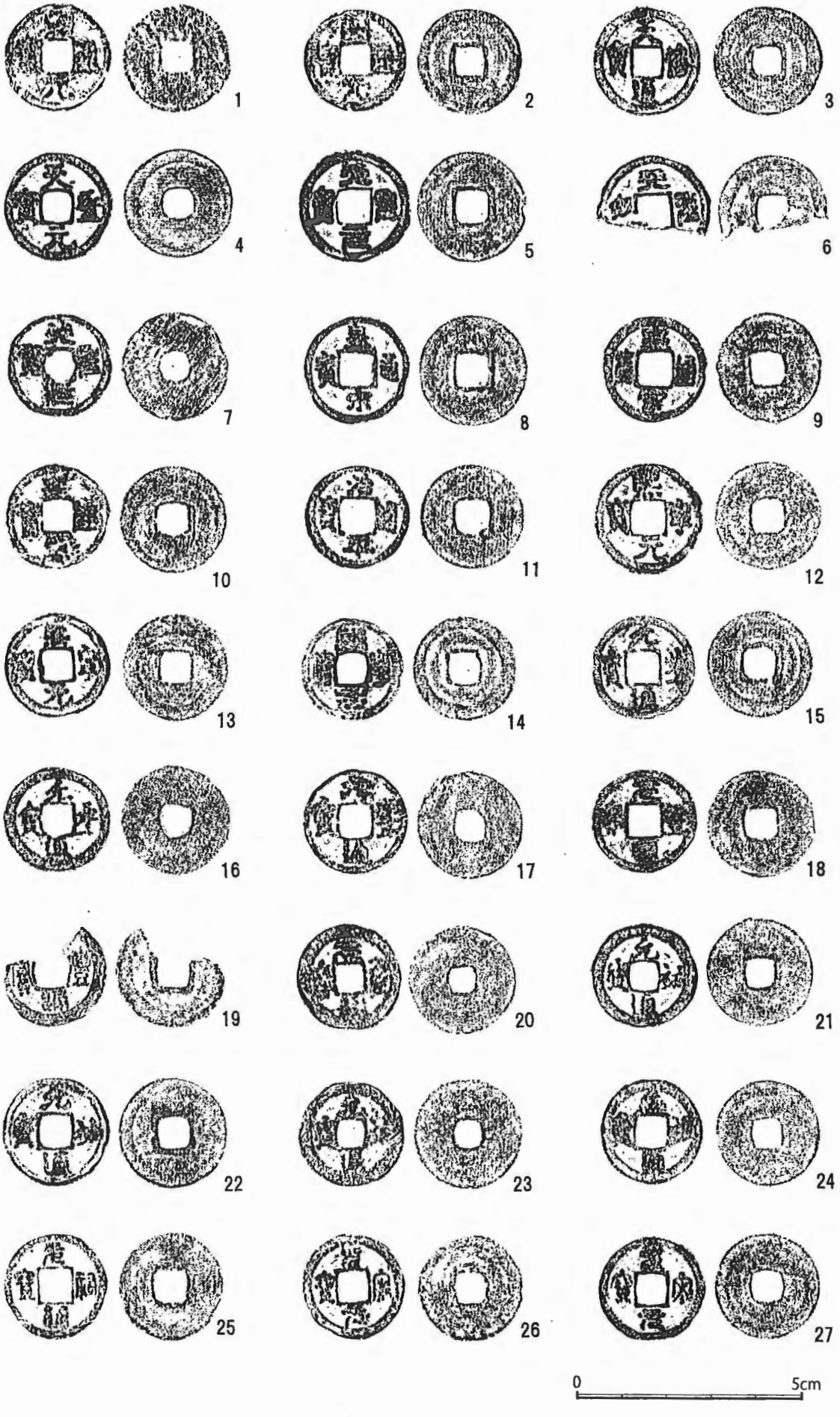


図 27　銭貨実測図 1

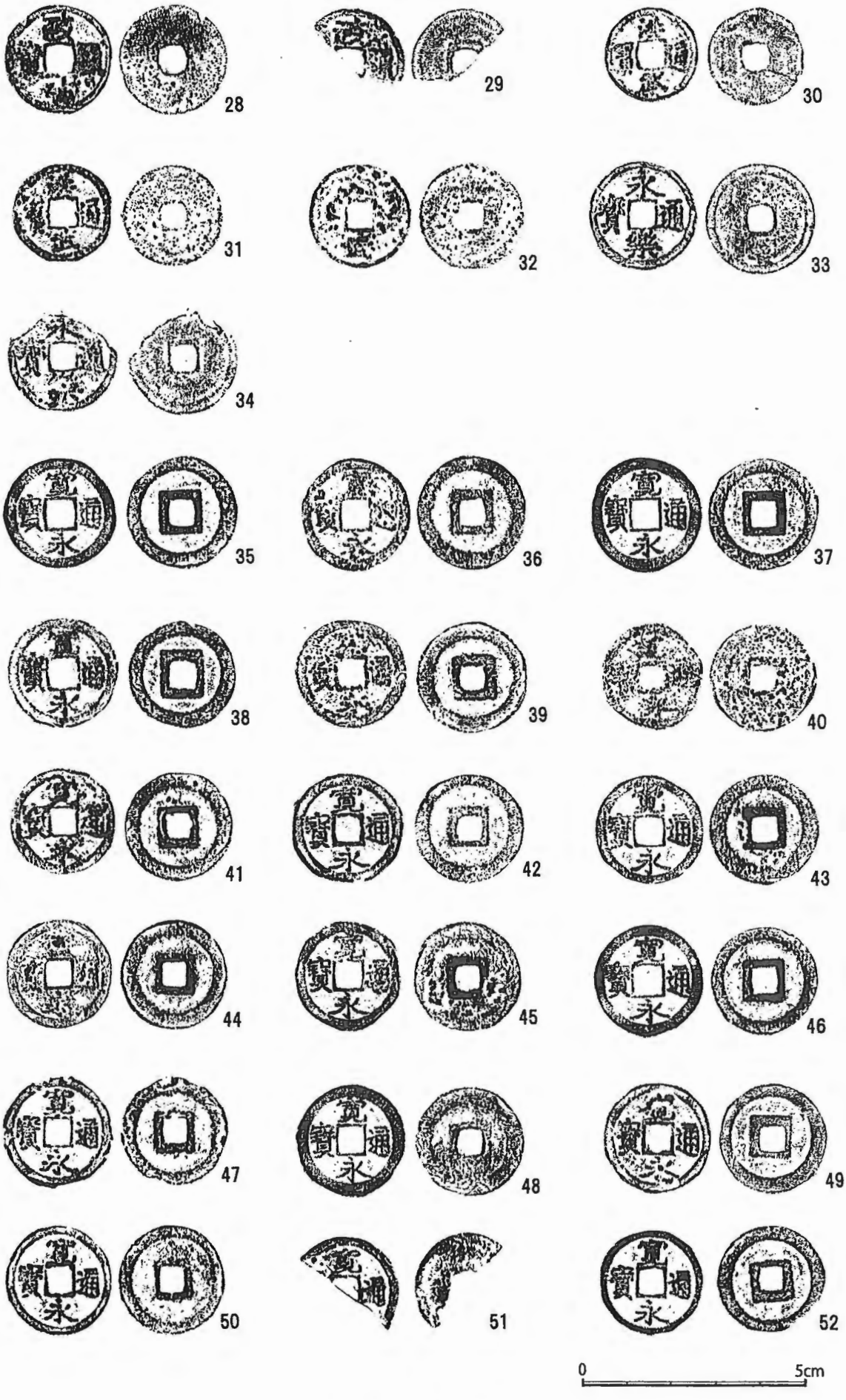

28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
0
5cm

図 28　銭貨実測図 2

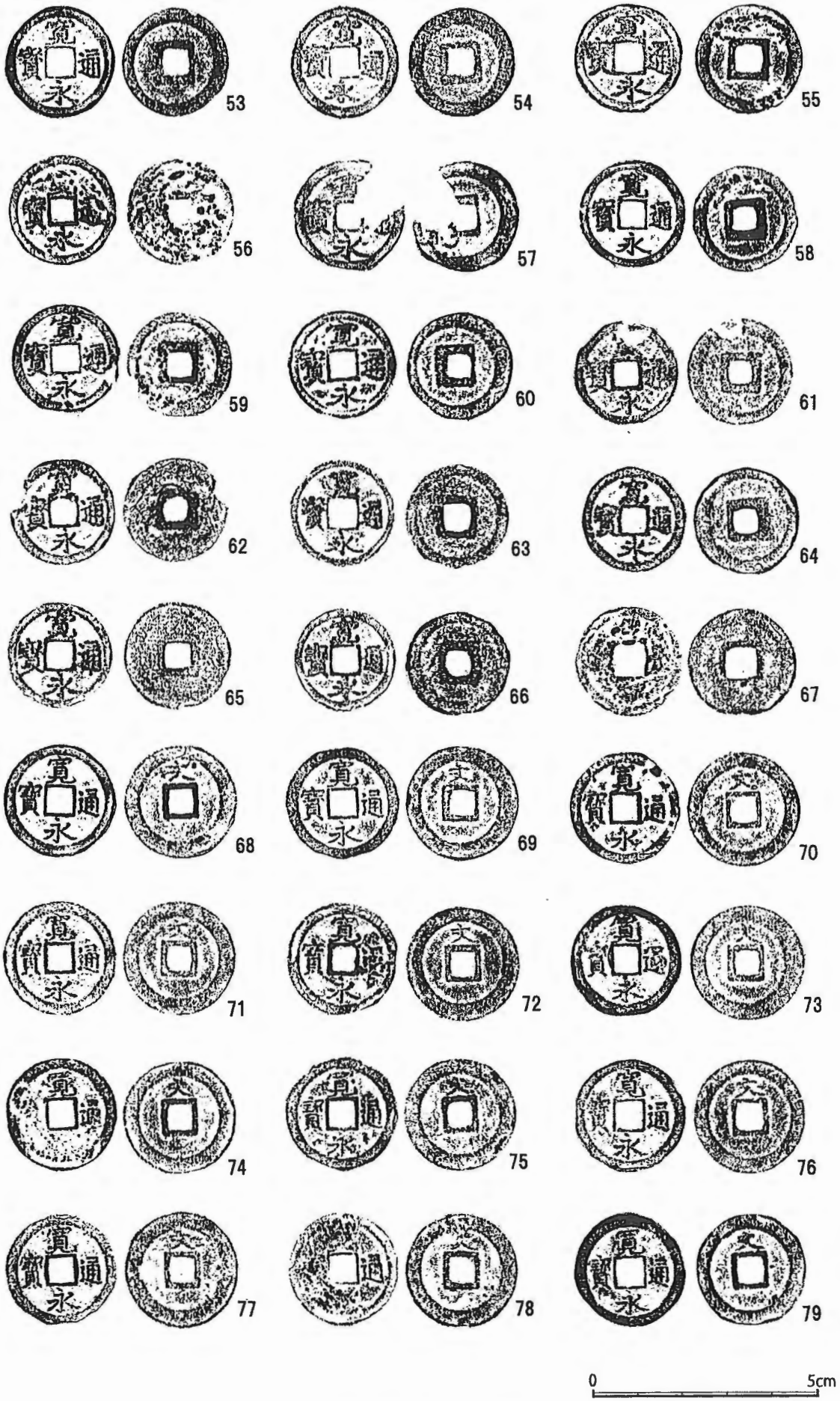

53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
0
5cm

図 29　銭貨実測図 3

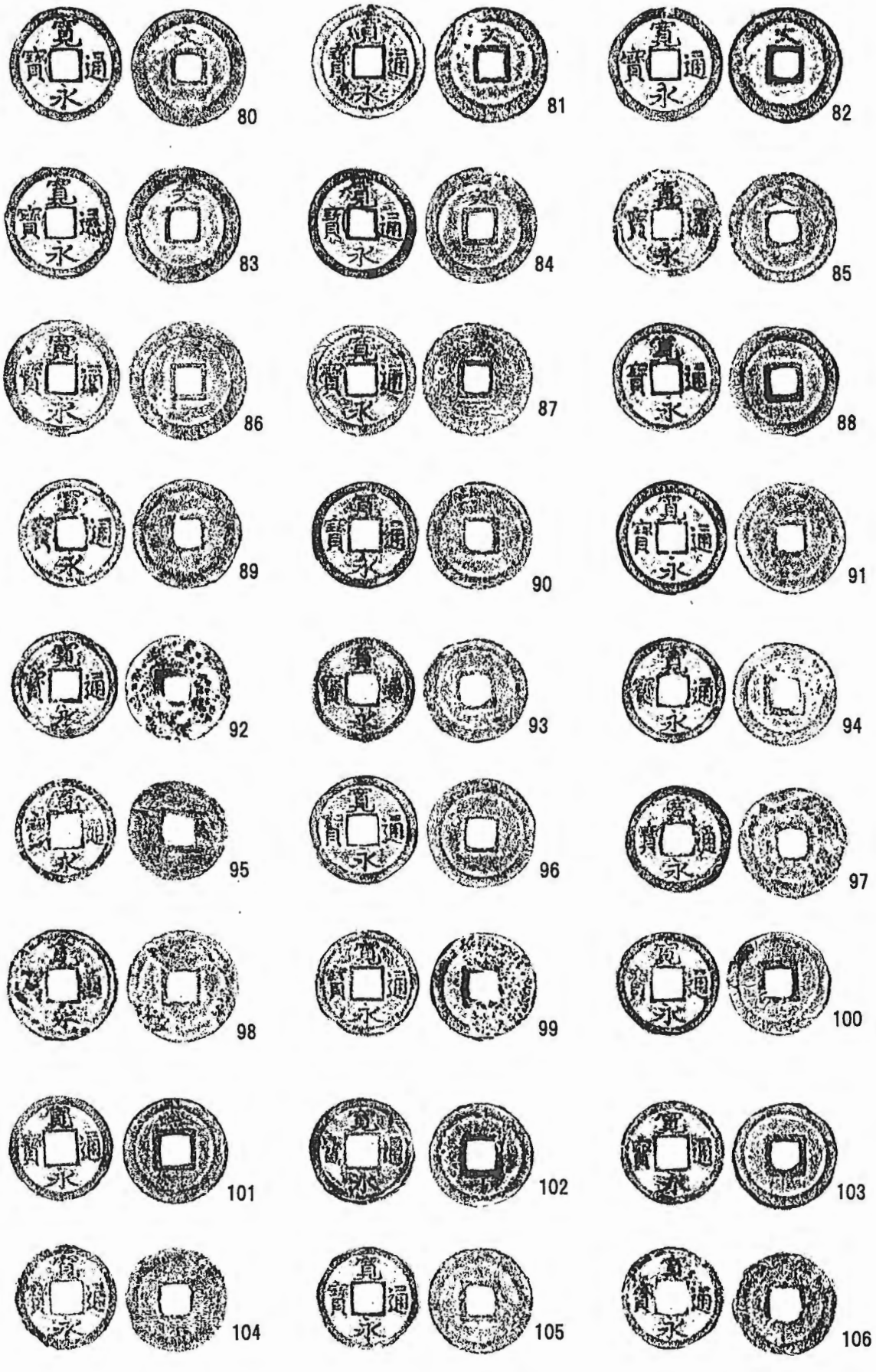

80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
0
5cm

図 30　銭貨実測図 4

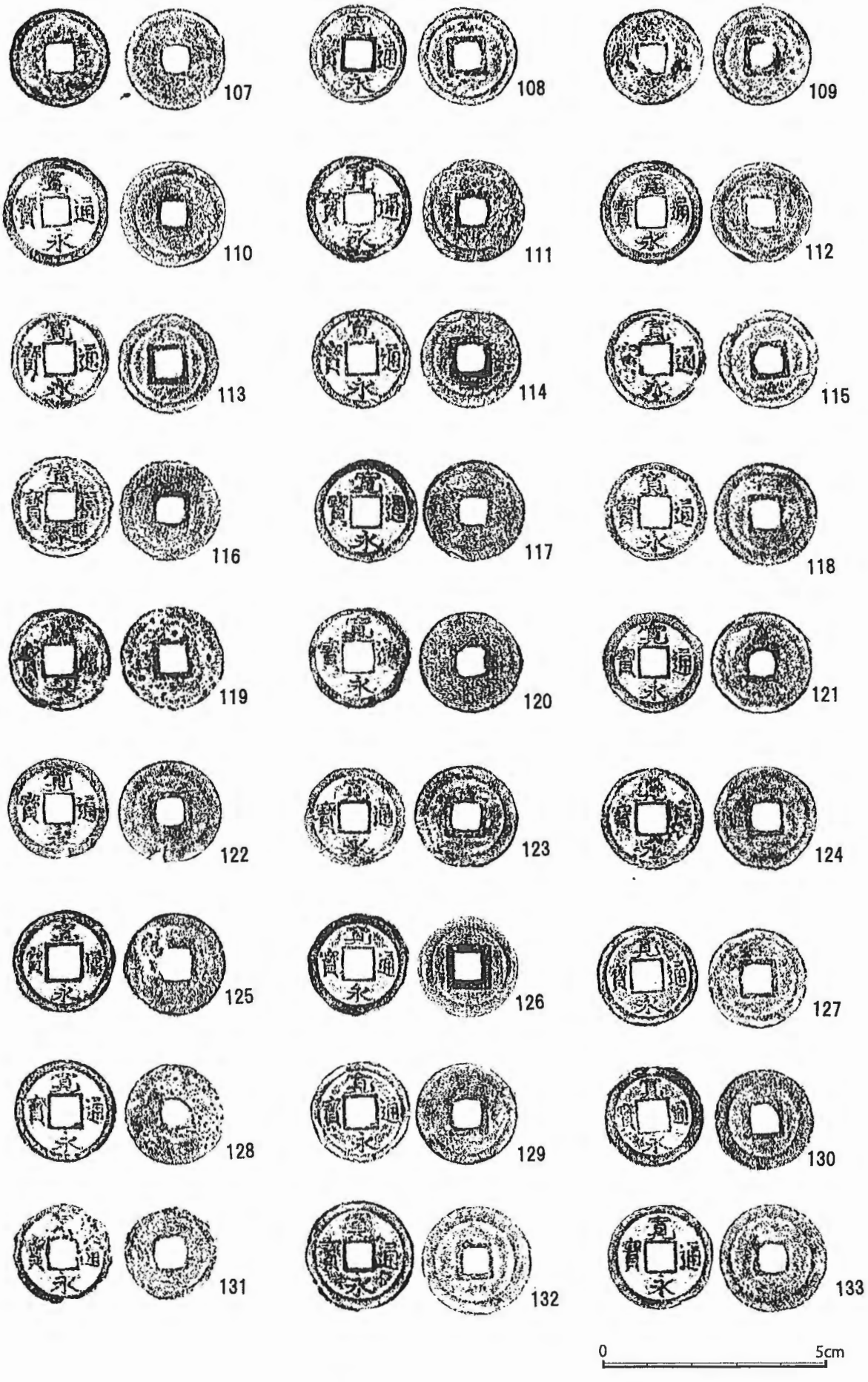

107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
0
5cm

図 31　銭貨実測図 5

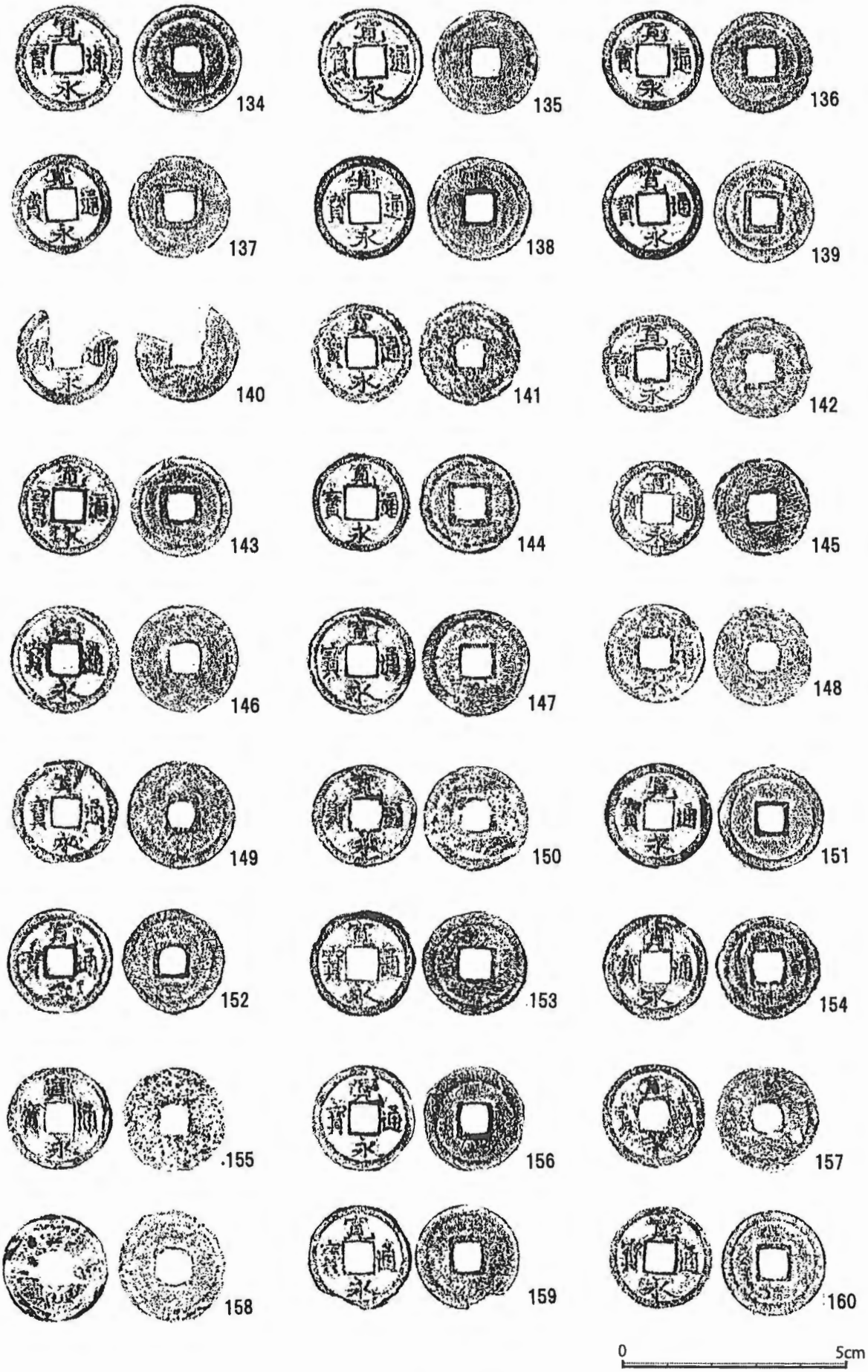

134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
0
5cm

図 32　銭貨実測図 6

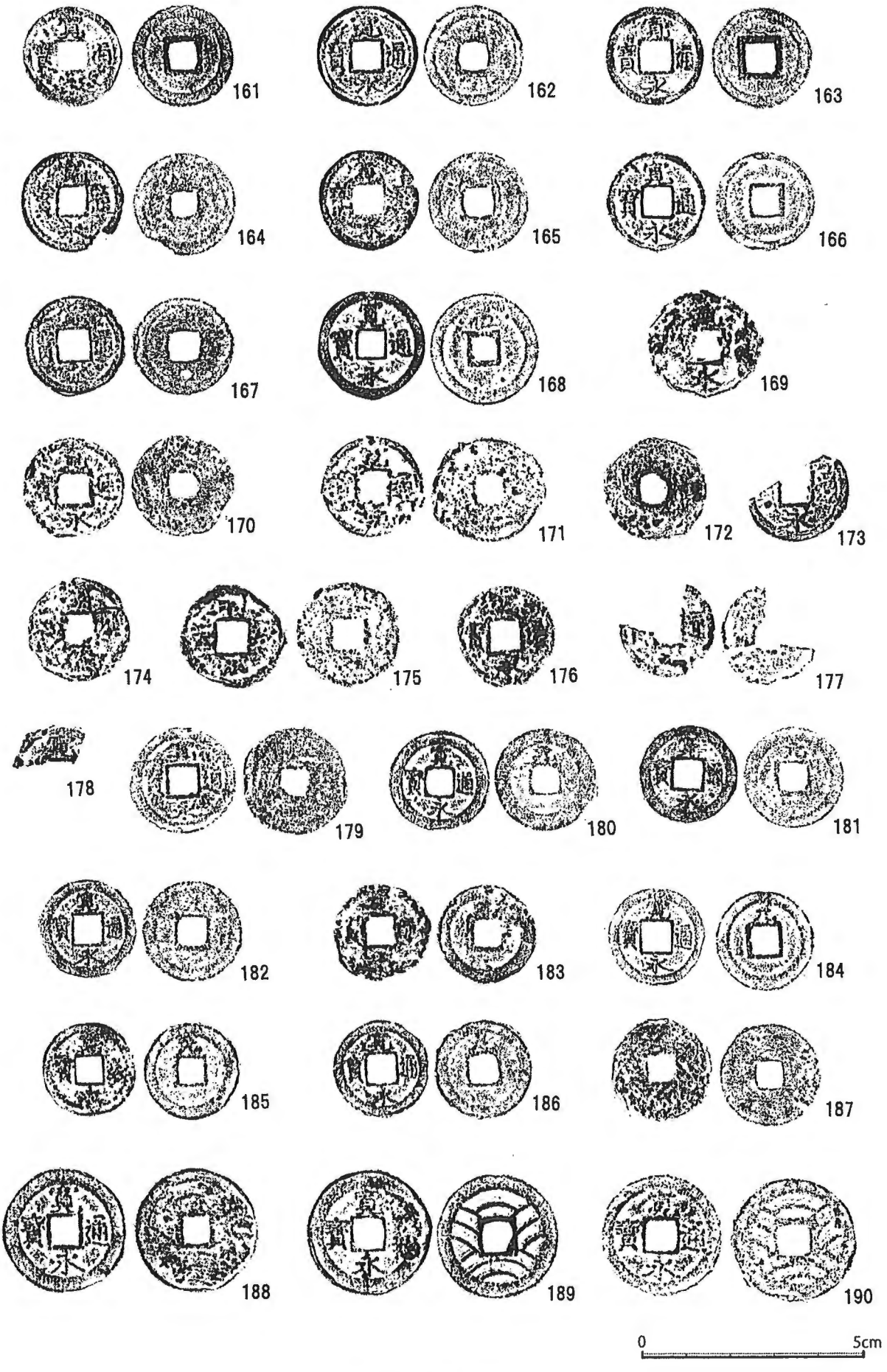

161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
0
5cm

図 33　銭貨実測図 7

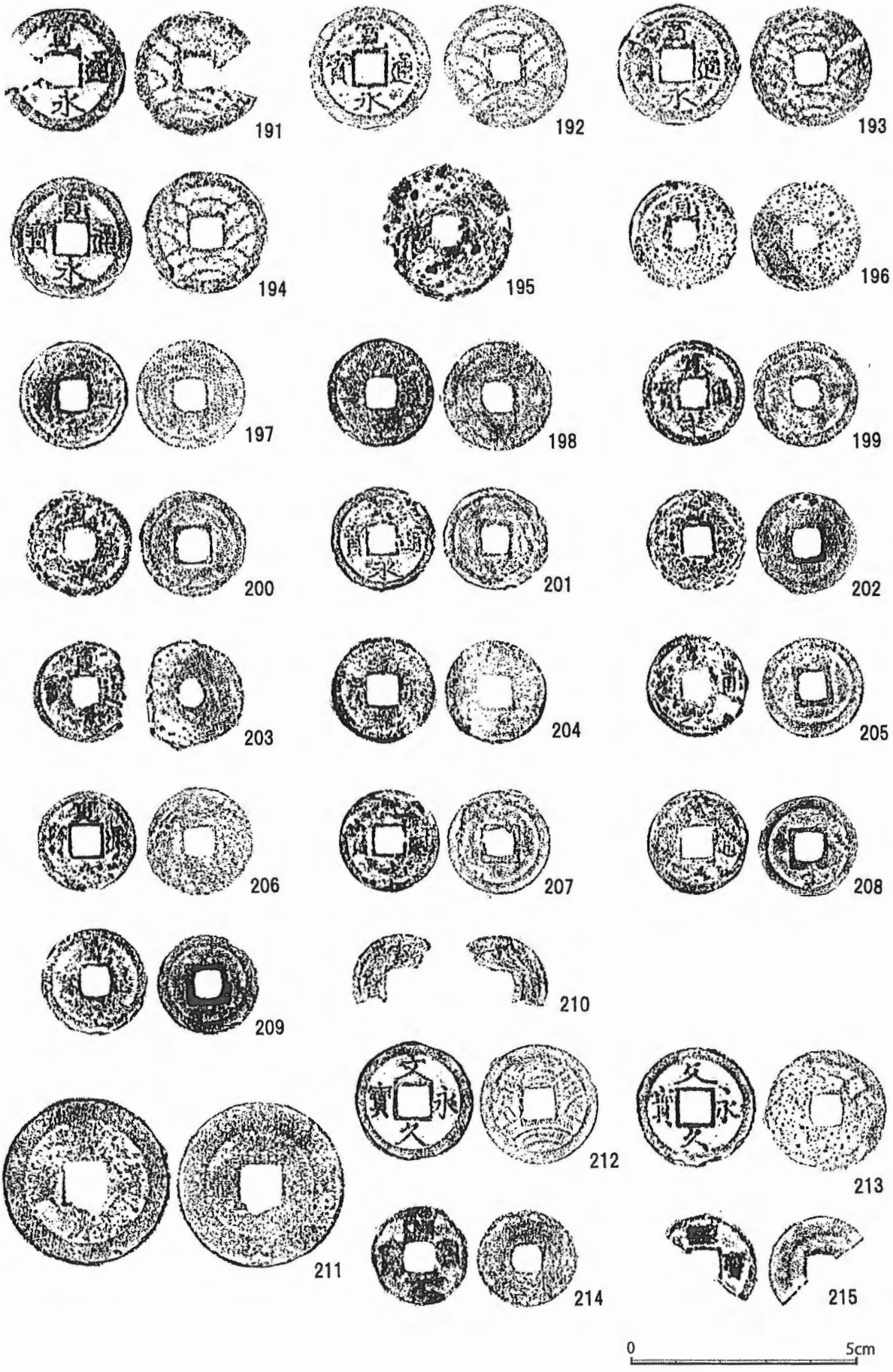

191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
0
5cm

図 34　銭貨実測図 8

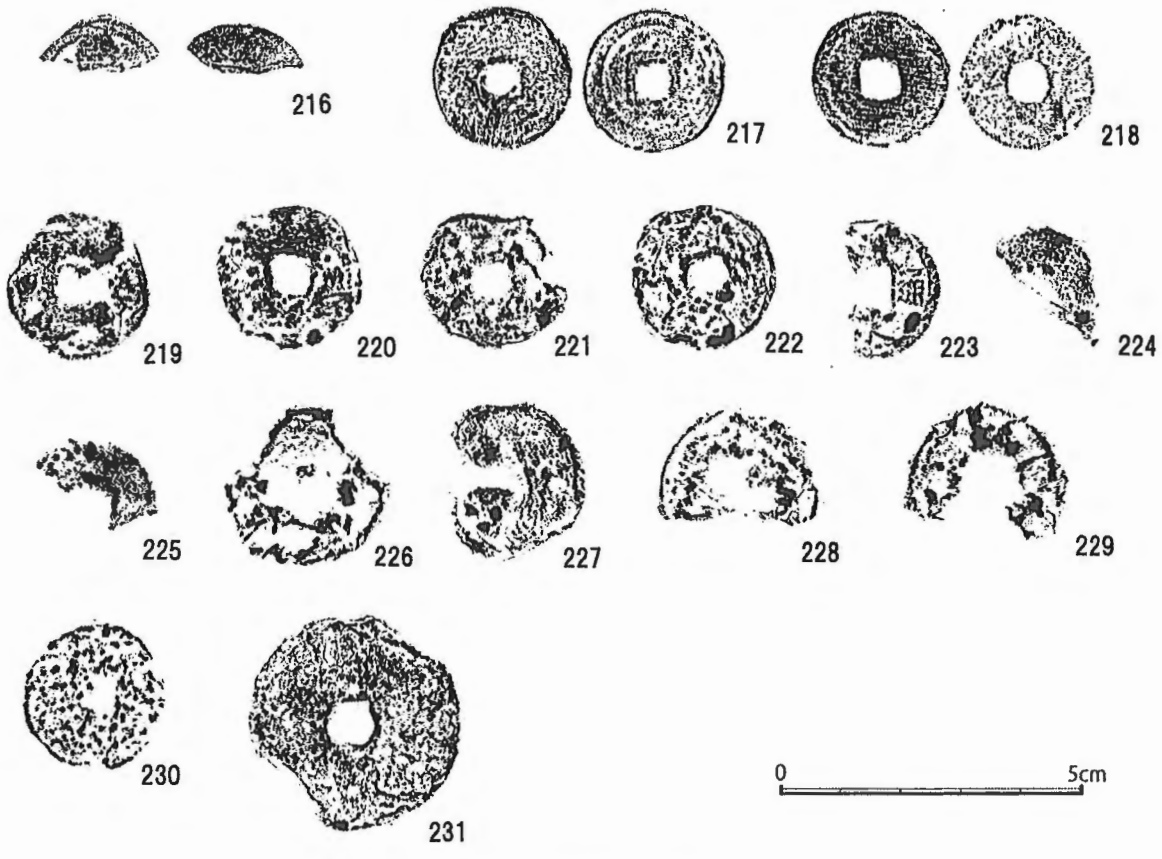


図 35　銭貨実測図 9

186・187 は「足」が見られる。188～194 は背面に波文が見られる四文銭で真鍮製とされる。195 は鉄製の四文銭で背面に同じように波文が見られる。169～179 は鉄銭である。

211 は十文銭通用の宝永通宝で 1 点のみの出土である。212・213 は四文銭の文久永宝で 2 点の出土である。

時期による字体の変化は、「寛」の字のつくりである見部分のはらいやはねが、Ⅲ期(17 世紀末～18 世紀初頭)と思われる 91～95 から、Ⅴ期(18 世紀中頃)と思われる 121・122 のように顕著となるとされる。Ⅴ期では字体が固く鋭さが感じられるものになるとされ、126 や 132 などにうかがうことができる。

なお、銅銭の材質については、肉眼での観察で、色調が青みが強いもの、赤色ががったもの、黄色ががったものなど違いはあるが、青銅製や真鍮製などの判別はできなかったため、観察表には便宜上、ほとんどを青銅製と記入した。四文銭のみ真鍮製とされるため、そのように記入した。

参考文献　川根正教 1995「寛永通宝の基礎的研究 1 (上)形式分類と編年」『出土銭貨』第 4 号
川根正教 2001「寛永通宝銅銭の様式分類」『出土銭貨研究』

（６） 再利用片(図 36　表 18)

再利用片は７点確認された。１～６は擂鉢片、７は瓦片を利用している。

時代は１の志戸呂産の 15 世紀のものから、瀬戸・美濃産の近世のもの(２～５)、近代のもの(６)と年代幅がある。

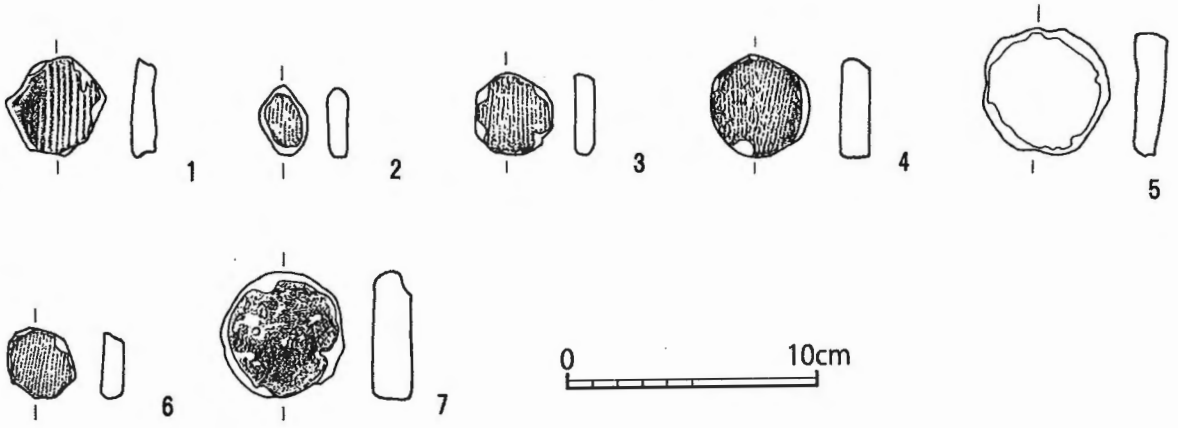


図 36　再利用片実測図

これまでの調査では、境内地に古墳時代の集落跡の広がりを始めとして、平安時代末から中世には建物跡や土坑などといった施設ともに、大量のかわらけが出土し、またかわらけを含む造成土の広がりも確認されている。湧玉池の北側にある溶岩丘の平坦面には、推定護摩堂跡と考えられる礎石建物跡が確認されている。

湧玉池は古くより神域として認識されていたと考えられており、今回の調査では、祭祀にまつわるものの出土も想定された。しかし、かわらけの出土はあったものの、それ以外は、古墳時代から現代までの土器や陶磁器、金属製品、石製品、土製品、瓦、銭貨など多岐にわたるものが出土している。周辺の遺構の分布や環境を反映していた出土状況であると考えられる。

遺物は、近世までのものは図示できるものを掲載した。近代以降のものは、陶磁器・土器に関しては、浅間大社銘の瀬戸・美濃産磁器碗(図 14-110～115)、上製かわらけや器種不明土器(図 19-191～198)といったものについては掲載した。遺物のほとんどは自然の流れ込みに伴うもので、湧玉池周辺の遺構の分布状況を反映していると考えられる。集計した土器・陶磁器については、古墳時代土師器・須恵器 621 点、中世陶磁器 341 点、近世陶磁器 1531 点、近代陶磁器　点、土器類 2619 点(うち中世かわらけ 2391 点、近世かわらけ７点、近代かわらけ 84 点、現代かわらけ 84 点、器種不明 44 点)となっている。うち、中近世陶磁器については一覧表を作成した(表２～６)。

中世は、渥美・常滑の甕類が多く、瀬戸・美濃系のものが少ない。また、貿易陶磁器も一定量含まれているが、青磁蓮弁文碗を主体にして白磁碗・皿、青白磁などが出土してい

る点など、これまでの調査や富士大宮司館跡である大宮城跡での出土と同様であることが確認された。また、出土点数に占めるかわらけの割合が大宮城跡の約 94%よりはやや少ないが約 88%と非常に高い点も同様であるが、貿易陶磁器の割合が約１%から約２%とやや多くなっている。今回の調査で出土したかわらけは、大宮城跡で主体となる 15・16 世紀のものはごく少量であり、浅間大社遺跡のこれまでの調査と同じく、器壁の厚い中世前半のものがほとんどとなっている。

近世陶磁器については、表５のとおり、19 世紀に入ると急激に出土数が増加していることがわかる。なお、19 世紀後葉以降の点数は、近代陶磁器の点数が反映されていないため、実際はさらに増加傾向にある。この傾向は、これまでの参道東側の第Ⅰ・Ⅱ次調査と同様といえる。しかし 17 世紀代のものが非常に少ない点は、湧玉池北側の溶岩丘平坦面に確認された推定護摩堂跡に関連する可能性がある。出土器種のうち、碗・皿類で約 50%であるが、19 世紀代には一定量の鉢、大皿、段重などといったものも出土している。また、渡来銭を含む銭貨は鉄銭以前の銅銭が多く出土しており、18 世紀後半を境に湧玉池周辺の環境が変化したことが伺える。

また、今回の調査では瓦が大量に出土したが、その多くは近代以降かと考えられ(注)、推定護摩堂跡に関連するものではない可能性が高い。　　※注　堀内氏教示

表２　中世土器・陶磁器集計表

	種別	産地	器種	破片数		年代
国産土器・陶器	灰釉陶器	東遠	碗	26		11世紀後半
			壺	20		11世紀後半
			灰釉陶器合計		46	
	山茶碗	東遠	碗	11		12世紀前半
			片口鉢	1		12世紀前半
		尾張	碗	1		12世紀代
		不明	甕・壺	16		12世紀前半
			山茶碗合計		29	
	土師質土器		かわらけ	2391		12世紀～16世紀
			土師質土器合計		2391	
	陶器	渥美	甕	17		12～13世紀
			片口鉢	7		12～13世紀
			渥美合計		24	
		常滑	壺	8		12～13世紀
			甕	85		12～13世紀
			甕	71		14～16世紀
			片口鉢	6		12～16世紀
			常滑合計		170	
		瀬戸・美濃	天目茶碗(古瀬戸後Ⅳ	1		15世紀
			天目茶碗(大窯)	1		16世紀
			擂鉢(大窯)	9		16世紀
			瀬戸・美濃合計		11	
		初山	不明	1		
			初山合計		1	
			国産陶器合計		206	
貿易陶磁器	白磁		碗(Ⅴ・Ⅶ類)	6		12世紀
			瓶類	2		
	青磁	同安窯系	碗	3		12世紀後半
		龍泉窯系	劃花文(A類)	3		12世紀後半
			劃花文(A2類)	4		12世紀後半
			劃花文(A4類)	3		12世紀後半
			蓮弁文碗(B0類)	2		13世紀末～14世紀前期
			蓮弁文碗(B1類)	20		13世紀半ば
			盤	1		14世紀
			袋物	2		
			碗	13		
	青白磁		合子	1		
			梅瓶	1		
			不明	4		
	陶器		天目茶碗	2		
			貿易陶磁器合計		59	
			合計		2937	

表３　中世土器・陶磁器の構成割合

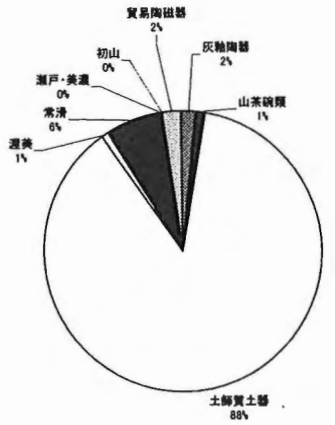


表４　近世陶磁器集計表

産地	種別	器種	17世紀 前	17世紀 中	17世紀 後	18世紀 前	18世紀 中	18世紀 後	19世紀 前	19世紀 中	19世紀 後	小計
中国	磁器	染付	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・5
瀬戸・美濃	陶器	碗				8.6	11.6	10.6	7.6	7.6		46
		太白筒型碗					2	2	2			6
		皿					5	5	4	4		18
		志野皿	4.5	4.5								9
		太白皿					7	7				14
		壷					0.33	0.33	0.33			1
		鉢							0.67	0.67	0.67	2
		片口鉢・こね鉢					8.25	8.25	21.75	21.75		60
		徳利				3.75	3.75	3.75	30.25	26.50		68
		擂鉢	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・16
		鍋							41.33	41.33	41.33	124
		灯明皿				2.5	9.25	6.75	6.75	6.75		32
		糸目土瓶							2	2		4
		合子	0.5	0.5								1
		壷・植木鉢他							8	8	8	24
		火鉢・水盤					0.67	0.67	0.67			2
		鬢水入れ				0.67	0.67	0.67				2
		鎧入れ							0.50	0.50		1
		不明					1.75	1.75	4.75	4.75		13
	磁器	端反碗							8	104	0	112
		丸碗								23	23	46
		湯呑碗								81		81
		皿								33		33
		型皿								1		1
		皿・坏								2		2
		寿文坏							4	4		8
		水滴							1.5	1.5		3
		紅皿								7.5	7.5	15
肥前	陶器	碗		2.75	2.75	2.75	2.75					11
		鉢		1.5	1.5	1.5	1.5					6
		不明			0.33	0.33	0.33					1
	磁器	半球碗				7	7					14
		くらわんか碗					18	18	18			54
		広東碗						2.5	2.5			5
		小広東碗						5				5
		筒型碗						32	32			64
		端反碗							8.5	8.5		17
		湯呑碗								8		8
		碗			13	13	3.67	3.67	3.67	18		55
		皿	1	1		4.5	11	7.5	7	7		39
		皿(志田窯)							22.5	22.5		45
		五寸皿(鍋島)			1.33	1.33	1.33					4
		坏			2	2				8		12
		長頸瓶							65	65		130
		鉢								72		72
		香炉	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・19
		蓋物							22.5	22.5		45
		碗・皿	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・36
		その他	1	1	1	18.67	18.67	18.67	4.67	4.67	4.67	73
		その他	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・19
志戸呂	陶器	不明	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・8
京都	陶器	ままごと道具							0.5	0.5		1
京・信楽	陶器	灯明皿							3.67	3.67	3.67	11
		不明							4	6	2	12
瑯平	磁器	小判皿(ちり蓮華)								1	1	2
		不明								0.5	0.5	1
		年代別出土数	7	11.25	21.92	66.6	114.5	134.1	338.6	628.7	92.33	
											陶磁器合計	1518

※ 複数時期にまたがる場合は、点数を時期数で割った数値を記入している。

表５　近世陶磁器年代別出土数

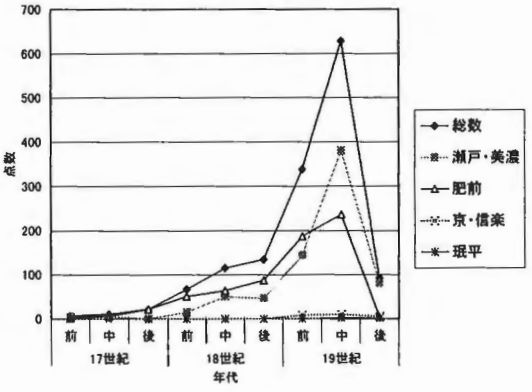
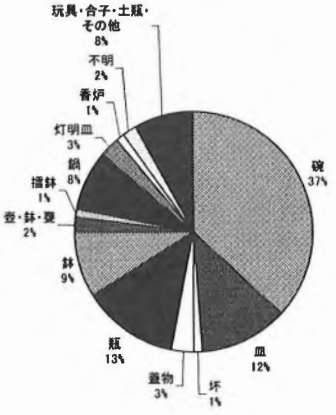


表６　近世陶磁器の器種別割合



第Ⅲ章　おわりに

1　まとめ

今回の発掘調査は、浅間大社における第10次目の調査として実施したものである。但し、その調査は、湧玉池に堆積した土砂等の排出に伴いその中に含まれる遺物の採集を主な目的としており、埋蔵文化財の調査としては、極めて特異な調査方法で実施されたものである。そのため、出土遺物の大半は、原位置を示さないものや、本来の機能を失ったものなどで占められている。それは、意図的に廃棄されたものや自然に流入したものなど様々であり、出土遺物の種別とうまく整合するものではない。層位的な峻別や分布範囲の違いから認められる形式差や年代差を表すものでもない。

遺物採集を主な調査方法とした今回の調査では、遺物個々の性格について明らかにすることはなかなか難しいが、出土遺物全体の傾向を検討するには適した資料であると言える。ある時期からは、直接、浅間大社の歴史に関わるもので構成され、以後、浅間大社の歴史に直接関連するものとなる点は、重要で、以前に発掘調査の成果として公開された出土品の変遷と類似するものとなっている。

出土品の中では、まず、５世紀中葉の須恵器の確認が特筆される。所謂、初期須恵器と呼ばれる段階のもので、元富士大宮司館とされる大宮城跡や富士市の沢東遺跡などでの出土が知られ、潤井川流域にその分布が見られるものである。静岡県東部地域では、狩野川中流域とともに、ややまとまった分布域が形成される（鈴木 1999）。この時代は、富士山の火山としての静穏期にあたるのであろうか。但し、その継続性は弱く５世紀中葉～６世紀の間で次段階には続かない。この地域は、富士山の噴火による火山灰地であり、生産性の非常に弱い土地であることを踏まえると、古墳時代の中期から後期かけてすでに富士山に関わる祭祀儀礼が共同体により執行されていたのではないかと考えることもできる。

平安時代の後葉から現代に至る出土遺物は、これまでの９次に亘る発掘調査を総合し、関連する遺物の構成と変遷を示しているものであると言える。出土遺物がその量を増やして一定の量が明らかになるのは、11世紀後半からであり、これまでの調査の成果と整合する。11世紀後半における祭祀施設の確立が窺えるのであり、先の大宮城における出土遺物とも共通している点を考えると、湧玉池から神田川にかけての地域における積極的な開発のあったことが想定されるのである。地域開発に対する朝廷との具体的な関わりは明らかではないものの、荘園制の普遍化とともに律令制の崩壊に関わる時代性に呼応した地域社会の大きな再編時期に関連しているのではないかと思われる。

11世紀以降、現代まで続く遺物の出土が知られるが、その出土量は、時代毎で大きく変動する。その量の多い時代として、11世紀後半から13世紀と18世紀後半から19世紀の２つの時代が確認されている。しかし、それぞれの遺物は、種類とともに用途においても大きな違いを示しており、それが時代毎の神社の様相を反映しているとなると、祭祀形態

あるいは神社施設自体の変化に呼応している可能性が考えられるのである。前者は、あくまでも土師質土器（かわらけ）を主体とした組成を示すもので、神社祭祀に直接関わる容器として捉えることができるものが多く出土している。威信財としての性格を持つ貿易陶磁器についても同様に神事に関わるものとして捉えられるような出土傾向を示すものとなっている。伝世品としての年代幅を見なければならないが、12 世紀後半代のものがややまとまっており、土師質土器と同じ年代の使用が窺えるものとなっている。このように、この段階の出土遺物は、形式の限られたものにより構成されている点を大きな特徴とする。

後者については、その様相が一転して碗類を主体とする日常什器がその多くを占める構成に変わる。大半は、肥前や瀬戸・美濃産の磁器であり、皿や碗などその種類も多い。この段階の出土遺物は、一般の人々が日常的に使う品々となるようであり、神社祭祀との関連は薄く、浅間大社に対する信仰が広く民衆レベルまで広がったことをよく表している。そして、数多く出土している玩具類は、その実態を的確に反映するのである。これまでの浅間大社境内地における近世陶磁器の出土は、第１次、第２次調査と今回の調査地点における出土が際立つものとなっており、境内でもその出土は、神田川側に偏る傾向にある。神社に参拝した人々の饗宴に関わる施設の存在が想定されるのであるが、浅間大社における繁栄期のひとつに関わるものとして、江戸時代の後半に数多くの人々の往来があったことを物語っている。この時代は、神仏習合の時代を経て廃仏毀釈に関わり大きく変化する時期を迎え、それを数多くの出土陶磁器が表している（若林 1996）とすると、この段階の集中時期を時代的な変遷の中で捉えることもできる。

このような２つの画期は、神社施設の確立期と民衆化による神社の繁栄期にそれぞれ関わるものとして、浅間大社の歴史的な過渡期となる事が指摘されるのである。

２　おわりに

今回は、湧玉池の土砂浚渫がその要因となったもので、非常な特異な方法で発掘調査が実施された。発掘調査により、浅間大社の歴史的な変遷を垣間見ることできる数多くの遺物群が出土しており、改めて富士山信仰の中枢を担う神社の性格が確認された。それは、国指定史跡としての浅間大社境内地の重要性をよく表していると言えるものでもある。

発掘調査にあたり、富士山本宮浅間大社ならびに富士宮市環境森林課には、調査に対するご理解と多大なご協力を賜わった。文末ながら感謝申し上げる次第である。

≪文献≫

鈴木敏則 1999「静岡県内における初期須恵器の流通とその背景」『静岡県考古学研究』No.31　静岡県考古学会

若林淳之 1996「浅間大社境内遺跡について」『浅間大社遺跡』富士宮市教育委員会

表7 古墳時代土師器・須恵器観察表

図-番号	種別	器種	計測値(cm)		色調	胎土	焼成	残存状況	備考
			底径	器高					
5-1	土師器	壺	(7.6)	(1.6)	灰黄褐(10YR6/2)	密 細かい長石をわずかにに含む	良	底部1/3	ドーナツ底
5-2	土師器	壺	(5.0)	(2.7)	明赤褐(5YR5/6)	密 細かい長石を含む	良	底部2/3	底面に線刻有
5-3	土師器	S字状口縁台付甕		(2.0)	明赤褐(5YR5/6)	やや密 細かい石英・長石・雲母を多く含む	良	接合部完形	在地産
5-4	土師器	台付甕		(2.1)	明褐(7.5YR5/6)	密 細かい長石をわずかに含む	良	接合部1/3	底部内面煤化
5-5	土師器	台付甕		(2.2)	橙(5YR6/6)	密 細かい長石・赤色粒を含む	やや不良	接合部完形	内外面ともに著しく磨滅 内面煤化
5-6	須恵器	坏身			外:暗青灰(5BG4/1) 断:赤褐(10R4/3)	密 細かい長石を含む	やや不良	坏部1/8	外面自然釉付着 TK208～TK23初期須恵器
5-7	須恵器	椀			灰(N6/0)	密 細かい長石を多く含む	良	口縁部1/8以下	
5-8	須恵器	蓋			灰(10Y6/1)	精良	良	蓋部小片	
5-9	須恵器	坏蓋			外:暗灰(N3/0) 断:灰赤(2.5YR5/2)	密	やや不良	蓋部小片	外面自然釉付着 初期須恵器
5-10	須恵器	壺又は甕			外:灰白(N7/0) 断:にぶい赤褐(5YR5/4)	密 細かい長石を含む	不良	胴部小片	初期須恵器
5-11	須恵器	壺又は甕			外:暗青灰(10BG4/1) 断:灰褐(5YR4/2)	密 細かい長石をわずかに含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器 外面先刻有
5-12	須恵器	壺又は甕			外:灰(N5/0) 断:灰褐(5Y5/2)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器 外面タタキのちナデ消し
5-13	須恵器	壺又は甕			外:灰(N4/0) 断:灰褐(5YR5/2)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-14	須恵器	壺又は甕			外:青灰(5B5/1) 断:灰褐(5YR5/2)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-15	須恵器	壺又は甕			外:灰(N5/0) 断:にぶい赤褐(5YR4/3)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器 外面タタキのちナデ消し
5-16	須恵器	壺又は甕			外:灰(N5/0) 断:灰褐(5Y5/2)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-17	須恵器	壺又は甕			外:灰(N5/0) 断:灰褐(5Y5/2)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-18	須恵器	壺又は甕			灰(N5/0)	精良	良	胴部小片	
5-19	須恵器	壺又は甕			外:/灰(N3/0) 断:灰赤(10R5/2)	精良	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-20	須恵器	壺又は甕			外:暗青灰(5BG4/1) 断:灰褐(5YR4/2)	密 細かい長石をわずかに含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-21	須恵器	壺又は甕			外:灰(7.5Y4/1) 断:灰褐(5YR5/2)	密 細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-22	須恵器	壺又は甕			外:青灰(10BG5/1) 断:灰褐(5YR5/2)	密 細かい長石を多く含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-23	須恵器	壺又は甕			灰(7.5Y6/1)	精良	良	胴部小片	湖西産 内外面に一部自然釉付着
5-24	須恵器	壺又は甕			灰(7.5Y4/1)	密 細かい長石をわずかに含む	良	胴部小片	外面に自然釉付着
5-25	須恵器	壺又は甕			灰(7.5Y6/1)	精良	良	胴部小片	湖西産
5-26	須恵器	壺又は甕			灰(10Y6/1)	精良	良	胴部小片	内外面ともに自然釉付着
5-27	須恵器	壺又は甕			灰白(7.5Y7/1)	精良	良	胴部小片	湖西産 外面に一部自然釉付着

図-番号	種別	器種	計測値(cm)		色調	胎土	焼成	残存状況	備考
			底径	器高					
5-28	須恵器	壺又は甕			灰(10Y6/1)	密　細かい長石・黒色粒をわずかに含む	良	胴部小片	湖西産　外面に一部自然釉付着
5-29	須恵器	壺又は甕			灰(5Y5/1)	密　細かい長石をわずかに含む	良	胴部小片	
5-30	須恵器	壺又は甕			外:灰(10Y5/1) 断:灰褐(5YR5/2)	精良	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-31	須恵器	壺又は甕			灰(N5/0)	密　細かい長石をわずかに含む	良	胴部小片	内外面ともに自然釉付着
5-32	須恵器	壺又は甕			外:暗緑灰(10GY4/1) 断:赤灰(7..5R5/1)	密　細かい長石を含む	やや不良	胴部小片	初期須恵器
5-33	須恵器	壺又は甕			灰(10Y5/1)	密　細かい長石を含む	良	胴部小片	外面に一部自然釉付着
5-34	須恵器	壺又は甕			灰(10Y5/1)	密　細かい長石を含む	良	胴部小片	
5-35	須恵器	壺又は甕			灰(10Y5/1)	密　細かい長石を含む	良	肩部小片	内外面ともに苔付着
5-36	須恵器	壺又は甕			灰(5Y6/1)	密　細かい長石を含む	良	胴部小片	42と同一個体か
5-37	須恵器	坏蓋			灰(7.5Y5/1)	精良	良	蓋部小片	
5-38	須恵器	坏蓋			灰白(7.5Y7/1)	精良	良	蓋部小片	湖西産　外面一部に自然釉付着
5-39	須恵器	平頂蓋			灰(5Y6/1)	密　細かい長石をわずかに含む	良	蓋部小片	湖西産　右回りの回転
5-40	須恵器	坏蓋			灰(7.5Y6/1)	密　細かい長石をわずかに含む	良	蓋部小片	湖西産　右回りの回転
5-41	須恵器	壺又は甕			灰(7.5Y5/1)	密　細かい長石を含む	良	口縁部小片	口縁端部と突帯の下に沈線
5-42	須恵器	壺又は甕		(3.9)	灰(5Y6/1)	密　細かい長石を含む	良	肩部1/8	36と同一個体か

表8　中世国産陶器・貿易陶磁器観察表

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
6-1	山茶碗	碗	東遠	12c代					胴部一部	自然釉	
6-2	灰釉陶器	碗	東遠	11c後半		(3.2)	(1.1)		底部1/2以下		
6-3	灰釉陶器	碗	東遠	11c後半		(5.8)	(2.4)		底部1/4以下		底部高台内糸切り痕残存
6-4	灰釉陶器	碗	東遠	11c後半		(5.6)	(1.2)		底部1/4以下		
6-5	山茶碗	片口鉢/碗	東遠	12c前半					底部1/4以下		内面滑らかになっている
6-6	山茶碗	碗	東遠	12c前半		(5.2)	(1.3)		底部1/4以下		
6-7	山茶碗	小碗	渥美か	12世紀代				高台径(6.6)	底部1/4以下		
6-8	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚0.9	口縁部一部	自然釉	1～5型式か
6-9	陶器	大甕	常滑	14c前半				器厚0.7	口縁部一部		7型式
6-10	陶器	甕	常滑	15c後半～16c前半				器厚1.1	口縁部一部		10･11型式
6-11	陶器	甕	常滑	15c後半～16c前半				器厚1.1	口縁部一部		10･11型式 折り返し不明瞭
6-12	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.1	口縁部一部		内外面とも自然釉見られる
6-13	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.5	頸部一部		
6-14	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.1	胴部一部		押印文
6-15	陶器	甕	渥美	12～13c				器厚1.1	胴部一部		押印文
6-16	陶器	甕	渥美	12～13c				器厚1.2	胴部一部		押印文
6-17	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.1	胴部一部		押印文
6-18	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚0.9	胴部一部		押印文
6-19	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.2	頸部～胴部一部		押印文
6-20	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.0	胴部一部		押印文
6-21	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.2	胴部一部	自然釉	押印文

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
6-22	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.2	胴部一部		押印文
6-23	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.1	胴部一部		押印文
6-24	陶器	甕	常滑	12～13c				器厚1.2	胴部一部		押印文
6-25	陶器	壺	常滑	12～13c				器厚1.0	胴部一部		横線
6-26	陶器	壺	常滑	12～13c				器厚0.7	胴部一部		横線
6-27	陶器	不明	常滑	12～13c				器厚0.6	胴部一部		横線
6-28	陶器	擂鉢	志戸呂	15c				器厚1.7	胴部一部	鉄釉	
6-29	磁器	碗・皿	中国	12c				器厚0.4	口縁部一部	白磁	Ⅴor Ⅷ類
6-30	磁器	碗・皿	中国	12c				器厚0.6	胴部一部	白磁	Ⅴor Ⅷ類
6-31	磁器	碗	中国・龍泉窯	12c中葉		(5.9)			底部1/2	青磁	劃花文碗 A2類
6-32	磁器	碗	中国・龍泉窯	12c後半				器厚0.6	口縁部一部	青磁	A4類 劃花文
6-33	磁器	碗	中国・龍泉窯	13c中葉				器厚0.6	口縁部一部	青磁	蓮弁文碗 B-1類
6-34	磁器	碗	中国・龍泉窯	13c中葉				器厚0.4	口縁部一部	青磁	蓮弁文碗 B-1類
6-35	磁器	碗	中国・龍泉窯	13c中葉				器厚0.4	口縁部一部	青磁	蓮弁文碗 B-1類
6-36	磁器	碗	中国・龍泉窯	13c中葉				器厚0.4	口縁部一部	青磁	蓮弁文碗 B-1類 貫入あり
6-37	磁器	碗	中国・龍泉窯	13c中葉				器厚0.6	口縁部一部	青磁	蓮弁文碗 B-1類
6-38	磁器	袋物(大型か)	中国・龍泉窯					器厚1.1	胴部一部か	青磁	文様不明 表・ヘラ状工具による陰刻・陽刻
6-39	磁器	盤	中国・龍泉窯	14c		(10.0)	(1.4)		底部1/6	青磁	
6-40	磁器	梅瓶	中国		(3.4)		(2.2)		口縁部1/4以下	青白磁	
6-41	磁器	合子蓋	中国					器厚0.4	一部	青白磁	

表9 近世陶器観察表

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
7-1	陶器	碗	瀬戸・美濃	18c前～19中		2.9	(1.9)		底部完存	灰釉系	内面施釉 外面～底部 露胎
7-2	陶器	碗	瀬戸・美濃	18c後			(2.0)	高台系(3.8)	胴部1/4以下	灰釉系	筒型碗 内面施釉 露胎
7-3	陶器	筒型碗(太白)	瀬戸・美濃	18c後～19c初			(3.2)	胴径(6.2)	胴部1/4以下		染付呉須
7-4	陶器	皿	瀬戸・美濃	18c中～後		(5.4)	(1.1)		底部1/2以下	灰釉系	内面施釉貫入あり 外面～底部 露胎
7-5	陶器	太白皿	瀬戸・美濃	18c後	(13.2)	(6.4)	3.7		1/2以下	灰釉 呉須による絵付	
7-6	陶器	片口鉢・こね鉢	瀬戸・美濃	18c中～19c中			(4.6)		胴部1/4以下	灰釉系	内面全面施釉 外面全面施釉
7-7	陶器	徳利	瀬戸・美濃	18c前～19c前			(4.2)	頸径(5.6)	胴～頸部1/4	灰釉系	内外面施釉 鉄絵
7-8	陶器	徳利	瀬戸・美濃	19c前～中		(8.6)	(14.0)		1/4		内面釉なし 外面釉あり 胎土 灰黄色 底部 釉 かきとる？ 後釉だれ
7-9	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃			(15.4)	(4.6)		底部1/4以下	鉄釉系	
7-10	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃			(15.4)	(7.0)		底部1/4以下	鉄釉系	
7-11	陶器	鍋	瀬戸・美濃	19c	(20.6)	(8.6)	10.0		1/2以下	鉄釉系	内面全面施釉 底部も露胎 把手2つか 足2ヶ所あり 見込み 目跡2ヶ所あり
7-12	陶器	鉢	瀬戸・美濃	19c		6.4	(3.8)		底部3/4 胴部1/4以下	鉄釉系	内面全面施釉 底部も露胎 見込み 目跡1ヶ所あり
7-13	陶器	灯明皿	瀬戸・美濃	18c後～19c中	(11.2)	4.8	2.2		底部ほぼ完存 口縁部1/4以下	鉄釉系	内面全面施釉 外面全面施釉 重ね焼き痕か
7-14	陶器	灯明皿	瀬戸・美濃	18c後～19c中		(4.8)	(1.0)		底部1/4以下	鉄釉系	内面全面施釉 外面全面施釉但し薄い 重ね焼き痕か
7-15	陶器	灯明皿	瀬戸・美濃	18c後～19c中		(5.4)	(0.9)		底部1/4以下	灰釉系か	
7-16	陶器	灯明皿	京・信楽	19c		4.0	(0.9)		底部2/3	灰釉系か	内面施釉 器面に細かい貫入 外面～底部 露胎 目跡1つあり

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
7-17	陶器	合子(蓋)	瀬戸・美濃	17c前	(5.4)		1.5		1/2以下	長石釉	外面施釉 釉が厚く表面に凸凹あり 下の鉄絵に濃淡を生ず 貫入あり 内面 合わせ部分露胎
7-18	陶器	餌入れ	瀬戸・美濃	19c前～中		5.0	(0.9)		底部1/2	灰釉系	内面施釉 底部露胎 糸切痕
7-19	陶器	赤目土瓶(蓋)	瀬戸・美濃	19c前～中	(7.2)		(1.5)		1/4以下	鉄釉系	内面露胎 外面施釉
7-20	陶器	碗	肥前	17c後～18c前		(5.4)	(1.1)		底部1/4以下	白化粧土？	内面施釉 高台露胎
7-21	陶器	鉢(刷毛目か)	肥前	17c後～18c前		(5.0)	(1.9)		1/4以下	白化粧土？	内面トチン跡 外面露胎
8-22	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	18c後半				器厚0.3	口縁部一部	鉄釉系	擂鉢Ⅱ類
8-23	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	19c前半				器厚0.7	口縁部一部	鉄釉系	擂鉢Ⅰ類
8-24	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	江戸				器厚1.0	口縁部一部	鉄釉系	
8-25	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	江戸				器厚1.1	胴部一部	鉄釉系	
8-26	陶器	擂鉢	瀬戸・美濃	江戸				器厚1.3	底部一部	鉄釉系	

表10 近世磁器観察表(肥前)

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬絵付け等	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
9-27	磁器	半球碗	肥前	18c前～中葉		(4.4)	(1.5)		底部1/4	染付	呉須 植物文か
9-28	磁器	半球碗	肥前	18c前～中葉		(3.6)	(1.2)		底部1/4以下	染付	呉須 文様不明
9-29	磁器	くらわんか碗	肥前	18c中葉～19c前葉	(6.8)	(3.0)	2.9		1/4		
9-30	磁器	くらわんか碗	肥前	18c中葉～19c前葉		2.9	(1.7)		底部完存		高台畳付 砂目あり
9-31	磁器	くらわんか碗	肥前	18c中葉～19c前葉		(4.4)	(1.4)		底部1/4	染付	呉須
9-32	磁器	くらわんか碗	肥前	18c中葉～19c前葉		(4.0)	(1.9)		底部1/4		
9-33	磁器	半球碗	肥前	18c前～中葉		(3.1)	(1.2)		底部1/4以下	染付	呉須 内面見込み円の中に菊花文 周囲に一重網目 外面二重網目 最下段の連結部分突出
9-34	磁器	半球碗	肥前	18c前～中葉		(2.9)	(1.0)		底部1/4以下	染付	呉須 内面見込み円の中に菊花文 周囲に一重網目 外面二重網目 最下段の連結部分突出
9-35	磁器	碗	肥前	18c後半～19c前葉		(3.8)	(2.1)		底部1/4以下	染付	呉須 見込み花文？ 外面文様不明
9-36	磁器	筒型碗	肥前	18c後葉～19c前葉	(6.6)		(4.2)		1/4	染付	呉須
9-37	磁器	筒型碗	肥前	18c後葉～19c前葉		(4.0)	(1.0)		底部1/4以下	染付	呉須 見込み文不明
9-38	磁器	筒型碗	肥前	18c後葉～19c前葉		(3.4)	(1.3)		底部1/4以下	染付	呉須 見込み文不明
9-39	磁器	筒型碗	肥前	18c後葉～19c前葉		(3.2)	(1.9)		底部1/4以下	染付	呉須
9-40	磁器	小広東碗	肥前	18c後葉		(2.6)	(2.1)		底部1/4以下	染付	呉須 見込み文不明 網目？ 外面放射状文？ 貫入あり
9-41	磁器	広東碗	肥前	18c末～19c前葉		(4.6)	(1.4)		底部1/4以下	染付	呉須 見込み極太図？ 高台内花文？ 貫入あり
9-42	磁器	広東碗	肥前	18c末～19c前葉		(5.4)	(0.9)		底部1/2	染付	呉須 見込み鷺文 高台内草花文
9-43	磁器	端反碗	肥前	19c前～中		4.8	(1.4)		底部ほぼ完存	染付	呉須 見込み草花文 外面草花文 見込み文に類似か
9-44	磁器	湯呑碗	肥前	19c前～中		(4.0)	(1.5)		底部1/4		
9-45	磁器	碗	肥前	19c中葉	7.3	3.6	5.6		ほぼ完存	瑠璃釉	
10-46	磁器	皿	肥前	17c前半		(5.4)	(1.4)		底部1/2以下	染付	呉須 見込み樹木文か

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬 絵付け等	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
10-47	磁器	皿	肥前	18c後半		(3.8)	(2.1)		底部1/4		見込釉ハギ 砂目あるいは胎土目積み痕あり
10-48	磁器	皿	肥前	18c後半	(13.8)		(2.7)		口縁部1/4以下	染付	呉須 口縁輪花
10-49	磁器	五寸皿	肥前	18c中葉～幕末					口縁部一部	染付	鍋島 呉須 花唐草文か
10-50	磁器	五寸皿	肥前	18c中葉～幕末					口縁部一部	染付	鍋島 呉須 花唐草文か
10-51	磁器	五寸皿	肥前	18c中葉～幕末					口縁部一部	染付	鍋島 呉須 花唐草文か
10-52	磁器	皿	肥前	19c前～中葉		(7.8)	(1.2)		底部1/4以下	染付	呉須 蛇の目高台
10-53	磁器	皿	肥前	19c前～中葉	(6.6)	(4.4)	1.9		1/4	染付	呉須 口錆 見込みブドウ文？
10-54	磁器	皿	肥前(志田窯)	19前～中		(14.8)	(1.6)		底部1/5以下	染付	呉須 内面山水文か ハリ支え痕3つ
10-55	磁器	皿	肥前(志田窯)	19前～中					口縁部一部	染付	呉須
10-56	磁器	皿	肥前(志田窯)	19前～中					口縁部一部	染付	呉須
10-57	磁器	皿	肥前(志田窯)	19前～中					底部一部	染付	呉須 焼継痕あり
10-58	磁器	皿	肥前(志田窯)	19c前～中葉	(28.8)	(17.0)	4.8		1/4以下	染付	呉須 口縁輪花 文様不明
11-59	磁器	坏	肥前	17c末～18c前葉		(3.4)	(2.7)		底部1/4以下	染付	呉須 文様不明
11-60	磁器	坏	肥前	19c中葉		(1.4)	(1.0)		底部1/4以下	染付	呉須
11-61	磁器	長頸瓶(小瓶)	肥前	19c前～中		(5.0)	(5.9)		1/4以下	染付	呉須 文様蛸唐草・櫛歯
11-62	磁器	長頸瓶(大瓶か)	肥前	19前～中			(9.0)	最大径(16.4)	胴部1/4以下	染付	呉須 釉ダレ下端
11-63	磁器	蓋物(蓋)	肥前	19c前～中葉	(11.5)		(1.7)		1/4以下	染付	呉須・上絵付
11-64	磁器	蓋物	肥前	19c前～中葉	(8.2)	(4.6)	4.4		1/2以下	染付	呉須
11-65	磁器	蓋物	肥前	19c前～中葉	(12.2)		(4.8)		1/4以下	染付	呉須 文様牡丹か
11-66	磁器	蓋物	肥前	19c前～中葉		(9.2)	(5.1)		1/3以下	染付	呉須
11-67	磁器	蓋物	肥前	19c前～中葉		(6.6)	(1.4)		底部1/3以下		
11-68	磁器	香炉	肥前	近世	(9.8)		(4.5)		口縁部1/4以下	青磁	
11-69	磁器	香炉	肥前	近世			(4.2)		1/4以下	青磁	
11-70	磁器	不明	肥前	19c			(3.5)		胴部一部		瓶類頸部か
12-71	磁器	鉢	肥前	19c中葉					口縁部一部	染付	呉須 内面草花文ほか 多角形鉢
12-72	磁器	鉢	肥前	19c中葉					口縁部一部	染付	呉須 内面草花文ほか 多角形鉢
12-73	磁器	鉢	肥前	19c中葉	(20.8)		(4.0)		口縁部1/2以下	染付	呉須 内外面とも梅花文・鳥文・波頭文・亀甲文 十二角形鉢
12-74	磁器	鉢	肥前	19c中葉					胴部一部	染付	呉須 内外面とも梅花文・鳥文・波頭文・亀甲文 十二角形鉢
12-75	磁器	鉢	肥前	19c中葉	(14.6)	(7.2)	6.6		1/4以下	染付	呉須 見込み文不明
12-76	磁器	鉢	肥前	19c中葉		(11.0)	(3.2)		底部1/4以下	染付	呉須

表11 近世磁器観察表(瀬戸・美濃)

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬 絵付け等	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
13-77	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(4.1)	(4.1)		底部ほぼ完存	染付	松葉文
13-78	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(4.0)	(3.8)		底部1/2	染付	山水文か
13-79	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(3.7)	(3.6)		1/4以下	染付	松葉文
13-80	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(4.1)	(3.1)		底部1/2以下	染付	松葉文
13-81	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(3.7)	(2.7)		底部ほぼ完存		貫入
13-82	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(3.0)	3.7		底部1/4	染付	丸文
13-83	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉	6.8	2.8	4.8		口縁部1/2以上 底部ほぼ完存	染付	草花文 蝶文
13-84	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中葉	(7.4)	(3.5)	5.2		1/2	染付	草花文 蝶文
13-85	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中		(3.1)	(1.8)		底部1/2以下	染付	見込文
13-86	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中		(3.2)	(1.7)		底部1/2	染付	見込文
13-87	磁器	湯呑碗	瀬戸・美濃	19c中			(1.6)		底部1/4		貫入

図-番号	種別	器種	産地	年代	計測値(cm)				残存状況	釉薬 絵付け等	備考(文様等)
					口径	底径	器高	その他			
13-88	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中葉	(11.0)		(5.2)		口縁部 1/4以下	染付	鳥文
13-89	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中	(10.8)	(3.8)	(5.5)		1/4以下	染付	重ね花文
13-90	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中		(5.0)	(3.7)		底部1/4	染付	重ね花文
13-91	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中葉		3.7	(2.6)		底部完存	染付	重ね花文 見込文
13-92	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中	(8.9)		(3.5)		口縁部 1/4	染付	口錆
13-93	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中葉			(3.2)		胴部2/3	染付	櫓垣文
13-94	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c中葉		(4.6)	(4.3)		底部1/4	染付	福字
13-95	磁器	端反碗	瀬戸・美濃	19c前葉		(4.3)	(1.5)		底部1/4	染付	見込文 底裏銘
13-96	磁器	丸碗	瀬戸・美濃	19c後半	10.2	4.1	5.3		1/2	染付	松葉文
13-97	磁器	丸碗	瀬戸・美濃	19c後半		(4.3)	(4.0)		1/4以下	染付	松葉文
13-98	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c後半			(1.5)		1/4以下	染付	
13-99	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c中		(7.8)	(2.4)		底部1/6	染付	松文 見込に銘
13-100	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c中		(7.9)			底部1/6	染付	松文
13-101	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c中	(14.4)	(7.6)	(3.3)		1/4以下	染付	見込文 蛇の目高台
13-102	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c中		(7.5)	(1.4)		底部1/4 以下	染付	蛇の目高台
13-103	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c中葉		(7.4)	(3.3)		底部1/4 以下	染付	蛇の目高台
13-104	磁器	皿	瀬戸・美濃	19c中葉	(13.9)	(5.7)	3.2		底部2/3	染付	口錆 蛇の目高台 見込竹文・松文
14-105	磁器	坏	瀬戸・美濃	19c後半		(3.0)	(2.2)		底部1/2		寿文
14-106	磁器	坏	瀬戸・美濃	19c後半		3.1	(2.6)		底部ほぼ 完存		寿文
14-107	磁器	香炉	瀬戸・美濃	19c中～ 後		(6.0)	(3.8)		底部1/2	青磁	
14-108	磁器	紅皿	瀬戸・美濃	19c中～ 後	(6.1)	(1.6)	(1.6)		1/3		蛸唐草
14-109	磁器	紅皿	瀬戸・美濃	19c中～ 後	6.1	1.5	1.5		一部欠損		蛸唐草
14-110	磁器	碗	瀬戸・美濃	20c前半	(9.3)		(5.0)		1/2以下	上絵付	青色「大社」
14-111	磁器	碗	瀬戸・美濃	20c前半	(8.8)		(4.8)		口縁部 1/4以下	上絵付	青色「大社」
14-112	磁器	碗	瀬戸・美濃	20c前半	(9.3)	(3.7)	(5.8)		1/4以下	上絵付	青色「大」
14-113	磁器	碗	瀬戸・美濃	20c前半	(8.8)		(4.6)		口縁部 1/4以下	上絵付	青色「淺」
14-114	磁器	碗	瀬戸・美濃	20c前半	(9.0)		(4.7)		口縁部 1/4	上絵付	青色「間大」
14-115	磁器	碗	瀬戸・美濃	20c前半		(3.8)	(1.9)		底部1/3	上絵付	青色 見込丸に棕櫚

表12 土器類観察表

図-番号	器種	計測値(cm)			残存状況	備考
		口径	底径	器高		
15-1	土器師 坏		(7.5)	(2.2)	底部1/4以下	
15-2	土器師 坏		(6.4)	(1.4)	底部1/4	
15-3	土器師 坏		(6.0)	(1.3)	底部約1/6	
15-4	かわらけ(足高高台)		(4.8)	(2.1)	底部2/3	
15-5	かわらけ(足高高台)		(4.8)	(1.8)	底部1/3	内外面とも著しく磨滅
15-6	かわらけ(足高高台)		(5.2)	(2.0)	底部1/3	内外面とも著しく磨滅
15-7	かわらけ(足高高台)		(4.2)	(1.5)	底部約1/4	内外面とも著しく磨滅
15-8	かわらけ(足高高台)		(6.2)	(2.3)	底部1/2	内外面とも著しく磨滅
15-9	かわらけ(高台付)		(8.0)	(2.4)	底部1/4	
15-10	かわらけ(高台付)		7.0	(1.5)	底部1/4	
15-11	かわらけ(柱状高台)	8.7	6.6	5.2	1/5欠損	内面イタメ痕
15-12	かわらけ(柱状高台)		(6.0)	(4.3)	脚部3/4以下	
15-13	かわらけ(柱状高台)	(8.1)	5.8	4.8	脚部ほぼ完形 杯部約1/4	
15-14	かわらけ(柱状高台)	(8.8)	5.4	4.4	底部全周 口縁一部	底部外面墨書か
15-15	かわらけ(柱状高台)		(5.0)	(4.3)	底部1/2	
15-16	かわらけ(柱状高台)		(6.0)	(1.9)	脚底部1/4	
15-17	かわらけ(柱状高台)		(7.4)	(2.9)	底部1/2	胎土に小石を含む
15-18	かわらけ(柱状高台)			(2.3)	底部1/4	
15-19	かわらけ(柱状高台)	頸部径 (4.0)		(2.7)	底部1/4以下	
15-20	かわらけ(柱状高台)		(4.4)	(4.2)	底部2/3	
15-21	かわらけ(柱状高台)		5.0	(2.0)	底部ほぼ完存	
15-22	かわらけ(柱状高台)		(5.2)	(5.2)	底部2/3	傷あり 整形時か
15-23	かわらけ(柱状高台)		(6.2)	(5.2)	底部1/2	
15-24	かわらけ(柱状高台)		5.8	(5.0)	脚部ほぼ完形	内外面とも著しく磨滅・剥離
15-25	かわらけ(柱状高台)		(4.6)	(1.7)	底部2/3	内外面とも磨滅
15-26	かわらけ(柱状高台)		(5.8)	(2.7)	底部1/6	
15-27	かわらけ		(5.6)	(2.3)	底部1/4以下	
15-28	かわらけ		(4.6)	(1.7)	底部1/3	内外面とも少し磨滅
15-29	かわらけ		(5.2)	(1.5)	底部約1/4	
15-30	かわらけ		(5.8)	(1.7)	底部1/4以下	
15-31	かわらけ		(5.0)	(1.4)	底部約1/4	少し磨滅
15-32	かわらけ		(6.9)	(1.5)	底部1/4	
15-33	かわらけ		(7.2)	(1.5)	底部1/4	内外面とも少し磨滅
15-34	かわらけ		(6.7)	(1.5)	底部1/4以下	
15-35	かわらけ		(8.1)	(1.6)	底部1/4以下	
15-36	かわらけ		(5.0)	(1.2)	底部1/5	底面磨滅

図-番号	器種	計測値(cm)			残存状況	備考
		口径	底径	器高		
15-37	かわらけ		(6.8)	(1.4)	底部1/4	
15-38	かわらけ		(6.6)	(1.1)	底部約1/4	
16-39	かわらけ	(9.0)	(5.2)	2.2	約1/3	
16-40	かわらけ	(10.0)	(5.6)	2.2	1/4	
16-41	かわらけ	(8.8)	5.3	2.2	底部完存 口縁一部	
16-42	かわらけ	(9.2)	(5.5)	2.4	1/4以下	
16-43	かわらけ	(8.6)	(6.6)	2.1	1/4	
16-44	かわらけ	(9.6)	(5.6)	2.1	1/3	
16-45	かわらけ	(10.0)		(2.3)	底部1/2以下	
16-46	かわらけ	(9.8)		(1.8)	口縁部1/4以下	
16-47	かわらけ	(8.6)		(2.0)	底部1/4以下	
16-48	かわらけ	(8.4)		(1.8)	口縁部1/4以下	表面スス付着
16-49	かわらけ	(12.4)		(2.0)	口縁部1/4以下	焼成非常に良好 中心黒化
16-50	かわらけ	(6.8)	(6.4)	1.2	1/4	
16-51	かわらけ	(5.6)	(5.2)	1.1	1/4以下	
16-52	かわらけ		(4.6)	(0.9)	底部1/4以下	
16-53	かわらけ	(7.2)	(6.6)	1.3	1/4以下	
16-54	かわらけ	(4.8)	(4.6)	1.6	1/5	
16-55	かわらけ		5.2	(2.0)	底部完存 胴部1/4以下	
16-56	かわらけ		(4.4)	(1.6)	底部約1/4	
16-57	かわらけ		4.0	(1.5)	底部完存	
16-58	かわらけ		(8.0)	(1.7)	1/4以下	
16-59	かわらけ		(4.8)	(1.2)	底部約1/3	
16-60	かわらけ		(6.4)	(2.0)	底部完存	
16-61	かわらけ		(7.2)	(1.5)	底部約1/2	
16-62	かわらけ		(6.2)	(2.1)	底部1/2	
16-63	かわらけ		(6.7)	(1.5)	底部1/2以下	
16-64	かわらけ		4.6	(1.3)	底部1/2	
16-65	かわらけ		4.4	(1.1)	底部約2/3	
16-66	かわらけ		5.1	(1.6)	底部一部欠け	
16-67	かわらけ		(5.6)	(1.4)	底部1/3	
16-68	かわらけ		(6.4)	(1.8)	底部1/3	内外面とも磨滅
16-69	かわらけ		6.4	(1.8)	底部1/2以下	
16-70	かわらけ		6.5	(1.5)	底部完存	
16-71	かわらけ		(7.4)	(1.8)	底部2/3	
16-72	かわらけ		(6.2)	(1.5)	底部1/4	
16-73	かわらけ		(5.0)	(1.3)	底部1/4	
17-74	かわらけ		(4.8)	(1.2)	底部約1/2	
17-75	かわらけ		(4.6)	(1.4)	底部約1/3	
17-76	かわらけ		(3.6)	(0.8)	底部1/4	内外面とも磨滅
17-77	かわらけ		(5.0)	(1.9)	底部1/4以下	
17-78	かわらけ		(5.4)	(2.5)	底部約1/4	
17-79	かわらけ		(5.4)	(2.2)	底部1/6	
17-80	かわらけ		(7.0)	(3.0)	底部1/4	
17-81	かわらけ		(8.2)	(2.9)	底部1/4以下	
17-82	かわらけ		(6.6)	(2.7)	底部1/2以下	
17-83	かわらけ		(7.8)	(1.8)	底部1/4	内外面とも著しく磨滅
17-84	かわらけ		(7.8)	(1.8)	底部約1/3	内外面とも著しく磨滅
17-85	かわらけ		(5.6)	(1.7)	底部約1/3	内外面とも著しく磨滅
17-86	かわらけ		(6.8)	(2.0)	底部約1/4	内外面とも磨滅
17-87	かわらけ		(4.2)	(1.6)	底部1/6	内外面とも著しく磨滅
17-88	かわらけ		(7.0)	(1.6)	底部1/4	
17-89	かわらけ		(5.4)	(1.4)	底部1/2	
17-90	かわらけ		(6.0)	(1.9)	底部約1/3	内外面とも著しく磨滅
17-91	かわらけ		(6.4)	(1.5)	底部1/4	内外面とも著しく磨滅
17-92	かわらけ		(5.4)	(1.5)	底部1/4	内外面とも著しく磨滅
17-93	かわらけ		(4.2)	(1.4)	底部1/4	
17-94	かわらけ		(6.6)	(1.7)	底部1/5	内外面とも著しく磨滅
17-95	かわらけ		(5.2)	(1.6)	底部1/4	内外面とも著しく磨滅
17-96	かわらけ		(7.0)	(1.9)	底部1/4	内外面とも著しく磨滅
17-97	かわらけ		(5.0)	(1.6)	底部1/6	
17-98	かわらけ		(6.6)	(2.0)	底部1/5	内面被熱により黒変
17-99	かわらけ		(7.6)	(2.5)	底部1/4以下	
17-100	かわらけ		(7.0)	(1.6)	底部1/6	内外面とも少し磨滅
17-101	かわらけ		(8.6)	(2.0)	底部1/4以下	
17-102	かわらけ		(4.8)	(1.3)	底部1/4	
17-103	かわらけ		(5.8)	(1.7)	底部1/6	
17-104	かわらけ		(6.4)	(1.9)	底部1/4	
17-105	かわらけ		(6.5)	(1.9)	底部1/2以下	
17-106	かわらけ		(4.6)	(1.6)	底部1/3	内外面とも磨滅
17-107	かわらけ		(7.0)	(1.4)	底部1/4以下	
17-108	かわらけ		(4.6)	(1.1)	底部1/2	
17-109	かわらけ		(6.8)	(1.5)	底部1/4	
17-110	かわらけ		4.6	(1.2)	底部完形	
17-111	かわらけ		(7.8)	(1.8)	底部約1/4	内外面とも少し磨滅
17-112	かわらけ		(7.0)	(2.4)	底部1/4	内外面とも著しく磨滅
17-113	かわらけ		(6.2)	(1.7)	底部1/4	内外面とも磨滅
17-114	かわらけ		(6.8)	(1.8)	底部1/4	
17-115	かわらけ		5.6	(1.9)	底部一部欠け	
17-116	かわらけ		(7.7)	(1.7)	底部1/4	
17-117	かわらけ		(6.4)	(1.4)	底部1/4	
17-118	かわらけ		(6.2)	(1.9)	底部1/2以下	

図-番号	器種	計測値(cm)			残存状況	備考
		口径	底径	器高		
18-119	かわらけ		(8.4)	(1.7)	底部1/3	内外面とも磨滅
18-120	かわらけ		(6.2)	(1.7)	底部約1/4	内外面とも著しく磨滅
18-121	かわらけ		(4.4)	(1.8)	底部1/4	
18-122	かわらけ		(7.6)	(1.4)	底部1/4	内外面とも磨滅
18-123	かわらけ		(6.0)	(1.2)	底部1/4	内外面とも磨滅
18-124	かわらけ		(5.6)	(1.4)	底部1/5	
18-125	かわらけ		(7.4)	(1.3)	底部1/4以下	
18-126	かわらけ		(6.4)	(1.3)	底部約1/4	内外面とも著しく磨滅
18-127	かわらけ		(5.6)	(1.3)	底部1/4	
18-128	かわらけ		(7.2)	(1.4)	底部1/4以下	
18-129	かわらけ		(6.6)	(1.3)	底部1/4	
18-130	かわらけ		(7.0)	(1.7)	底部1/2以下	
18-131	かわらけ		(7.4)	(1.4)	底部1/4	
18-132	かわらけ		(5.0)	(1.2)	底部1/4以下	
18-133	かわらけ		(5.0)	(1.3)	底部一部欠け	
18-134	かわらけ		(5.0)	(1.2)	底部1/3	
18-135	かわらけ		(6.0)	(1.1)	底部1/4以下	
18-136	かわらけ		(8.0)	(1.5)	1/4以下	
18-137	かわらけ		(5.4)	(1.5)	底部1/2以下	焼成非常に良好　中心黒化
18-138	かわらけ		(5.2)	(1.3)	底部1/4以下	
18-139	かわらけ		(6.4)	(1.3)	底部1/6	
18-140	かわらけ		(6.0)	(1.6)	底部1/4	
18-141	かわらけ		(5.0)	(1.7)	底部1/4以下	
18-142	かわらけ		(6.4)	(1.4)	底部1/4以下	
18-143	かわらけ		(6.0)	(1.7)	約1/4	
18-144	かわらけ		(7.0)	(2.9)	1/4以下	焼成良好
18-145	かわらけ		(6.4)	(1.9)	底部1/4以下	
18-146	かわらけ		(5.4)	(1.2)	底部1/4	
18-147	かわらけ		(4.0)	(1.1)	底部1/4以下	
18-148	かわらけ		(4.0)	(1.2)	底部1/4以下	
18-149	かわらけ		(5.0)	(1.5)	底部1/2以下	
18-150	かわらけ		(5.4)	(1.3)	底部1/3	内外面とも著しく磨滅
18-151	かわらけ		(6.8)	(1.1)	底部1/4	
18-152	かわらけ		(4.6)	(1.3)	底部1/4以下	
18-153	かわらけ		(5.8)	(1.3)	底部1/5	内外面とも著しく磨滅
18-154	かわらけ		(6.6)	(1.1)	底部1/4以下	
18-155	かわらけ		(5.4)	(1.2)	底部1/8	
18-156	かわらけ		(7.4)	(1.9)	底部1/4以下	
18-157	かわらけ		(7.0)	(1.5)	底部1/4以下	
18-158	かわらけ		5.5	(1.4)	底部3/4	
18-159	かわらけ		(6.8)	(1.3)	底部1/4以下	胎土に小石を含む
18-160	かわらけ		(6.6)	(1.3)	底部1/4	
18-161	かわらけ		(5.2)	(1.8)	底部1/4以下	焼成良好
18-162	かわらけ		(6.2)	(1.0)	底部1/5	
18-163	かわらけ		(4.6)	(0.8)	底部1/4	
18-164	かわらけ		(4.6)	(0.8)	底部1/4	
18-165	かわらけ		(6.6)	(0.8)	底部1/4	焼成良好
18-166	かわらけ		(5.8)	(2.0)	底部1/6	
18-167	かわらけ		(5.2)	(1.7)	底部1/4	外面被熱により煤化
18-168	かわらけ		(6.4)	(1.2)	底部1/4以下	
19-169	かわらけ		(7.5)	(1.4)	底部1/4以下	
19-170	かわらけ		(7.6)	(1.5)	底部1/4以下	
19-171	かわらけ		(5.8)	(1.2)	底部1/4以下	
19-172	かわらけ		(6.9)	(1.6)	底部1/2以下	
19-173	かわらけ		(6.0)	(1.5)	底部1/3	外面少量磨滅
19-174	かわらけ		(5.4)	(1.5)	底部1/3	内外面とも少し磨滅
19-175	かわらけ		(5.0)	(1.5)	底部1/2以下	
19-176	かわらけ		(5.4)	(1.5)	底部1/2以下	
19-177	かわらけ		(5.4)	(1.1)	底部1/4以下	
19-178	かわらけ		(4.6)	(1.6)	底部1/4	
19-179	かわらけ		(6.0)	(1.7)	底部1/4	
19-180	かわらけ		(5.6)	(1.5)	底部1/3	
19-181	かわらけ		(5.8)	(1.1)	底部1/4	
19-182	かわらけ		(8.0)	(1.7)	底部1/2以下	
19-183	かわらけ		(7.0)	(1.4)	底部1/4	
19-184	かわらけ		(6.4)	(1.1)	底部1/4以下	
19-185	かわらけ		(6.0)	(0.9)	底部1/4以下	
19-186	かわらけ		(5.2)	(1.1)	底部1/4以下	
19-187	かわらけ	12.4	6.6	2.6	2/3	
19-188	かわらけ		(6.4)	(1.2)	底部約1/4	内外面とも被熱により黒変
19-189	かわらけ		(5.4)	(0.7)	底部1/4以下	
19-190	かわらけ		(5.2)	(0.8)	1/4以下	近代？　焼成非常に良好
19-191	上製かわらけ	(24.2)	(9.0)	5.9	1/4	近代　焼成非常に良好
19-192	上製かわらけ	(24.8)		(4.9)	口縁部1/4	近代　焼成非常に良好
19-193	上製かわらけ	(24.6)		(5.5)	口縁部1/4以下	近代？　焼成非常に良好
19-194	上製かわらけ	(18.4)	7.6	4.0	底部ほぼ完存 口縁部1/4	近代　焼成非常に良好
19-195	上製かわらけ		(8.2)	(2.1)	底部1/4以下	近代？　焼成非常に良好
19-196	器種不明	(17.0)		(8.4)	口縁部1/4以下 頸部ほぼ全周	近代　焼成良好
19-197	器種不明			(4.3)	1/4以下	近代　焼成良好
19-198	上製かわらけ	9.2	(4.6)	1.8	口縁～底部一部欠け	現代

表13 石製品観察表

図-番号	器種	材質	計測値(cm, g)				備考
			長さ	幅	厚	重さ	
20-1	砥石	凝灰岩	(5.5)	2.9	3.0	79.1	欠損あり
20-2	砥石	凝灰岩	(4.3)	3.4	1.9	47.3	欠損あり
20-3	砥石	凝灰岩	(4.7)	3.8	1.9	44.0	欠損あり
20-4	砥石	凝灰岩	(4.0)	3.7	1.8	34.2	欠損あり
20-5	砥石	凝灰岩	(4.3)	2.6	0.8	11.3	欠損あり
20-6	砥石	凝灰岩	(5.4)	2.7	1.0	21.5	欠損あり
20-7	砥石	凝灰岩	(3.9)	(3.9)	1.0	20.3	欠損あり
20-8	碁石	粘板岩	2.2	2.1	0.4	3.3	欠損あり
20-9	不明	頁岩	(4.5)	(2.5)	1.1	16.9	表・彫り込み葉様

表14 土製品観察表

図-番号	種別	計測値(cm、g)				絵柄等	備考
		縦	横	厚	重さ		
21-1	人形	3.90	1.64	1.2	7.4	人形・虚無僧	型合わせ
21-2	人形	2.65	2.55	1.98	8.3	人形・大黒天	型合わせ
21-3	人形	1.70	2.32	1.1	2.6	人形・狐	型合わせ
21-4	人形	2.70	2.25	1.8	8.8	人形・恵比寿	型合わせ
21-5	人形	3.70	1.90	1.95	6.7	人形・鳥(鳩?)	型合わせ 中空
21-6	人形	3.90	2.83	1.2	10.5	人形・首	型合わせ
21-7	泥面子(芥子面)	1.33	1.26	0.4	0.6	大黒天	型押し
21-8	泥面子(芥子面)	2.51	1.89	0.7	2.8	毘沙門天?	型押し
21-9	泥面子(芥子面)	2.48	1.85	0.6	3.0	神仏像か	型押し 彩色あり 表面磨滅
21-10	泥面子(芥子面)	2.45	2.08	0.7	2.8	人面(役者?)	型押し 彩色あり
21-11	泥面子(芥子面)	1.92	1.66	0.8	2.4	妖怪(河童)	型押し
21-12	泥面子(芥子面)	1.78	1.65	0.5	1.8	鬼	型押し 2本角 彩色ありか
21-13	泥面子(芥子面)	2.07	1.93	0.9	3.5	鬼	型押し 1本角
21-14	泥面子(芥子面)	2.61	2.20	0.8	3.5	火男	型押し
21-15	泥面子(芥子面)	2.10	1.76	0.6	2.2	馬上の侍	型押し
21-16	泥面子(芥子面)	2.07	1.54	0.7	1.3	狐	型押し
21-17	泥面子?(芥子面?)	1.29	0.97	0.9	1.4	猿	型押し
21-18	泥面子(芥子面)	2.46	2.53	0.7	3.2	鶴	型押し
21-19	泥面子(芥子面)	2.88	2.02	0.7	3.0	亀	型押し
21-20	泥面子(芥子面)	2.22	2.11	0.6	2.3	鯛	型押し
21-21	泥面子(芥子面)	2.21	2.03	0.6	2.2	鯛	型押し
21-22	泥面子(芥子面)	2.25	2.17	0.7	2.7	七宝?	型押し
21-23	泥面子(芥子面)	2.25	2.74	0.6	3.7	七宝?	型押し
22-24	泥面子(芥子面)	2.59	2.10	0.6	2.9	小槌	型押し
22-25	泥面子(芥子面)	(2.07)	1.87	0.5	2.2	軍配	型押し
22-26	泥面子(芥子面)	1.94	2.07	0.7	1.8	奴	型押し
22-27	泥面子(芥子面)	(1.90)	2.37	0.8	3.1	蛸?	型押し
22-28	泥面子(芥子面)	1.77	1.45	0.76	1.28	不明	型押し
22-29	泥面子?	1.60	2.04	0.5	1.7	不明	型押し 凸面に絵柄
22-30	泥面子(芥子面)	(1.24)	(1.27)	0.5	0.8	菊?	型押し
22-31	不明	1.63	2.15	0.3	0.9	不明	型押し

表15 金属製品観察表

図-番号	器種	材質	計測値(cm)			備考
			長さ	幅	厚	
23-1	煙管	青銅	5.35	0.85	0.85	雁首(火皿欠損) 羅宇木質遺存
23-2	煙管	青銅	5.75	1.05	1.00	雁首(火皿欠損)
23-3	煙管	青銅	6.0	0.95	1.0	吸口
23-4	不明	青銅	1.95	1.95	0.1	板状
23-5	不明	青銅	11.2	0.45	0.45	釘状
23-6	釘	鉄	16	0.8	0.75	先端欠損
23-7	釘	鉄	13.4	0.7	0.6	ほぼ完存
23-8	釘	鉄	11.6	0.95	0.65	先端欠損
23-9	釘	鉄	13.6	0.8	0.8	ほぼ完存
23-10	釘	鉄	9.6	0.8	0.8	先端欠損
23-11	釘	鉄	12.55	0.55	0.5	先端欠損
23-12	釘	鉄	4.6	0.6	0.6	先端欠損
23-13	釘	鉄	9.1	0.7	0.7	先端欠損
23-14	釘	鉄	7.1	0.6	0.55	先端欠損
23-15	釘	鉄	5.1	0.6	0.4	先端欠損
23-16	釘	鉄	6.6	0.65	0.55	先端欠損
23-17	釘	鉄	6.5	0.5	0.5	頭部欠損
23-18	釘	鉄	8.2	0.7	0.65	ほぼ完存
23-19	釘	鉄	6.2	0.8	0.7	頭部・先端欠損
23-20	釘	鉄	3.2	0.3	0.3	先端欠損
23-21	釘	鉄	4.25	0.3	0.3	ほぼ完存
23-22	釘	鉄	6.3	0.7	0.5	先端欠損
23-23	釘	鉄	4.75	0.5	0.45	頭部・先端欠損
23-24	釘	鉄	8	0.6	0.55	頭部・先端遺存
23-25	釘	鉄	4.35	0.45	0.4	頭部・先端欠損
23-26	釘	鉄	5.15	0.4	0.35	頭部欠損
23-27	釘	鉄	3.7	0.4	0.35	頭部欠損
23-28	釘	鉄	9.1	0.5	0.5	頭部・先端欠損
24-29	釘	鉄	5.3	0.5	0.5	頭部・先端欠損
24-30	釘	鉄	6.05	0.45	0.4	頭部・先端欠損
24-31	釘	鉄	6.8	0.45	0.4	先端欠損
24-32	釘	鉄	3.9	0.4	0.4	頭部・先端欠損
24-33	釘	鉄	7.1	0.7	0.6	頭部不明、先端欠損
24-34	釘	鉄	5.25	0.5	0.45	頭部・先端欠損
24-35	釘	鉄	4.65	0.4	0.3	頭部・先端欠損
24-36	釘	鉄	5.5	0.65	0.5	頭部・先端欠損
24-37	釘	鉄	3.2	0.5	0.5	頭部・先端欠損
24-38	釘	鉄	3.4	0.7	0.4	頭部・先端欠損
24-39	釘	鉄	3.05	0.5	0.4	頭部・先端欠損
24-40	釘	鉄	2.75	0.5	0.5	頭部・先端欠損
24-41	釘	鉄	3.65	0.4	0.45	頭部・先端欠損
24-42	釘	鉄	2.65	0.4	0.45	頭部・先端欠損
24-43	釘	鉄	2.6	0.2	0.3	頭部・先端欠損
24-44	釘	鉄	9.4	1.2	0.9	頭部・先端欠損
24-45	楔	鉄	5.1	1.0	0.6	ほぼ完存
24-46	楔	鉄	3.8	0.4	0.35	ほぼ完存
24-47	不明	鉄	3.9	0.55	0.5	ほぼ完存
24-48	不明	鉄	5.1	0.4	1.05	頭部・先端欠損

表16 瓦観察表

図-番号	種別	計測値(cm)					色調	胎土	焼成	備考
		瓦当			長	厚				
		径	幅	厚						
25-1	軒丸瓦	(3.5)		1.5			にぶい黄橙(10YR7/4)	細かな砂粒を多く含む	良好	圏線あり
25-2	軒丸瓦	(1.5)		1.5			にぶい黄橙(10YR7/4)	細かな砂粒を多く含む	良好	いぶし瓦？
25-3	軒丸瓦	(7.8)		1.6			暗灰(N3/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	

図-番号	種別	計測値(cm)					色調	胎土	焼成	備考
		瓦当			長	厚				
		径	幅	厚						
25-4	軒桟瓦	(7.5)		2.3			灰(N4/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-5	軒桟瓦	(9.9)		3.1			灰(N4/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-6	軒丸瓦	(5.0)		1.7	(12.6)	2.0	灰(N4/0)	砂粒多く含む 雲母見られる	良好	
25-7	軒桟瓦	(7.2)		2.0			灰オリーブ(7.5Y 6/2)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-8	軒桟瓦	(9.5)		2.0			暗オリーブ灰(2.5GY 4/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-9	軒平瓦	(4.2)		1.7	(3.3)		暗灰(N3/0)	砂粒多い 雲母見られる	良好	
25-10	軒平瓦	(6.0)		1.7			暗灰(N3/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-11	軒桟瓦	(4.5)		2.0			灰白(7.5Y 7/1)	砂粒多く含む	良好	
25-12	軒桟瓦	7.7		1.9	(4.1)	1.9	暗灰(N3/0)	砂粒含むが少量 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-13	軒桟瓦	7.6		1.7		2.0	暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-14	軒桟瓦	(7.6)		1.7	(9.8)	1.9	暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-15	軒桟瓦	(7.9)		1.7	(4.0)	1.9	暗オリーブ灰(2.5GY 4/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-16	軒丸瓦	(7.7)		1.9			灰(N4/0)	砂粒含むが少量 雲母見られる	良好	
25-17	軒平瓦		4.2	1.9	(3.5)	1.7	暗灰(N3/0)	砂粒含むが少量 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-18	軒平瓦		4.5	1.7	(2.7)		暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-19	軒平瓦		(4.2)	1.6	(5.9)	1.6	暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-20	軒平瓦		4.2	2.0			暗灰(N3/0)	砂粒含むが少量 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-21	軒平瓦		(3.8)		(2.3)	1.3	灰(7.5Y 6/1)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-22	軒平瓦		4.2	1.7	(3.5)	1.4	暗灰(N3/0)	砂粒含むが少量 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-23	軒平瓦		4.4	1.0	(2.0)		暗灰(N3/0)	砂粒含むが少量 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-24	軒平瓦		4.0	1.6	(10.2)	1.7	暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-25	軒平瓦		(4.1)	1.8	(5.1)	1.5	暗灰(N3/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-26	軒桟瓦		4.1	1.7		1.7	褐灰(5YR 5/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-27	軒平瓦		4.3		(2.7)	1.5	灰(7.5Y 5/1)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-28	軒平瓦		3.7	1.7	(2.9)	1.3	暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
25-29	軒平瓦		4.0	1.5	(5.7)	1.4	暗灰(N3/0)	砂粒含む 瓦当に雲母目立つ	良好	
				計測値(cm)						
				長	幅	厚				
25-30	平瓦			(8.5)	(10.2)	2.0	暗灰(N3/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
25-31	平瓦			(10.5)	(8.0)	1.7	暗灰(N3/0)	砂粒含むが少量 雲母見られる	良好	
25-32	平瓦			(9.4)	(10.2)	2.0	暗灰(N3/0)	砂粒含む	良好	
26-33	丸瓦			(13.8)	(11.0)	1.9	灰(N4/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	穿孔あり
26-34	丸瓦			(17.0)	(9.7)	1.6	褐灰(10YR4/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-35	丸瓦			(18.5)	(6.8)	1.5	灰(N5/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-36	丸瓦			(15.0)	(9.5)	1.6	灰(5Y5/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-37	丸瓦			(10.2)	(7.9)	1.6	オリーブ灰(2.5GY5/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	穿孔あり
26-38	丸瓦			(7.7)	(5.8)	1.5	灰(N4/0)	砂粒含む	良好	
26-39	丸瓦			(7.9)	(6.2)	1.9	灰オリーブ(5Y5/2)	砂粒含むが少量 やや密	良好	

図-番号	種別			計測値(cm)			色調	胎土	焼成	備考
				長	幅	厚				
26-40	丸瓦			(10.1)	(9.8)	1.65	灰(N5/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-41	丸瓦			(7.5)	(11.4)	1.7	灰白 (N7/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-42	丸瓦			(13.7)	(11.0)	1.6	暗灰 (N3/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-43	丸瓦			(8.5)	(8.7)	2.2	灰 (10Y5/1)	砂粒含む	良好	
26-44	丸瓦			(9.5)	(7.1)	1.7	灰(N4/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	穿孔あり
26-45	鬼瓦			(5.3)	(6.6)	(2.5)	暗灰 (N3/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-46	鬼瓦			(8.8)	(8.0)	3.2	灰(N4/0)	砂粒含む 雲母見られる	良好	
26-47	平瓦			(10.9)	(11.1)	3.3	暗灰 (N3/0)	砂粒含むが少量 密　雲母見られる	良好	
26-48	文字瓦			(14.7)	(10.5)	1.7	黒(N2/0)	砂粒含む	良好	いぶし瓦
26-49	文字瓦			(4.1)	(8.7)	3.0	灰(7.5Y 6/1)	砂粒含む 雲母見られる	良好	いぶし瓦
26-50	文字瓦			(3.1)	(4.0)	(1.6)	灰オリー ブ(5Y6/2)	砂粒含む 雲母見られる	良好	いぶし瓦

表17　銭貨観察表

No.	銭名	計測値				材質	初鋳年代 (西暦)	分類	備考
		外径(cm)	穿(cm)		重さ(g)				
			縦	横					
27-1	開元通宝	2	0.70	0.69	2.1	銅	624		唐銭
27-2	開元通宝	2.33	0.61	0.61	2.1	銅	624		唐銭
27-3	天禧通宝	2.44	0.63	0.70	4.0	銅	1018		北宋
27-4	天聖元宝	2.40	0.70	0.66	3.3	銅	1023		北宋
27-5	天聖元宝	2.45	0.73	0.72	3.0	銅	1023		北宋
27-6	天聖元宝	2.45	0.69	0.70	1.9	銅	1023		北宋　一部欠損
27-7	天聖元宝	2.40	0.69	0.69	2.6	銅	1023		北宋
27-8	皇宋通宝	2.44	0.72	0.72	3.1	銅	1039		北宋
27-9	皇宋通宝	2.35	0.74	0.72	2.8	銅	1039		北宋
27-10	皇宋通宝	2.38	0.68	0.67	3.0	銅	1039		北宋
27-11	治平通宝	2.31	0.77	0.77	1.8	銅	1064		北宋　ゆがみあり
27-12	熙寧元宝	2.39	0.71	0.70	3.2	銅	1068		北宋
27-13	熙寧元宝	2.34	0.71	0.70	2.7	銅	1068		北宋
27-14	熙寧元宝	2.31	0.69	0.69	2.6	銅	1068		北宋
27-15	元豊通宝	2.38	0.71	0.70	3.2	銅	1078		北宋
27-16	元豊通宝	2.43	0.76	0.70	2.2	銅	1078		北宋　ゆがみあり
27-17	元豊通宝	2.35	0.71	0.67	2.4	銅	1078		北宋　表背面付着あり
27-18	元豊通宝	2.37	0.70	0.69	2.5	銅	1078		北宋
27-19	元豊通宝	2.47		0.68	2.2	銅	1078		北宋　一部欠損
27-20	元豊通宝	2.31	0.61	0.57	4.2	銅	1078		北宋
27-21	元祐通宝	2.40	0.66	0.70	2.7	銅	1086		北宋
27-22	元祐通宝	2.42	0.70	0.70	2.8	銅	1086		北宋
27-23	元祐通宝	2.41	0.63	0.60	2.8	銅	1086		北宋
27-24	元祐通宝	2.33	0.69	0.65	2.6	銅	1086		北宋
27-25	元祐通宝	2.38	0.71	0.70	2.7	銅	1086		北宋
27-26	聖宋元宝	2.31	0.66	0.66	3.0	銅	1101		北宋
27-27	聖宋元宝	2,35	0.70	0.70	3.1	銅	1101		北宋
28-28	政和通宝	2.45	0.64	0.63	3.1	銅	1111		北宋　表背面付着あり　一部欠損
28-29	政和通宝	2.45			1.2	銅	1111		北宋　1/2欠損
28-30	洪武通宝	2.11	0.58	0.60	1.5	銅	1368		明　ゆがみあり　一部欠損
28-31	洪武通宝	2.28	0.54	0.54	2.7	銅	1368		明
28-32	洪武通宝	2.38	0.62	0.59	3.7	銅	1368		明　表背面付着あり
28-33	永楽通宝	2.46	0.58	0.57	3.6	銅	1408		明
28-34	永楽通宝	2.45	0.57	0.58	2.9	銅	1408		明　表面付着あり　1/3欠損
28-35	寛永通宝	2.53	0.61	0.60	3.6	銅	1636	I	古寛永
28-36	寛永通宝	2.52	0.59	0.59	3.3	銅	1636	I	古寛永
28-37	寛永通宝	2.52	0.62	0.60	3.7	銅	1636	I	古寛永
28-38	寛永通宝	2.52	0.62	0.64	2.8	銅	1636	I	古寛永
28-39	寛永通宝	2.51	0.57	0.59	3.7	銅	1636	I	古寛永　表面付着あり
28-40	寛永通宝	2.49	0.56	0.55	4.7	銅	1636	I	古寛永

No.	銭名	計測値				材質	初鋳年代(西暦)	分類	備考
		外径(cm)	穿(cm)		重さ(g)				
			縦	横					
28-41	寛永通宝	2.49	0.59	0.55	4.0	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-42	寛永通宝	2.48	0.57	0.57	3.2	銅	1636	Ⅰ	古寛永 ゆがみあり
28-43	寛永通宝	2.47	0.60	0.64	3.7	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-44	寛永通宝	2.46	0.58	0.58	3.0	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-45	寛永通宝	2.46	0.60	0.60	3.2	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-46	寛永通宝	2.46	0.60	0.60	4.2	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-47	寛永通宝	2.45	0.57	0.55	3.1	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-48	寛永通宝	2.45	0.58	0.56	3.2	銅	1636	Ⅰ	古寛永 表背面付着あり 分類不能
28-49	寛永通宝	2.45	0.59	0.59	3.6	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-50	寛永通宝	2.44	0.58	0.57	3.7	銅	1636	Ⅰ	古寛永
28-51	寛永通宝	2.44			1.5	銅	1636	Ⅰ	古寛永 1/2欠損
28-52	寛永通宝	2.43	0.54	0.54	3.5	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-53	寛永通宝	2.43	0.57	0.60	2.4	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-54	寛永通宝	2.43	0.60	0.60	3.7	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-55	寛永通宝	2.43	0.62	0.64	3.3	銅	1636	Ⅰ	古寛永 ゆがみあり
29-56	寛永通宝	2.42	0.54	0.53	3.4	銅	1636	Ⅰ	古寛永 背面癒着痕あり 接合
29-57	寛永通宝	2.42	0.55	0.52	2.7	銅	1636	Ⅰ	古寛永 1/3欠損 ゆがみあり
29-58	寛永通宝	2.40	0.55	0.55	2.9	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-59	寛永通宝	2.40	0.59	0.60	2.9	銅	1636	Ⅰ	古寛永 一部欠損
29-60	寛永通宝	2.38	0.54	0.54	4.4	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-61	寛永通宝	2.37	0.53	0.52	2.6	銅	1636	Ⅰ	古寛永 一部欠損
29-62	寛永通宝	2.36	0.57	0.55	2.4	銅	1636	Ⅰ	古寛永 一部欠損
29-63	寛永通宝	2.36	0.64	0.63	2.6	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-64	寛永通宝	2.35	0.55	0.58	3.1	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-65	寛永通宝	2.30	0.65	0.57	3.0	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-66	寛永通宝	2.29	0.58	0.57	3.1	銅	1636	Ⅰ	古寛永
29-67	寛永通宝	2.51	0.75	0.72	3.3	銅	1636	Ⅰ	古寛永？
29-68	寛永通宝	2.52	0.58	0.57	3.7	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-69	寛永通宝	2.54	0.57	0.58	3.8	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-70	寛永通宝	2.54	0.60	0.60	3.7	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文 表面付着
29-71	寛永通宝	2.53	0.58	0.57	3.6	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-72	寛永通宝	2.53	0.53	0.56	3.6	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-73	寛永通宝	2.53	0.57	0.56	3.6	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-74	寛永通宝	2.53	0.59	0.59	3.5	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-75	寛永通宝	2.53	0.61	0.60	3.5	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-76	寛永通宝	2.53	0.61	0.62	3.5	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-77	寛永通宝	2.53	0.58	0.57	3.9	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
29-78	寛永通宝	2.52	0.59	0.60	3.6	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文 表背面付着あり
29-79	寛永通宝	2.52	0.61	0.61	3.2	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
30-80	寛永通宝	2.52	0.58	0.59	4.3	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
30-81	寛永通宝	2.51	0.61	0.59	3.7	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
30-82	寛永通宝	2.51	0.59	0.62	3.3	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
30-83	寛永通宝	2.50	0.65	0.60	3.0	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
30-84	寛永通宝	2.49	0.59	0.57	3.3	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文 一部欠損
30-85	寛永通宝	2.40	0.60	0.61	2.5	銅	1668	Ⅱ	新寛永 背文
30-86	寛永通宝	2.57	0.58	0.59	2.7	銅	1697	Ⅱ？	新寛永
30-87	寛永通宝	2.45	0.58	0.58	3.5	銅	1697	Ⅱ？	新寛永
30-88	寛永通宝	2.42	0.57	0.57	3.0	銅	1697	Ⅱ？	新寛永
30-89	寛永通宝	2.41	0.59	0.61	2.8	銅	1697	Ⅱ？	新寛永
30-90	寛永通宝	2.35	0.62	0.61	2.8	銅	1697	Ⅱ？	新寛永
30-91	寛永通宝	2.40	0.58	0.60	4.0	銅	1697	Ⅲa	新寛永
30-92	寛永通宝	2.32	0.58	0.60	2.5	銅	1697	Ⅲa	新寛永 背面付着あり
30-93	寛永通宝	2.30	0.62	0.66	1.5	銅	1697	Ⅲa	新寛永
30-94	寛永通宝	2.28	0.67	0.64	2.1	銅	1697	Ⅲa	新寛永
30-95	寛永通宝	2.23	0.70	0.61	1.8	銅	1697	Ⅲa	新寛永 ゆがみあり 割れあり

No.	銭名	計測値				材質	初鋳年代(西暦)	分類	備考
		外径(cm)	穿(cm)		重さ(g)				
			縦	横					
30-96	寛永通宝	2.45	0.61	0.65	2.6	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-97	寛永通宝	2.42	0.64	0.64	2.5	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-98	寛永通宝	2.41	0.64	0.65	2.9	銅	1697	Ⅲa？	新寛永 表背面付着あり
30-99	寛永通宝	2.33	0.59	0.60	2.6	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-100	寛永通宝	2.31	0.64	0.62	2.7	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-101	寛永通宝	2.31	0.65	0.67	2.5	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-102	寛永通宝	2.30	0.66	0.66	1.9	銅	1697	Ⅲa？	新寛永 表背面付着あり 一部欠損
30-103	寛永通宝	2.28	0.61	0.61	3.2	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-104	寛永通宝	2.28	0.64	0.66	1.7	銅	1697	Ⅲa?	新寛永
30-105	寛永通宝	2.28	0.63	0.61	2.3	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
30-106	寛永通宝	2.27	0.69	0.72	2.1	銅	1697	Ⅲa？	新寛永 ゆがみあり
31-107	寛永通宝	2.27	0.62	0.62	2.9	銅	1697	Ⅲa？	新寛永 表面付着あり
31-108	寛永通宝	2.26	0.61	0.61	2.4	銅	1697	Ⅲa？	新寛永
31-109	寛永通宝	2.23	0.63	0.60	2.3	銅	1697	Ⅲa？	新寛永 表面付着あり
31-110	寛永通宝	2.43	0.58	0.57	3.2	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ	新寛永
31-111	寛永通宝	2.38	0.61	0.63	3.0	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ	新寛永
31-112	寛永通宝	2.33	0.65	0.63	2.2	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ	新寛永
31-113	寛永通宝	2.29	0.69	0.70	2.2	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ	新寛永
31-114	寛永通宝	2.29	0.68	0.64	2.6	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ	新寛永
31-115	寛永通宝	2.18	0.62	0.65	2.3	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ	新寛永 ゆがみあり
31-116	寛永通宝	2.29	0.60	0.64	2.1	銅	1697	Ⅲa or Ⅴ?	新寛永
31-117	寛永通宝	2.37	0.61	0.62	2.7	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-118	寛永通宝	2.35	0.66	0.67	2.5	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-119	寛永通宝	2.33	0.63	0.64	2.7	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-120	寛永通宝	2.32	0.65	0.63	2.4	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-121	寛永通宝	2.32	0.59	0.58	3.2	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-122	寛永通宝	2.32	0.61	0.61	2.4	銅	1697	Ⅴ	新寛永 一部ゆがみあり
31-123	寛永通宝	2.32	0.64	0.64	2.3	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-124	寛永通宝	2.32	0.64	0.67	2.3	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-125	寛永通宝	2.30	0.72	0.72	2.4	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-126	寛永通宝	2.29	0.65	0.66	2.1	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-127	寛永通宝	2.29	0.64	0.64	3.1	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-128	寛永通宝	2.29	0.65	0.65	2.6	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-129	寛永通宝	2.28	0.63	0.65	2.7	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-130	寛永通宝	2.25	0.65	0.63	1.9	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-131	寛永通宝	2.07	0.69	0.70	1.3	銅	1697	Ⅴ	新寛永
31-132	寛永通宝	2.49	0.57	0.58	4.3	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
31-133	寛永通宝	2.45	0.61	0.63	3.4	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-134	寛永通宝	2.44	0.63	0.64	2.9	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-135	寛永通宝	2.38	0.69	0.66	2.5	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-136	寛永通宝	2.33	0.65	0.64	2.8	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-137	寛永通宝	2.32	0.66	0.65	2.0	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-138	寛永通宝	2.31	0.67	0.68	2.5	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-139	寛永通宝	2.31	0.61	0.62	2.8	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-140	寛永通宝	2.31		0.66	1.5	銅	1697	Ⅴ？	新寛永 1/3欠損
32-141	寛永通宝	2.30	0.66	0.62	2.6	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-142	寛永通宝	2.29	0.63	0.63	2.0	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-143	寛永通宝	2.29	0.64	0.63	3.1	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-144	寛永通宝	2.25	0.71	0.69	2.1	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-145	寛永通宝	2.17	0.64	0.65	1.6	銅	1697	Ⅴ？	新寛永
32-146	寛永通宝	2.45	0.69	0.69	2.3	銅	1697	不明	新寛永
32-147	寛永通宝	2.43	0.69	0.66	2.2	銅	1697	不明	新寛永 ゆがみあり
32-148	寛永通宝	2.43	0.70	0.69	2.3	銅	1697	不明	新寛永 表面付着あり
32-149	寛永通宝	2.42	0.63	0.69	3.4	銅	1697	不明	新寛永
32-150	寛永通宝	2.42	0.61	0.62	3.0	銅	1697	不明	新寛永

No.	銭名	計測値				材質	初鋳年代(西暦)	分類	備考
		外径(cm)	穿(cm)		重さ(g)				
			縦	横					
32-151	寛永通宝	2.41	0.60	0.60	2.4	銅	1697	不明	新寛永
32-152	寛永通宝	2.39	0.62	0.60	2.7	銅	1697	不明	新寛永
32-153	寛永通宝	2.39	0.70	0.68	2.7	銅	1697	不明	新寛永
32-154	寛永通宝	2.38	0.64	0.69	1.8	銅	1697	不明	新寛永 ゆがみあり
32-155	寛永通宝	2.36	0.65	0.61	2.9	銅	1697	不明	新寛永
32-156	寛永通宝	2.36	0.64	0.67	2.2	銅	1697	不明	新寛永 ゆがみあり
32-157	寛永通宝	2.36	0.65	0.64	2.1	銅	1697	不明	新寛永 一部欠損
32-158	寛永通宝	2.36	0.79	0.76	1.3	銅	1697	不明	新寛永 表面付着あり
32-159	寛永通宝	2.35	0.68	0.68	2.1	銅	1697	不明	新寛永 一部欠損
32-160	寛永通宝	2.34	0.66	0.66	2.4	銅	1697	不明	新寛永 ゆがみあり
33-161	寛永通宝	2.32	0.66	0.66	2.7	銅	1697	不明	新寛永 表面付着あり
33-162	寛永通宝	2.29	0.63	0.65	2.6	銅	1697	不明	新寛永
33-163	寛永通宝	2.27	0.66	0.67	2.4	銅	1697	不明	新寛永
33-164	寛永通宝	2.27	0.58	0.59	2.9	銅	1697	不明	新寛永
33-165	寛永通宝	2.26	0.66	0.69	2.2	銅	1697	不明	新寛永 表面付着あり
33-166	寛永通宝	2.25	0.68	0.62	2.4	銅	1697	不明	新寛永
33-167	寛永通宝	2.24	0.67	0.69	2.3	銅	1697	不明	新寛永
33-168	寛永通宝	2.48	0.54	0.55	3.7	銅	1714	(Ⅳ)	新寛永 背佐。享保期？
33-169	寛永通宝	2.47	0.41	0.47	4.8	鉄	1739	(Ⅴ)	新寛永 表背面付着あり
33-170	寛永通宝	2.40	0.59	0.61	3.4	鉄	1739	(Ⅴ)	新寛永 表背面付着あり
33-171	寛永通宝	2.23	0.64	0.56	2.6	鉄	1739	(Ⅴ)	新寛永 表背面付着あり
33-172	寛永通宝	2.43	0.56	0.56	3.4	鉄	1739		新寛永 表背面付着あり
33-173	寛永通宝	2.42			2.4	鉄	1739		新寛永 1/2欠損 表背面付着あり
33-174	寛永通宝	2.38	0.58	0.52	2.4	鉄	1739		新寛永 一部欠損 表背面付着著しい
33-175	寛永通宝	2.31	0.69	0.65	2.9	鉄	1739		新寛永 表背面付着あり
33-176	寛永通宝	2.31	0.64	0.64	1.7	鉄	1739		新寛永 割れあり
33-177	寛永通宝	2.25		0.65	1.1	鉄	1739		新寛永 1/2欠損 表面付着あり
33-178	寛永通宝				0.8	鉄	1739		新寛永 3/4欠損 表背面付着著しい
33-179	寛永通宝	2.47	0.60	0.64	3.1	鉄	1740	Ⅴ	新寛永 背佐
33-180	寛永通宝	2.33	0.60	0.64	1.6	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背元 表面付着あり
33-181	寛永通宝	2.28	0.64	0.65	2.5	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背元
33-182	寛永通宝	2.27	0.64	0.65	1.6	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背元
33-183	寛永通宝	2.27	0.60	0.62	1.9	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背元 表背面付着あり
33-184	寛永通宝	2.25	0.68	0.64	1.7	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背元
33-185	寛永通宝	2.18	0.57	0.58	1.2	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背元
33-186	寛永通宝	2.21	0.64	0.66	1.9	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背足
33-187	寛永通宝	2.31	0.60	0.63	2.6	銅	1741	Ⅴ	新寛永 背足 表面付着あり
33-188	寛永通宝	2.81	0.63	0.61	4.8	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波
33-189	寛永通宝	2.81	0.72	0.70	4.8	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波
33-190	寛永通宝	2.80	0.70	0.73	4.1	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波 表面付着あり
34-191	寛永通宝	2.79	0.66	0.63	2.9	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波 一部欠損
34-192	寛永通宝	2.78	0.63	0.64	2.7	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波
34-193	寛永通宝	2.76	0.74	0.70	2.8	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波 割れあり
34-194	寛永通宝	2.75	0.72	0.71	2.8	真鍮	1769	Ⅵ	新寛永 四文銭 背面11波
34-195	寛永通宝	2.87	0.68	0.64	6.3	鉄	1860	Ⅹ	新寛永 四文銭？ 表背面付着著しい
34-196	寛永通宝	2.49	0.59	0.60	4.0	銅	1697	不能	新寛永 表背面付着あり
34-197	寛永通宝	2.43	0.69	0.67	1.7	銅	1697	不能	新寛永 表面付着あり
34-198	寛永通宝	2.41	0.69	0.71	2.2	銅	1697	不能	新寛永 磨滅著しい
34-199	寛永通宝	2.39	0.61	0.60	2.3	銅	1697	不能	新寛永 表面磨滅
34-200	寛永通宝	2.38	0.71	0.71	2.3	銅	1697	不能	新寛永 表面付着あり
34-201	寛永通宝	2.33	0.65	0.61	2.1	銅	1697	不能	新寛永 表面付着あり
34-202	寛永通宝	2.31	0.64	0.64	2.1	銅	1697	不能	新寛永 表面付着あり
34-203	寛永通宝	2.31	0.56	0.53	4.0	銅	1697	不能	新寛永 一部欠損 表背面付着あり
34-204	寛永通宝	2.30	0.70	0.71	1.6	銅	1697	不能	新寛永 ゆがみあり 表面付着あり
34-205	寛永通宝	2.30	0.61	0.68	2.6	銅	1697	不能	新寛永 表背面付着あり

No.	銭名	計測値				材質	初鋳年代(西暦)	分類	備考
		外径(cm)	穿(cm)		重さ(g)				
			縦	横					
34-206	寛永通宝	2.30	0.64	0.66	1.9	銅	1697	不能	新寛永 ゆがみあり 磨滅著しい
34-207	寛永通宝	2.30	0.61	0.70	2.6	銅	1697	不能	新寛永 表背面付着あり
34-208	寛永通宝	2.28	0.66	0.67	2.3	銅	1697	不能	新寛永 表面付着あり
34-209	寛永通宝	2.27	0.68	0.64	2.8	銅	1697	不能	新寛永 表面付着あり
34-210	寛永通宝				0.5	銅	1697	不能	新寛永 1/2欠損
34-211	宝永通宝	3.75	0.96	0.91	7.1	銅	1708		十文銭 背面「永久世用」か 一部欠損 表背面付着あり
34-212	文久永宝	2.63	0.68	0.70	2.8	銅	1863		四文銭 背面11波 ゆがみあり
34-213	文久永宝	2.67	0.71	0.71	3.6	銅	1863		四文銭 背面11波
34-214	渡来銭?	2.22	0.64	0.64	3.3	銅			
34-215	渡来銭?	2.37			1.4	銅			1/2欠損
35-216	渡来銭?				0.9	銅			2/3欠損
35-217	新寛永?	2.33	0.52	0.53	3.4	銅	1739		表背面付着あり
35-218	新寛永?	2.27	0.67	0.64	2.6	銅	1739		表面磨滅 背面付着あり
35-219	新寛永?	2.42	0.60	0.56	3.7	鉄	1739		表背面付着著しい
35-220	新寛永?	2.54	0.63	0.56	5.4	鉄	1739		表背面付着著しい
35-221	新寛永?	2.48	0.54	0.58	3.0	鉄	1739		一部欠損 表背面付着著しい
35-222	新寛永?	2.39			5.7	鉄	1739		表背面付着著しい 穿測定不可
35-223	新寛永?	2.30	0.62		2.0	鉄			一部欠損 表背面付着著しい
35-224	新寛永?	2.37			2.0	鉄			1/2欠損 表背面付着著しい
35-225	新寛永?				1.6	鉄			2/3欠損 表背面付着著しい
35-226	新寛永?	2.30			3.2	鉄			一部欠損 表背面付着著しい
35-227	新寛永?	2.50		0.47	5.6	鉄			表背面付着著しい
35-228	新寛永?	2.47	0.53		4.4	鉄			1/3欠損 表背面付着著しい
35-229	新寛永?	2.48	0.65	0.64	2.6	鉄			1/4欠損 表背面付着著しい
35-230	不明	2.35			1.8	鉄	不明		一部欠損 表背面はがれあり 円孔か 波状の模様あり
35-231	不明	3.58	0.64	0.71	8.3	鉄			一部欠損 当百銭?

表18 再利用片観察表

図-番号	器種	計測値(cm)			産地	年代	備考
		縦	横	厚			
36-1	擂鉢	3.8	4.0	0.9	志戸呂	15c後半	周縁一部摩耗
36-2	擂鉢	2.75	1.9	0.8	瀬戸・美濃	近世	周縁摩耗
36-3	擂鉢	3.2	3.0	0.7	瀬戸・美濃	近世	周縁摩耗 欠け多い
36-4	擂鉢	3.9	4.0	1.1	瀬戸・美濃	近世	周縁摩耗
36-5	擂鉢	4.85	5.2	1.3	瀬戸・美濃	近世	周縁打ち欠き痕
36-6	擂鉢	2.7	2.8	0.9	不明	近代	周縁打ち欠き痕
36-7	瓦	4.9	4.9	1.6	不明	不明	周縁摩耗

注 色調は、『新版標準土色帖』1987版 農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所 色票監修 による。

報告書抄録

ふりがな	せんげんたいしゃいせき　さん
書名	浅間大社遺跡Ⅲ
副書名	国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	富士宮市文化財調査報告書
シリーズ番号	第46集
編著者名	保竹貴幸、佐野恵里、今井和代
編集機関	富士宮市教育委員会
所在地	〒418-8601　静岡県富士宮市弓沢町150　　TEL0544-22-1187
発行年月日	西暦2013年3月29日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
浅間大社遺跡 (せんげんたいしゃいせき)	富士宮市 (ふじのみやし) 宮町(みやちょう)1－1	22207	市番号 76 県番号 富士宮市 30	35° 13′ 39″	138° 36′ 39″	20120123 ～ 20120308	417㎡	国指定特別天然記念物『湧玉池』再生事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浅間大社遺跡 (湧玉池)	散布、集落、社寺等	弥生時代後期 ～現代		土師器・須恵器・中世国産陶器・貿易陶磁器・近世陶磁器・かわらけ・土器類・石製品・土製品・金属製品・瓦　ほか	初期須恵器の出土 鍋島五寸皿の出土

富士宮市文化財調査報告書　第46集

浅間大社遺跡Ⅲ

―国指定特別天然記念物「湧玉池」再生事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成25年3月29日

編集　富士宮市教育委員会

発行　富士宮市教育委員会

〒418-8601

静岡県富士宮市弓沢町150

(0544) 22-1111(代)

印刷　フジ印刷有限会社

〒418-0004

富士宮市三園平752

(0544) 23-3040

写真図版

写真 1　湧玉池現況

写真 2　湧玉池（明治 23 年頃　写真 : 浅間大社蔵）

写真３　浚渫作業風景

写真４　選別作業風景

写真５　土師器（図５－２）

写真６　須恵器（図５－36・42）

写真７　貿易陶磁器１（図６－29・30・40・41）

写真８　貿易陶磁器２
（図６－32・35・36・33・31・38）

写真９　貿易陶磁器３（染付）

写真 10　肥前磁器皿（鍋島）（図 10－49 ～ 51）

写真 11　かわらけ 1（図 15－11）

写真 12　かわらけ 2（図 15－13）

写真 13　かわらけ 3（図 16－39）

写真 14　かわらけ 4（図 16－60）

写真 15　近世上製かわらけ（図 19－187）

写真 16　近代上製かわらけ（図 19－194）

写真 17　近代器種不明土器（図 19－196）

写真 18　近世陶器皿（図７－５）

写真 19　近世陶器合子蓋（図７－17）

写真 20　近世磁器碗（図９－45）

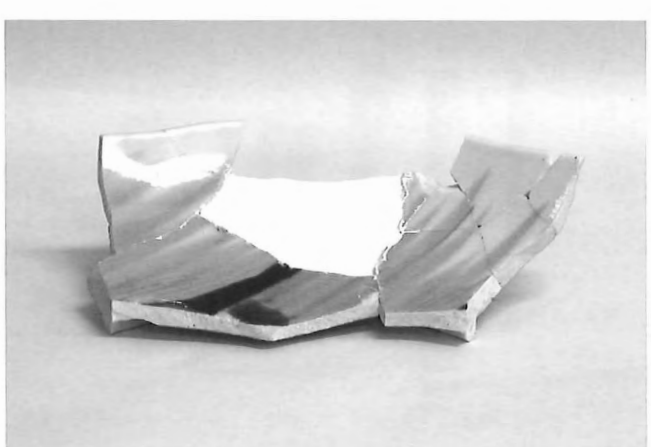


写真 21　近世磁器皿（図 10－58）

写真 22　近世磁器長頸瓶（図 11－61）

写真 23　近世磁器蓋物（図 11－64）

写真 24　近世磁器鉢（図 12－73）

写真 25　土製品（人形・泥面子）

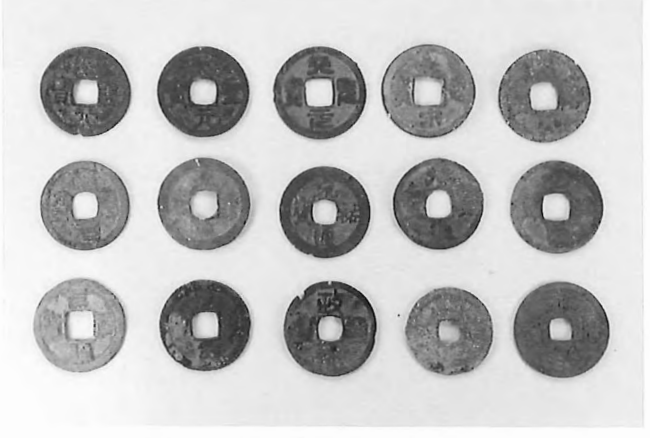


写真 26　銭貨（渡来銭）

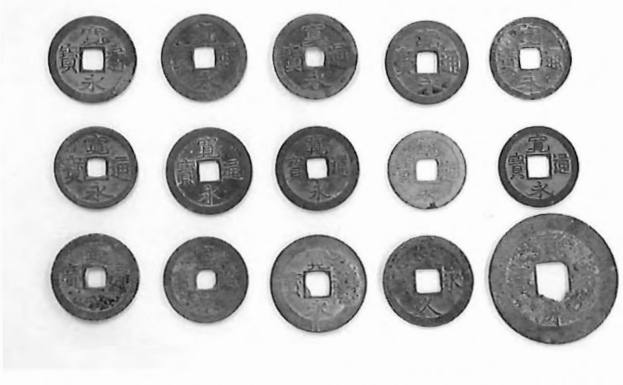


写真 27　銭貨（寛永通宝・文久通宝・宝永通宝）

写真 28　金属製品・石製品